令和6年度
高知県黒潮町における持続可能な観光地への現状・課題調査及び受入環境整備事業

最終報告書

令和7年3月

目次

Ⅰ．事業概要
1.事業概要
1-1.事業目的・・・5
1-2.対象地域・・・5
1-3.事業の方向性と目標・・6
2.事業の流れと実施業務
2-1.持続可能な観光地への現状・課題調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2-2.受入環境整備：黒潮町防災手帳の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
2-3.作業工程・・・14
3.実施体制・・・15

Ⅱ．事業内容
1.持続可能な観光地への現状・課題調査
1-1.現地調査・・19
1-2.デスティネーションプロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
1-3.アセスメントレポート・・43
2.関係者間におけるワークショップの実施及び今後実施すべき対応策の取りまとめ
2-1.関係者間におけるワークショップの実施
2-1-1.ワークショップ①・・47
2-1-2.ワークショップ②・・51
2-1-3.ワークショップ③・・56
2-2.アクションプラン・・64
3.受け入れ環境整備
3-1.現地調査・・67
3-2.黒潮町防災手帳の作成・・・82
4.会議・報告会の実施
4-1.全体フロー・・104
4-2.開始時会議・・105
4-3.中間報告会・・112
4-4.最終報告会・・117
5.本事業の成果
5-1.定量・定性成果・・・123
5-2.総括・・・124

別添
①デスティネーションプロフィール
②アセスメントレポート
③アクションプラン
④防災手帳

Ⅰ.事業概要

1.事業概要

1-1.事業目的

ブッキング・ドットコムが実施した「２０２３年版サステナブル・トラベルに関する調査」によると、世界の旅行者の７６％が「今後一年間において、よりサステナブルに旅行したい」と回答するなど、世界レベルでサステナブル・トラベルへの関心がより高まっており、世界の旅行者を呼び込むためには日本の地域においても対策が必須である。高知県黒潮町は太平洋に面した町であり、南海トラフ巨大地震の際には高さ３４mという日本最大級の津波が想定されている地域である。そのため町では様々な防災対策を実施しており、防災教育とツーリズムを融合させた「防災ツーリズム」にも積極的に取り組んでいる。自然に囲まれた町として、自然の「恵み」と「脅威」という相反する二つの力を理解し、付き合っていくためにサステナブル・トラベルに関心を持っているものの、具体的な取り組みについてはまだ手を付けられていない。そのため、まずは持続可能な観光地に向けた地域の現状、あり方、課題を把握する必要がある。

そこで本事業により、高知県黒潮町において、持続可能な観光地に向けた地域の現状、あり方、課題等に関する調査をJSTS-Dを活用して実施するとともに、インバウンドの受入に繋がるコンテンツ造成等を促し、地域で実践する事業者等の意識醸成を図る。

また、黒潮町を訪れる訪日外国人観光客向けに、黒潮町滞在中に地震が起きた場合に役立つ「黒潮町防災手帳」を作成し受け入れ態勢を整えるとともに、「自分のいのちはまずは自分で守る」という訪問客の意識醸成も図るようにする。

1-2.対象地域

高知県幡多郡黒潮町

1-3.事業の方向性と目標

本事業では日本版持続可能な観光ガイドライン（以下、JSTS-D） の活用により、黒潮町の持続可能な観光地を目指すステージを第1、第2、第3と段階的に分け、中長期の視点で黒潮町のなりたい姿を検討するとともに、本年度事業において、第1ステージと第2ステージの一部に取り組んだ。

第1ステージ

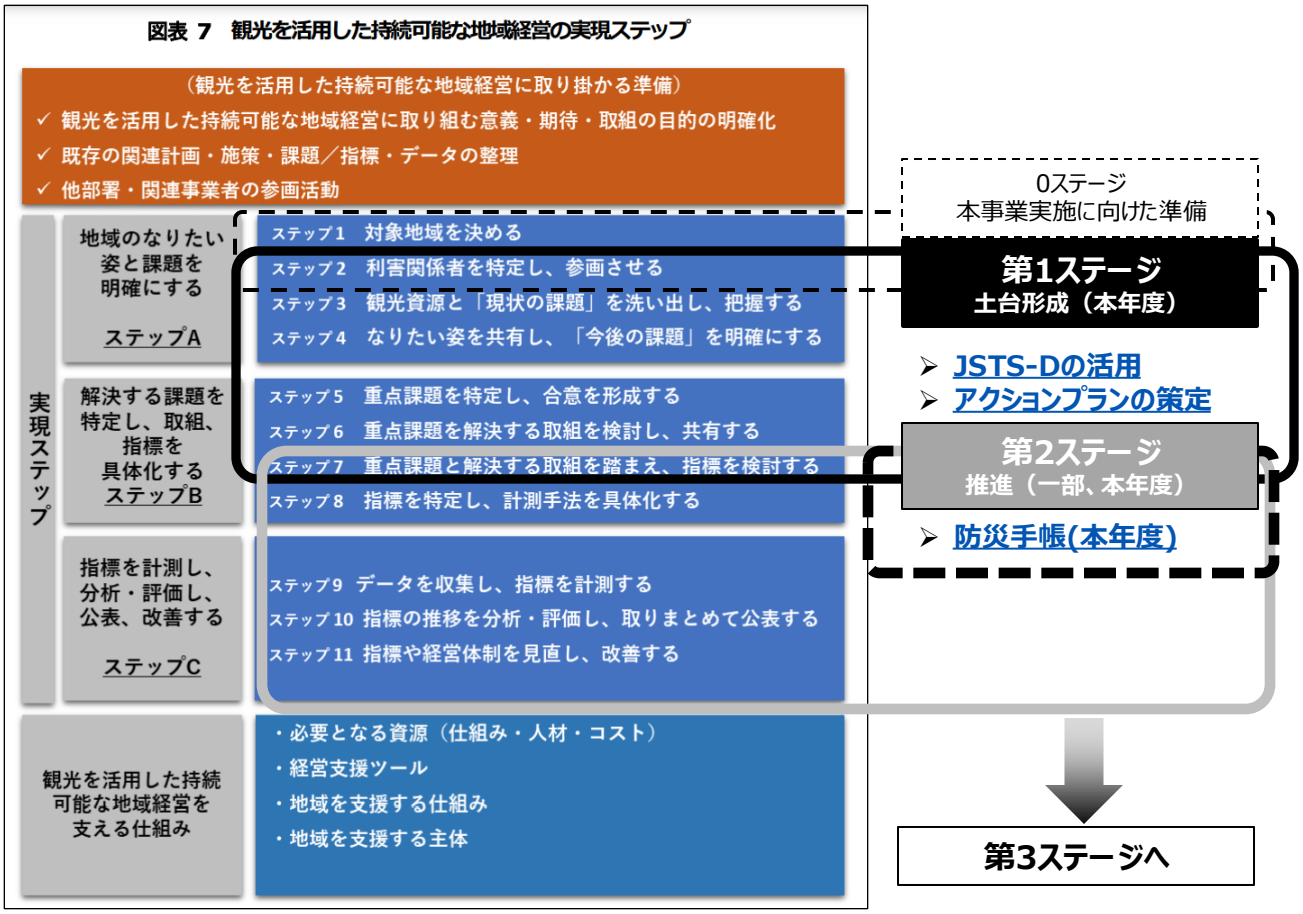
主に防災を中心に、これまでの黒潮町の取り組みを持続可能な観光の観点から客観的に整理し、インバウンド市場のニーズを考慮しながら、将来的な防災と観光の好循環の仕組み（アクションプラン）を描く。

第2ステージ

アクションプランの一つとして、訪日旅行者向けの防災手帳の作成を同時に進める。

対象地域の自立自走による円滑なステップアップを図るため、昨年度事業では「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」(2022年3月 (一社)運輸総合研究所、国連世界観光機構(UNWTO)駐日事務所、観光庁)（以下、「手引き」と記載）が示す手順を活用し、課題抽出やアクションプランの検討を進める（下図参照）。

●本事業範囲と全体ステップ



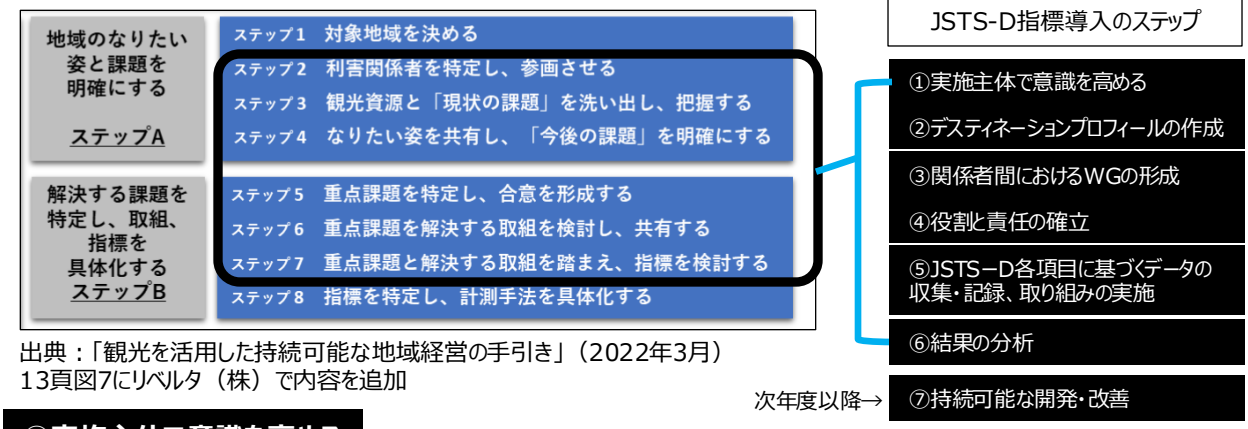
出典：「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」（2022年3月）13頁図7にリベルタ（株）で事業範囲枠を追加

Ⅰ．事業概要

2.事業の流れと実施業務

2-1.持続可能な観光地への現状・課題調査

下図、手引きのステップA-2からB-7を本事業範囲として、2020年6月に観光庁が作成した「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」（以下、JSTS−D）の指標やその導入ステップ（①～⑦）、様式（活用ツール）を用いて自立自走による持続可能な観光地の実現を目指す。 なお、本業務はJSTS-D指標導入のステップ①～⑥までを実施範囲と想定し、JSTS-Dや手引きのステップの順番を踏襲しつつ、一部ステップの順番前後や重複を含めて、より効率的・効果的に各業務を進める。



出典：「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」（2022年3月）
13頁図7にリベルタ（株）で内容を追加

①実施主体で意識を高める

手引きステップA-2 利害関係を特定し、参画させる

7月中下旬

リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ ＊略 幡多広域観協＊略
開始時会議（現地もしくはオンライン）	関係者の選定・調整	
JSTS-D説明		
ワークショップ①（現地）	関係者ヒアリング（現状・課題など）	
情報収集（現地）	課題整理	

- 本事業開始とともに、JSTS-Dの活用についてできるだけ多くの関係者に伝えることに重点を置く。
- 対象自治体・観光関連機関協力のもと関係者の選定・調整に入り、開始時会議への参加を促す。
- 町外オブザーブも含め、本事業への参画者を増やし、地域における持続可能な観光への実現に向けた協力体制の強化に努める。

②デスティネーションプロフィールの作成

手引きステップA-3観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する

7月下旬

リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
デスティネーションプロフィール作成	入力用シート作成	
	入力方法の説明	
	データ入力	
ヒアリング（プロフィール、現状・課題の再確認）		
関係者へ共有		

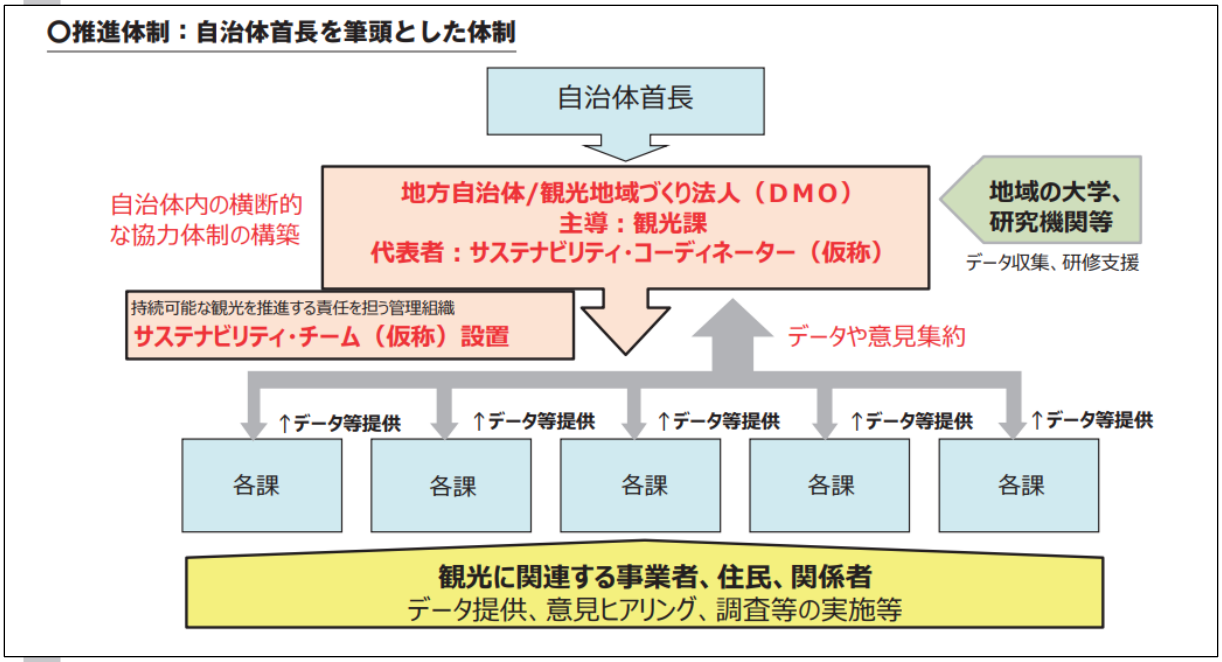
- 観光地（デスティネーション）としてのプロフィールを作成。
- 使用ツール：**JSTS−D（付録2）デスティネーション・プロフィール表の項目**を使用。
  - **・入力用シート（エクセル形式）**：自治体担当者が主体的かつ効率的に作成できるよう、入力箇所を色分けしたシートを使用
  - ・記入例（PDF）：JSTS−D付録2の記入例を参考とし、自治体担当者へ事前送付。
- 引用・参考データ
  - ・自治体：保管データ(総合計画、まち・ひと・しごと創生総合計画、防災計画等）、ホームページ公表データ等
  - ・国・県等関係機関の公表データ（国政調査、環境省自治体排出量カルテ等）
  - ・民間機関の公表データ(必要な場合のみの使用とする)
  - ・自治体担当課・関係者（観光関連機関、観光協会等）ヒアリング
- 作成したプロフィールを関係者間で共有し、関係者が共通認識を持って取組にあたることを目指す。

③関係者間におけるワーキンググループの形成

手引きステップA-2 利害関係を特定し、参画させる

		リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
8月中旬	ワーキンググループ案の作成	推進体制の確認（自治体首長型、リーダー事業者型） 関係者の役割（案）の調整		

- ②デスティネーションプロフィールの作成ならびに現地ヒアリング等の結果をもとに、ワークショップ参加対象者（地域住民、ホテル・旅館、観光ガイド、商工会議所、観光協会、自治体、観光関連機関等の観光に直接関わる関係者）を中心に、できる限り幅広い分野の関係者をワーキンググループメンバーと想定し、推進体制案を作成する。



出典：JSTS-D（2020年6月観光庁）19頁「推進体制（例）」

④役割と責任の確立

手引きステップA-2 利害関係を特定し、参画させる

		リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
9月上旬より	アセスメントレポート作成 ＊ ＊主にステップ⑤⑥（次頁）の位置付け	レポート作成 シート作成 項目評価・データ作成 課題整理	補完	
12月中旬	ワークショップ②（現地）	ワークショップ企画・手配	現状課題の共有・検討	

- ③ワーキンググループ案の構成メンバーについて、主にJSTS-Dのどの項目を担当するのかを明確にし（ステークホルダー分析）、一人一人の責任感を醸成する。
- アセスメントレポート作成までの作業で見えてきた地域課題を整理し、ワークショップ②で共有・意見交換を行い、関係者一人ひとりの意識醸成ならびに役割と責任の確立を目指す。

⑤JSTS－D各項目に基づくデータの収集・記録、取り組みの実施

手引きステップA-3 観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する

	リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
9月上旬より アセスメントレポートの作成	レポート作成ツールの送付		
	項目評価・データ作成		補完

- 実施内容
  ①項目：JSTS－Dの113項目を使用
  ・4分野(マネジメント、社会経済、文化、環境)
  ・項目：大項目10、中項目47、小項目113
- アセスメントレポート作成ツール

手引きステップA-4 なりたい姿を共有し、「今後の課題」を明確にする

手引きステップB-5 重点課題を特定し、合意を形成する

12月中旬 ワークショップ②（現地）	ワークショップ企画・運営		
		現状課題の共有・検討	
レポートの作成			

- ワークショップ②にて現状・課題の共有を行い、関係者間での意見交換を行う。

【実施案】
・開催方法：現地開催（中間報告会と同時開催）
・時間：2時間程度
・内容：説明、グループワーク、発表、参加者アンケート（Googleフォームによる回答）
・共有資料：デスティネーションプロフィールとアセスメントレポート：事前に関係者へ共有し、内容を把握した状態で参加。
・参加対象者：自治体の皆様、観光協会、ＤＭＯ、防災ツーリズムコンテンツの提供者、宿泊施設の方、ガイドの方、地域おこし協力隊、留学生・・・等）
・アンケート項目：グループワークでの気づき（5段階評価・記述回答）、グループ発表からの気づき（5段階評価・記述回答）、ワークショップ全体を通じて良かった点・改善点（記述回答）　等

ワークショップの様子
令和4年度　愛媛県津野町・高知県津野町

No.	内容	担当	所要時間	実施方法
1	全体説明	リベルタ（株）	5分	会場
2	グループワーク1：課題の分類（ロジックツリーによる分類）	各グループ	30分	
3	グループ発表1、意見交換	各グループ	15分	
4	グループワーク2：優先課題となりたい姿	各グループ	45分	
5	グループ発表2、意見交換	各グループ	15分	
6	総括	四国運輸局	10分	

※実施内容は四国運輸局ならびに対象自治体、観光関連機関と協議の上で決定

⑥結果の分析

手引きステップB-6 重点課題を解決する取組を検討し、共有する

		リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
12月上旬	情報収集・分析（他地域の類似事例を含む）	前回ワークショップ②後の情報収集・分析		
2月中旬	ワークショップ③（現地）	ワークショップ企画・運営	アクションプランの検討	参加者アンケートの実施

➢ ワークショップにて現状・課題の共有を行い、関係者間での意見交換を行う。

【実施案】
・開催方法：現地開催
・時間：2時間半程度
・内容：説明、グループワーク、発表、全体討議、参加者アンケート（Googleフォームによる回答）
・共有資料：他地域のアクション事例、導入指標事例：事前に関係者へ共有し、内容を把握した状態で参加。
・参加対象者：ワーキンググループ候補者（自治体、観光関連機関、観光に関わる団体及び事業者等）
・アンケート項目：グループワークでの気づき（5段階評価・記述回答）、グループ発表からの気づき（5段階評価・記述回答）、ワークショップ全体を通じて良かった点・改善点（記述回答）等

No.	内容	担当	所要時間	実施方法
1	全体説明	リベルタ（株）	10分	会場
2	事例紹介（課題解決に向けての取り組み）	リベルタ（株）	30分	
3	グループワーク：アクションプランの検討	各グループ	40分	
4	グループ発表、意見交換	各グループ	20分	
5	全体討議：指標の検討	全体	40分	
6	総括	四国運輸局	10分	

※実施内容は四国運輸局ならびに対象自治体、観光関連機関と協議の上で決定

手引きステップB-7 重点課題と解決する取組を踏まえ、指標を検討する

		リベルタ	黒潮町	黒潮町観ネ 幡多広域観協
12月中旬	レポートの作成	アクションプラン具体案の作成	協議・検討	
	アクションプランの改訂・最終化	改訂案の作成	協議・検討	
		指標の検討		

➢ デスティネーションプロフィール、アセスメントレポート、ワークショップで抽出した重点課題と作成したアクションプラン、レポート内容を総合的に整理・分析する。
➢ 今後実施すべき対応策について、重要度やコスト、実施期間や黒潮町総合計画等との整合性を図りながら、自治体ならびに観光関連機関との協議・検討の上、アクションプランを改定・最終化。
➢ アクションプランの改定・最終化においては、指標についても検討する。
＊ワークショップの実施フローは次頁参照

●ワークショップ②③：課題抽出と分類（ロジックツリー）、優先課題抽出までの実施フロー

ワークショップ②

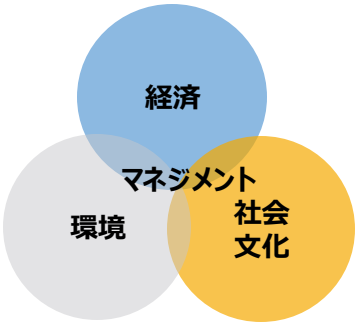
1.地域のなりたい姿

2.課題抽出
（ブレーンストーミング）

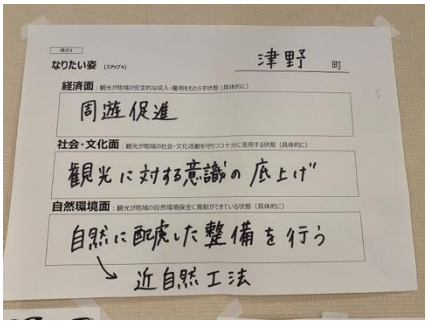
3.課題の分類
（ロジックツリー）

4.JSTS－D指標との照合

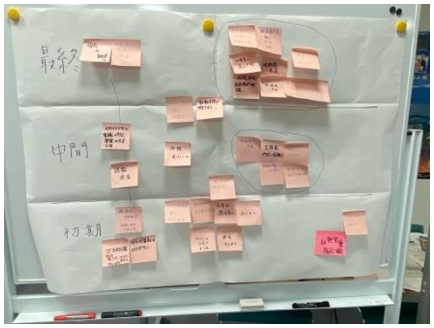
5.優先課題の抽出



課題抽出・分類の例
令和4年度　愛媛県久万高原町(地域連携)



地域のなりたい姿（3領域）の例
令和4年度　高知県津野町(地域連携)



課題分類の例
令和5年度　長野県内（地域連携）

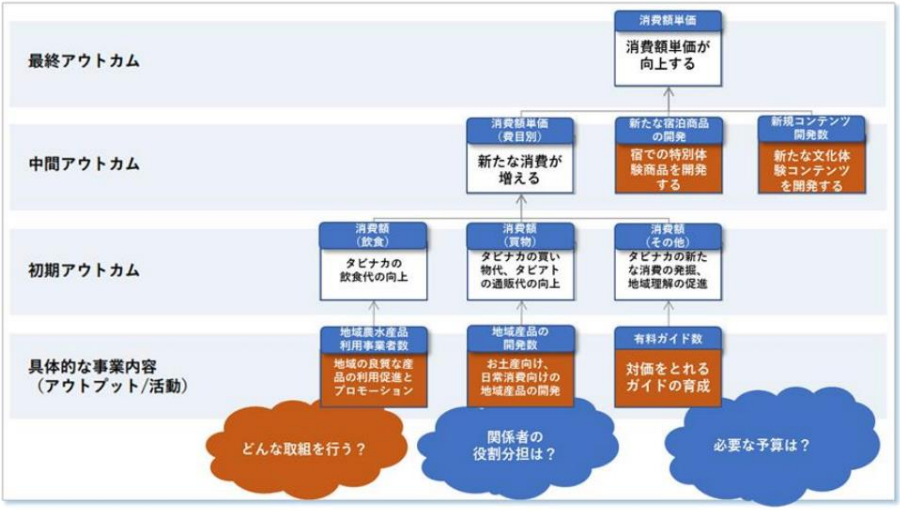
a.重点的に取り組むべき観光地・観光資源の選定

b.選定された観光地・観光資源（a）の実情に関する情報収集・整理

C. 他地域の類似課題・アクション等の収集・整理

ワークショップ③

⑥取組みの検討



出典：「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」（2022年3月）12頁図6

レポート取りまとめ

a.各省庁、高知県等の観光に関する予算等の情報収集

b. コストや重要度、実施期間、実施時期の検討

アクションプランの改訂・最終化

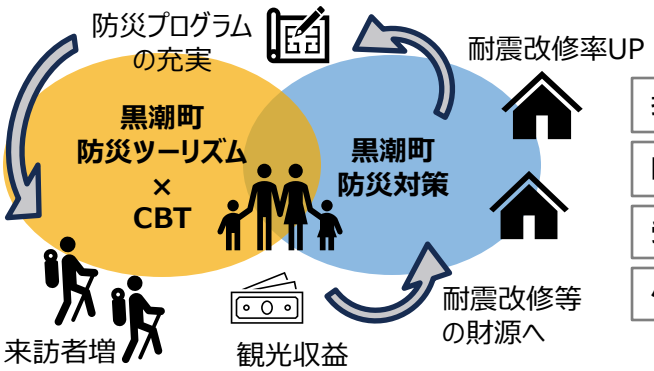
●アクションプランの整理・分析

- ワークショップにおいて集約された情報を確認・分析し、 対象自治体並びに観光関連機関と協議・検討の上、下表の項目でアクションプランを整理する。
- 作業ツール：下記項目を反映し、**アセスメントレポートシートに準じた形式(エクセルデータ)**にて作成。
- 目標（年次・長期）設定：対象自治体担当者と協議の上、必要に応じて設定サポート。

No.	項目		作成・入力		説明
			自治体	リベルタ	
1	JSTS-D大項目		---	○	JSTS-Dの大項目
2	現状・課題		---	○	アセスメントレポート作成時のNo.11項目にワークショップで出た課題を追加、整理する。
3	アクションプラン	方針	○	○	例）地域における雇用創出
		実施内容	○	○	例）インバウンド向けの高原ガイド育成
		実施主体	○	○	例）〇〇ガイド団体
4	優先度	重要度	○	○	3段階評価 3点：既存の計画（総合計画、戦略プラン、観光計画等）に明記され、数値目標や指標も掲げられている。 2点：上記のうち、目標数値や指標がない。 1点：記載がない。
		コスト	○	○	3段階評価（例） 3点：100万円未満で実施可能 2点：100万円以上~1000万円未満で実施可能 1点：1000万円以上 ※自治体の状況により、価格範囲を設定。
		期間	○	---	3段階評価（例） 3点：1年未満に実施可能 2点：1年以上～3年未満で実施可能 1点：3年以上 ※自治体の状況により、期間を設定。
		ニーズ	○	○	3段階評価（例） 3点：ワークショップでの重点指標に加え、住民・事業者からの要望等もある 2点：ワークショップでの重点指標 1点：上記以外
5	KPI		○	△	JSTS-D指標導入のステップ⑦持続可能な開発・改善において、今後、自治体側で活用していく項目。
6	実施時期		○	△	
7	自治体間連携		○	○	自治体が単体で取り組むアクションだけでなく、観光地域として自治体間で連携が必要なアクションについては本項目に記載。 ※連携先の自治体と内容を連動させる。

Point **観光収益を地域の防災対策へ還元する仕組みの検討を柱としたアクションプランづくり**

- 黒潮町における持続可能な観光の第2～第3ステージとして、地方送客を得意とする旅行会社の立場から送客・販売に繋げる取り組みを検討・提案します。



持続可能な観光や防災、CBTを切り口としたターゲットの検討

防災ツーリズムのプログラム等を活用したモニターツアー

受入環境整備の強化（インバウンド向け啓発動画作成　等）

住宅耐震補強の財源への還元

2-2.受入環境整備：黒潮町防災手帳の作成

本事業では、黒潮町の持続可能な観光のあり方を検討し土台形成する（第1ステージ）と同時に 、そのアクションプランの一つとして黒潮町への来訪者の受入環境整備として、防災手帳を作成する（第2ステージ） 。

防災手帳の作成においては「住む人も、来る人も、誰一人取り残さない」の目標を踏まえ、色覚への多様性に配慮するとともに、JSTS-Dへの準拠を基本とする。

目標 **見やすさ** 黒潮町防災手帳の作成における 色覚の多様性に配慮したカラーデザイン	言語対応だけでなく、色覚の個人差を問わずより多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色を心がける。 参考：カラーユニバーサルデザイン機構（略称：CUDO）のカラーユニバーサルデザイン推奨配色セット ver.4 ・文字色：小面積でも見分けやすい高彩度の色 ・ベース（図形オブジェクト、背景等）：広い面積の塗り分けに適した高明度・低中彩度の色

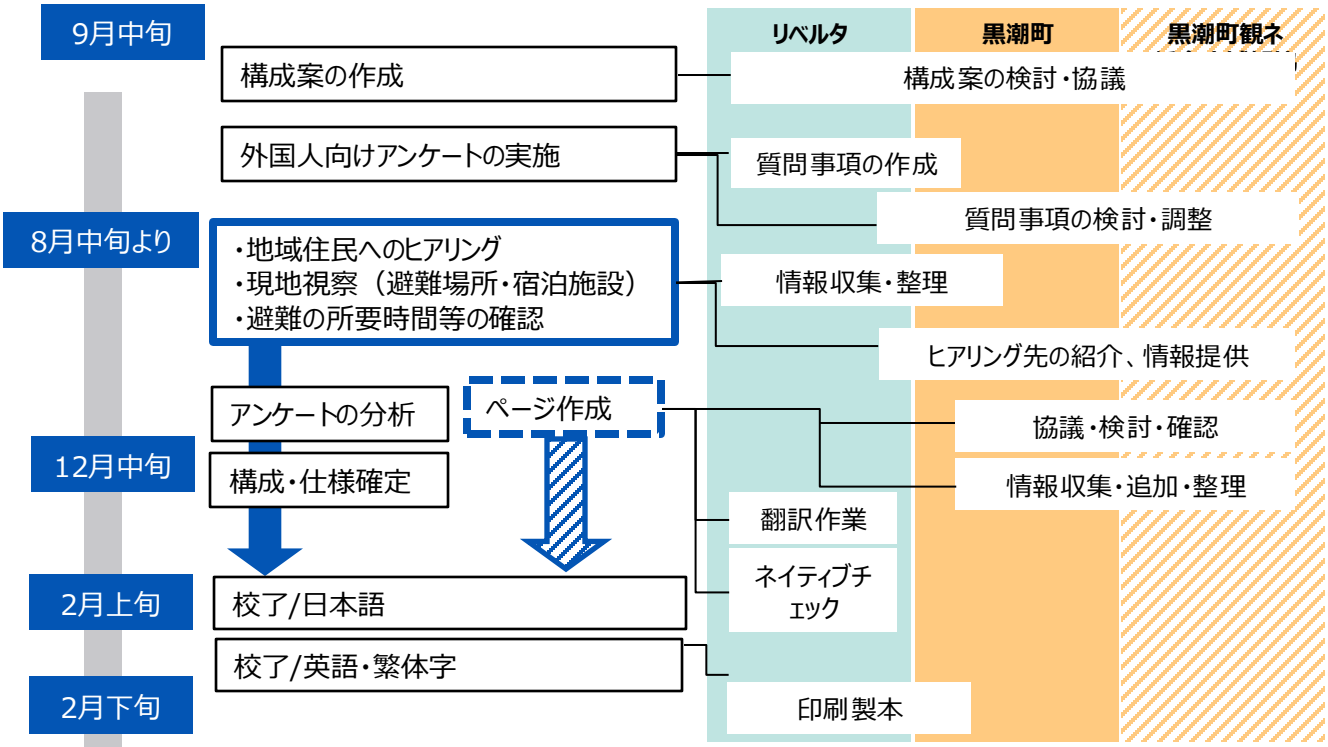
JSTS-Dの113指標のうち、防災手帳作成における重点指標は次の通りである。

●JSTS-D重点指標

A15	危機管理	① 災害等の非常時における計画において、外国人旅行者を含む観光客への対応も含んでいること
		④ 災害等の非常時に備えた事業者、住民等に対する訓練や研修を行っており、旅行者に対しても非常時における行動等について周知・啓発を行っていること
		⑤ 災害等の非常時において正確な情報を伝わる表現で情報発信がなされていること

C8	観光資源の解説	① 解説が、地域のストーリーとして地域住民と協力して作成されていること
		② 解説文は、旅行者に適した言語で伝えられていること

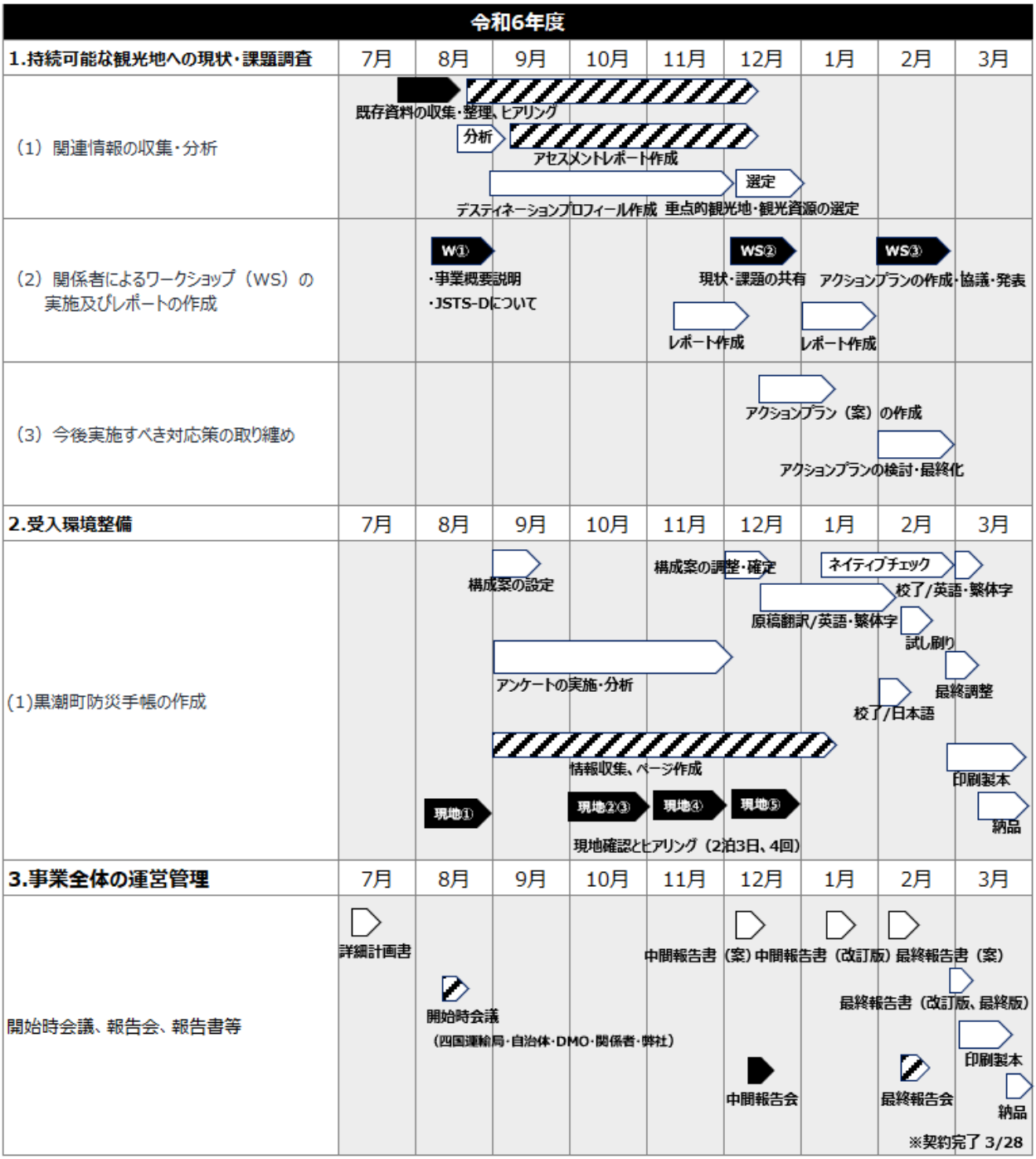
1.防災手帳の作成



- JSTS-D指標「A15　危機管理」に加え、CBTの観点から「C8 観光資源の解説」も重点指標とし、観光ガイドや観光従事者だけでなく地域住民へのヒアリングも丁寧に行い、避難等に必要な情報を整理する。
- 手帳の全体構成や仕様（サイズ、ページ送り、等）については、外国人（英語圏や中国語（繁体字）圏の出身者）を対象とし、具体的には当社顧客や旅行会社スタッフ、日本在住の専門家・・・等）へオンラインアンケートを行い、その結果をもとに最終確定する。

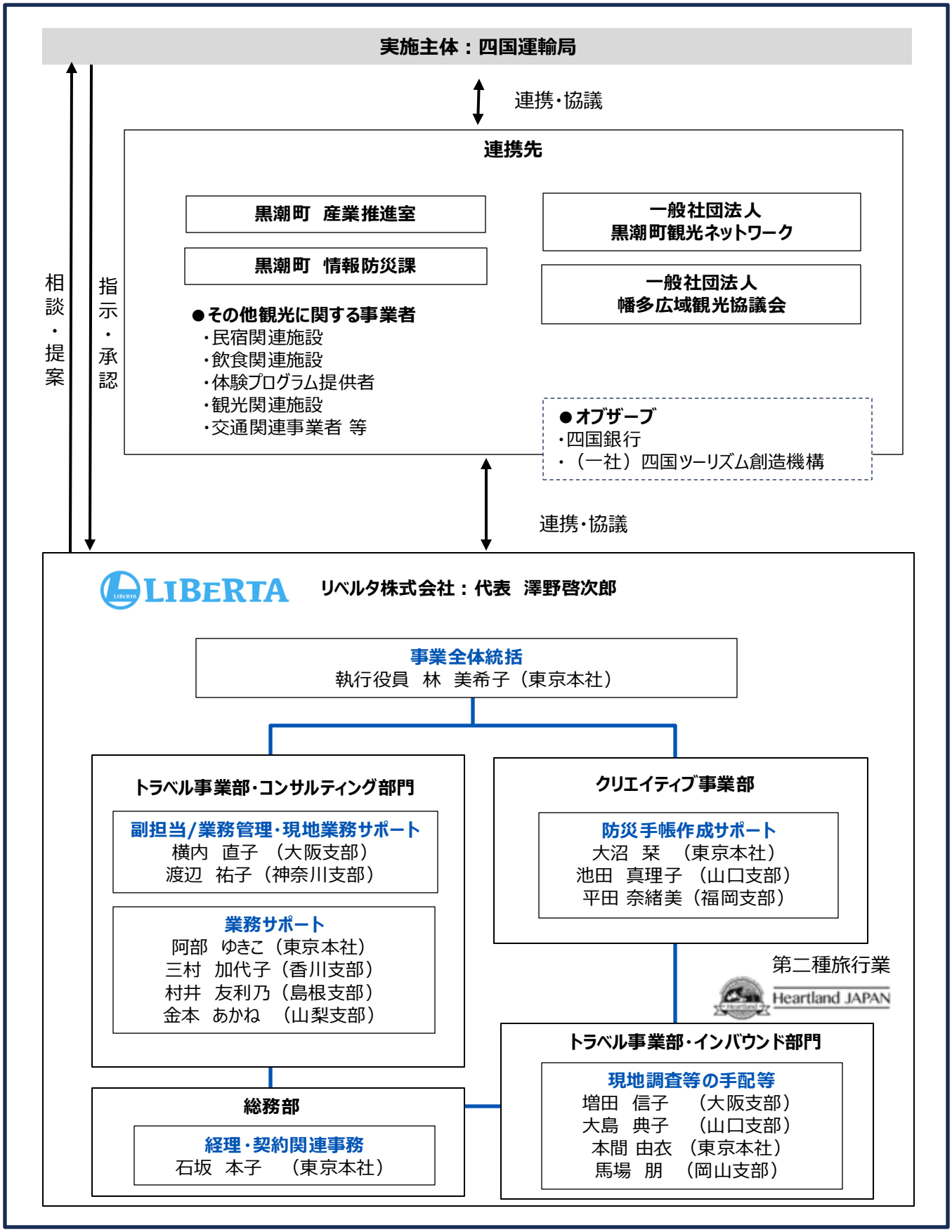
2-3.作業工程

本事業は以下のスケジュールで実施した。



3.実施体制

四国運輸局、ならびに黒潮町や（一社）黒潮町観光ネットワーク、（一社）幡多広域観光協議会との連携を図りながら本事業を実施した。



Ⅱ.事業内容

Ⅱ．事業内容

1.持続可能な観光地への現状・課題調査

1-1.現地調査

(1)調査目的

デスティネーションプロフィール並びにアクションプランの作成に先立ち、黒潮町の観光開発の現状把握や課題抽出及び黒潮町防災手帳作成に係る情報収集を目的とした現地調査を実施した。

(2)調査概要

下記の日程で現地調査を実施した。

【第一回現地調査】

- 日時　　：令和6年8月5日（月）～7日（水）の2泊3日
- 実施方法：現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

所属団体	部課	役職	氏名	備考
1.連携先				
黒潮町役場	産業推進室	観光係　係長	山﨑　裕也	8月5日
黒潮町役場	産業推進室	－	伊東　翼	8月5日
黒潮町役場	情報防災課	消防防災係　主幹	国見　知法	8月5日
黒潮町役場	観光係	黒潮町地域おこし協力隊	西川　太悟	8月5日
黒潮町役場	産業推進室	観光係　地域おこし協力隊	姓納　早岐	8月5日
（一社）黒潮町観光ネットワーク		事務局長	高石　麻子	8月6日
（一社）幡多広域観光協議会		総務部長	東　泰照	8月7日
2.受託事業者				
リベルタ（株）	トラベル事業部	執行役員	林　美希子	
		トラベルコンサルタント	渡辺　祐子	

②現地調査の行程

以下の行程で現地調査を実施した。

日／曜日		時間		内容
		IN	OUT	
8月5日	月	11:00	13:15	高知龍馬空港→黒潮町
		14:10	15:30	黒潮町産業推進室　山﨑氏・情報防災課　国見氏ヒアリング
		15:30	16:30	黒潮町地域おこし協力隊　西川氏・姓納氏ヒアリング
		17:30	--	ゲストハウスまある宿泊
8月6日	火	9:30	11:00	黒潮町観光ネットワーク　高石氏ヒアリング
		13:00	13:30	受付
		13:30	15:30	第一回ワークショップ
		15:30	16:30	開始時会議
		17:30	--	民宿うーみー宿泊
8月7日	水	9:30	11:00	幡多広域観光協議会　東氏ヒアリング
		12:00	13:00	ネスト・ウエストガーデン土佐内レストラン「海にいます」視察
		13:00	15:30	黒潮町→高知龍馬空港
		16:30	--	各自帰路へ

③ヒアリング・視察内容

	黒潮町役場	産業推進室　観光係　係長	山﨑　裕也氏
8/5 （月）	・今年度JSTS-D指標を使用して黒潮町の現状を評価したのち、国際認証の申請を視野に入れてトップ100を狙いたい。 ・黒潮町防災手帳はインバウンドにおける食事制限への対応として、ベジタリアンやハラル対応の飲食店情報なども掲載してはどうか。 ・災害時のパニック対応について、あらゆる属性の人に適用できるよう考えていきたい。 ・津波避難タワーでの宿泊体験や備蓄食料の提供など、実際の災害体験ができるプログラムが用意されている。 ・防災タワーガイド付きツアーは1人500円（込）。収益は備蓄費に充てるため、参加者を増やしていきたい。 ・防災タワーを説明できるガイドは現在少数。参加意向のある住民は4名ほどいるため、人数を確認して対応できるよう確保していく。 ・現在の体験利用者は現状国内のみ。地域全体の受け皿として、視察・一般の収益を備蓄に当てるため、ツアー利用者を拡大する仕組みを考えている。 ・町内は62地区ありハード整備はひと段落したが、予算確保が難しい。備蓄については町民1日分のみの備蓄分しかないのが現状。 ・各家庭の備蓄状況は、水、食料、缶詰、トイレットペーパーなどが主になっているが十分な量ではない。 ・高台に避難できない区画に防災タワーを建設したため、範囲に入る地域は防災タワーに避難する認識はあるが、避難することを諦める高齢者も出てくる可能性がある。 ・黒潮町観光ネットワークの位置付けとして、観光関係はネットワークで運営している。防災タワーに関しては、本来一般観光客向けのツアーだったが、防災という視点から視察研修の受け入れが増えた。 ・宿泊施設における備蓄の確保が十分できていない。そのため、観光収入の一部を備蓄費用に充てる仕組みを検討していきたい。 ・宿泊施設における外国人観光客向けの避難誘導マニュアルや多言語対応がされていないため、受け入れ体制を作る必要がある。 ・現在黒潮町の空き家は約900軒あり（空き家バンクあり）。町が空き家を買い上げて住みたい人へ提案したい。その際は防災地域との兼ね合いも検討していく必要がある。 ・黒潮町はスポーツツーリズムが盛んで、毎年2月、3月は合宿を中心とした受け入れで忙しくなる。逆に5月、6月、9月、10月が閑散期となるため、閑散期を防災ツーリズムで埋め、防災を学んでくれる仕組みを作りたい。 ・ゴルフ場は黒潮町には四国で唯一宿泊と温泉施設が兼ね揃う「土佐ユートピアカントリークラブ」があるため、ゴルフ客にも人気。 ・お遍路については、日本人、台湾系の方が通過するのみ。黒潮町は札所がないため、受け入れたくてもできない。		

③ヒアリング・視察内容

	黒潮町役場	黒潮町地域おこし協力隊	西川　太悟氏 姓納　早岐氏
8/5 （月）	・黒潮町は1家に1台、ラジオも聞ける防災無線機を無料で配布してくれる。 ・避難訓練は年2回、事前に知らされる日程で昼と夜に分けて行われる。防災無線から流れる避難誘導と合わせて津波の効果音も流れ、危機を感じられる避難訓練となっている。町全体で避難訓練があることがすばらしく、現実味を感じられるため、参加する意識が湧いてくる。しかし実際避難してきた参加者統計を出したところ、近年3年で30%という低さのため、まずは避難訓練参加者を50%まで上げていきたい。 ・高齢人口が46%と高めなので、逃げることを諦めないように工夫したい。 ・課題は放送言語。現在は日本語のみとなっているため、対策を考えたい。 ・有事の際の防災無線は、基本的には決まったシナリオを流している。震度４以上になるとJアラートを鳴らし、職員が役場に集合して状況把握をしている間に放送を流すよう工夫しているが、シナリオ以外に必要な項目が出てきた際は状況に応じて対応している。 ・黒潮町役場から備蓄として缶詰がもらえるのがありがたい。地場産業として、備蓄専用の缶詰工場などもある。 ・一般住民が自分の敷地に自身で備蓄をする人もいる（10人くらい避難できるよう準備されている家もある） ・備蓄についてはインバウンドも視野にいれた取り組みが必要。 ・避難場所をQRコードの紙を自ら作成して対応する宿泊施設もあるが、いざという時に落ち着いた対応ができるか不安なところ。案内板や避難マップなどを見せられるようなものがあったらよいと考えている。 ・防災ツアーを本格化したい。例えば宿泊体験。タワーに寝泊まりしてみるツアー・被災体験する（備蓄品も食べる）など。この宿泊体験は商品化・ツアーができたらよいと思っている。 ・宿泊施設全体で宿付きプログラムを作成するのはどうか。 ・宿側の意見として宿単位で防災計画を立てるのではなく、共通でできる具体的なアイデアが欲しい。 ・避難誘導の案内は宿泊施設のみではなく、さまざまな店舗で置いてほしい、同じフォーマットでよいので、ツールを作ってほしい。 ・防災計画は毎年年度末に改訂しているが、現在は観光客向けがない。 ・川の防災も考えなければいけない。 ・避難基準はあるが、住民全員は知らない。 ・56号（道沿い）が寸断されると迂回ルートがないので解決策が必要だと思う。迂回ルートの完成は30年後くらいのため、その間に災害があったら逃げ場がない。 ・ハード面を約2億かけて作成したが、10年以上経って草木に埋もれている、汚れてきているなど、インフラの老朽化が目立つ。 ・ひと目で分かるように、独特の看板作りたい。 ・来年度は洪水ハザードマップも合わせて作成する予定で進めたい。 ・人の鞄を見せてもらうイベント・説明会を避難訓練時に合わせて行っている。 ・ベジタリアン、ハラル対応のレストラン情報を紙面やWEBで発信していきたい。		

③ヒアリング・視察内容

	一般社団法人	黒潮町観光ネットワーク 事務局長	高石　麻子氏
8/6 （火）	・防災ツーリズムは集客交流が見込まれるビジネスイベント。MICEが流行った令和元年にスタート。通年観光を目指す課題対策として防災ツーリズムに切り替えた。 ・観光はコロナ禍などの影響を受けやすく、コロナ禍後は旅行者の観光意識が変わったと思っている。 ・防災ツーリズムのプログラムはコロナ禍で大幅に減少。教育旅行の需要が高まり、一時的に回復したものの、プログラムが一つしかないため現在の総利用者はコロナ禍前の8割以下の水準にとどまっている。教育旅行の自然体験の一環として多様化し、学校用カリキュラムに含まれる状態へもっていきたい。 ・防災ツーリズムの実行は佐賀地区が8割で、防災タワーをどう活用していくかが課題。防災タワーは24時間見学可能だが、車は目の前に駐車できない。車の場合は佐賀図書館に駐車してもらう。 ・スポーツツーリズムは盛んだが、季節による偏りがある。ゴールデンウィークや夏休みなどの繁忙期と閑散期の差が大きい。通年で受け入れられる体制作りが課題。 ・外国人観光客向けのプログラムや多言語対応が不十分。 ・防災マップや防災無線が英語化されていないため、進めたい。 ・基本的には地域住民が主体となり、自主的に防災ツーリズムに取り組んでいる。行政はサポート役に回っている。 ・地域住民主導の取り組みにより、防災意識の向上と地域活性化につながっている。 ・持続可能な観光地づくりのため、国際認証の取得を目指している。 ・現状では備蓄の確保や避難経路の整備など、ハード面での課題がある。 ・観光収入の一部を備蓄費用に充てる仕組みづくりが検討されている。 ・国際認証取得については、県や広域DMOなどと連携し、情報発信や申請手続きを進めており、早ければ今年度中に国際認証の申請を予定したい。 ・黒潮町観光ネットワーク、黒潮町役場、どちらが主体か分からない。DMOが書類関係を手続き申請するのか確認しておきたい。		

③ヒアリング・視察内容

	一般社団法人	幡多広域観光協議会 総務部長	東　泰照氏
8/7 （水）	・SDGsの理念に基づき、環境に配慮した観光商品の開発や、地域社会・経済への貢献を目指す取り組みをしている。 ・商品は水の循環をテーマにした体験プログラムや、海洋生物の保護活動、伝統文化の継承などがあり、周知させていきたい。 ・津波被害のリスクがあることから、防災ツーリズムの推進について考えていきたい。 ・黒潮町では防災の取り組みが進められており、観光客に対する安全対策や防災教育の一環としてツーリズム商品化が検討されている。津波の高さ予測や避難経路の確保、ハザードマップの作成など、具体的な対策について観光協議会でも検討していく。 ・SDGsの理念を取り入れた教育旅行商品の造成については、自然体験やフィールドワーク、地域文化の学習などを通じて、持続可能な社会の実現に向けた意識向上を図る商品が揃っている。 ・事前学習から事後学習までの一貫したプログラムの提供や、行動宣言の作成なども商品の難易度設定や価格設定、教育旅行の規模感などを考慮し、工夫をしている。 ・インバウンド需要は、台湾や欧米豪、東南アジアからの観光客の誘致が課題。多言語対応や文化的な違いへの配慮が必要だと思っている。 ・広域観光ルートの設定や他の観光地域と連携していくのが重要で、インバウンド需要を取り込むための商品開発や受け入れ体制の強化が必要と考えている。 ・この地域は6つの市町村で構成されており、観光振興のためには地域間の連携が不可欠だと思っている。 ・広域的な観光ルートの設定や、観光資源の相互活用が必要。 ・観光協会や旅行会社、事業者などが参加する推進体制の構築や、予算措置、人材確保などが課題のため、推進体制の整備を行う必要がある。 ・隣接する県や地域との連携による観光ルートの設定と、地域間の連携体制も構築していきたい。		

④調査の様子

各家庭に設置されている防災無線機

黒潮町役場 山﨑氏・伊東氏・国見氏・西川氏・姓納氏へのヒアリング

民泊うーみー

黒潮町観光ネットワーク 高石氏へのヒアリング

ネスト・ウエストガーデン土佐視察

第一回ワークショップ、開始時会議の様子

入野海岸

幡多広域観光協議会 東氏へのヒアリング

【第二回現地調査】

■ 日時　　：令和6年10月14日（月）～16日（水）の2泊3日
■ 実施方法：現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

所属団体	部課	役職	氏名	備考
1.連携先				
黒潮町役場	産業推進室	観光係　係長	山﨑　裕也	
(一社)黒潮町観光ネットワーク		事務局長	高石　麻子	
2.受託事業者				
リベルタ（株）	トラベル事業部	執行役員	林　美希子	
		トラベルコンサルタント	渡辺　祐子	

②現地調査の行程

以下の行程で現地調査を実施した。

日／曜日		時間		内容
		IN	OUT	
10月14日	月	11:00	13:15	高知龍馬空港→黒潮町
		14:00	15:30	周辺聞き取り調査（コーナンホームストック 黒潮店、コメリ）
		15:30	16:30	ネスト・ウエストガーデン土佐　東　一志氏ヒアリング
		18:00	--	夜間避難訓練プログラム参加
		19:00		ネスト・ウエストガーデン土佐宿泊
10月15日	火	10:00	13:00	避難経路実踏調査（ネスト・ウエストガーデン土佐間、土佐西南大規模公園、入野防災タワー）
		14:00	15:00	佐賀地区津波避難タワー見学
		15:00	16:00	かかりがま士の会　河内　香氏ヒアリング
		17:00		漁家民宿 おおまち宿泊
		18:30		漁家民宿 おおまち　明神　好久氏・妙子氏ヒアリング
10月16日	水	9:00	10:00	特定非営利活動法人NPO砂浜美術館　観光部 塩崎　草太氏ヒアリング
		12:00	12:30	居酒屋ポコペン 森近　宗弘氏ヒアリング
		13:00	14:00	黒潮町缶詰製作所 友永　公生氏ヒアリング
				黒潮町→高知龍馬空港
			--	各自帰路へ

③ヒアリング・視察内容

	ネスト・ウエストガーデン土佐	フロントチーフ	東　一志氏
10/14 （月）	・海外お遍路の宿泊者はあるが、絶対数は少ない。どちらかというと台湾人が多い。 ・地震があった場合避難に関することを聞かれることがたまにある。 ・8月の地震では海外の人はキャンプ場の予約をキャンセルした方もいた。 ・不安を取り除いていくのも宿の役目である。		

	漁家民宿 おおまち	民宿オーナー	明神　好久氏 明神　妙子氏
10/15 （火）	・民宿は行政からやってみないかとすすめられて始めた。 ・部屋の改修工事や増築などしなくていい、そのままで始められると言われ民宿をしているが、布団を敷ける部屋が1部屋しかないため、泊まれても1組が限界。 ・カツオ漁師なので、美味しいカツオや地元の料理をたくさん食べてほしいので1泊2食付きで宿泊してもらっている。 ・宿泊客は外国人もおり、言葉は相手が片言の日本語やジェスチャーで話してくれる。 ・思い出として、襖にイラストやメッセージを書いてもらっている。 ・今は沢山の旅行者と話ができて、民宿をやってよかったと思っている。		

	特定非営利活動法人NPO 砂浜美術館	観光部　部長	塩崎　草太氏
10/16 （水）	・砂浜美術館は、砂浜美術館を目的に来る人とそれに関連するイベントで来る人がいる。 ・海が近い、津波がある場所ですよという理解のもと、訪れてほしいと思っている。 ・砂浜美術館では防災学習プログラムに取り組んでいるが、南海トラフがあるから防災学習があるわけではない、というところもある。海や川、ホエールウォッチング中なども意識してほしい。 ・キャンプやスポーツ合宿、一般観光客にも避難場所を認知してほしい。		

	居酒屋ポコペン	店主	森近　宗弘氏
10/16 （水）	・今年の8月に起きた地震後は大打撃だった。観光客がいなかった。少しの地震でも影響を受けてしまうのが課題。 ・お遍路のお客様は外国人や中国人のカップルが多い。 ・居酒屋だが、ご飯を食べにレンタカーや地元の人も車で来てる人が多い。 ・外国人のお客様で、ビーガンで肉が食べられない、と言われたことがあるがそのようなメニューを用意していない。 ・英語対応ができないため、外国人にはジェスチャーでやり取りをしている。		

	黒潮町缶詰製作所	取締役・営業担当	友永　公生氏
10/16 （水）	・缶詰ラインナップは増やしている。どんどん増やしていけるものではないので、調整はしている。 ・経済循環を見据えた商品作りを実施したい。 ・現在ANAうまいものチョイス入っているので、もっと宣伝していこうと思っている。 ・海外の方から見て知らない食材はないか意識していきたい。 ・7大アレルギー対応可能で現状はビーガンなしだが、ベジタリアンの方が食べられる缶詰もあり、海外事情を踏まえてビーガン対応もメニューとして1つでも入れていきたい。		

④調査の様子

ネストウエストガーデン土佐の全室に設置されているラジオ

夜間避難訓練は宿のスタッフが誘導

佐賀地区津波避難タワーには各階ごとにメッセージが書かれている

佐賀地区津波避難タワー最上階には備品備蓄が備わっている

かかりがま士の会河内氏ヒアリングの様子

漁家民宿おおまち　襖に書かれたメッセージ

NPO砂浜美術館　塩崎氏ヒアリングの様子

黒潮町缶詰製作所　友永氏ヒアリングの様子

【第三回現地調査】

■ 日時　　：令和6年10月21日（月）～23日（水）の2泊3日
■ 実施方法：現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

所属団体	部課	役職	氏名	備考
1.連携先				
黒潮町役場	産業推進室	観光係　係長	山﨑　裕也	
(一社)黒潮町観光ネットワーク		地域おこし協力隊	滝本　淳平	
2.受託事業者				
リベルタ（株）	トラベル事業部	執行役員	林　美希子	
		トラベルコンサルタント	横内　直子	

②現地調査の行程

以下の行程で現地調査を実施した。

日／曜日		時間		内容
		IN	OUT	
10月21日	月	11:00	13:00	高知龍馬空港→黒潮町
		14:30	15:30	すぎもとファーム　代表　杉本氏ヒアリング
		15:30	16:30	であいの里蜷川　金子氏・松浦氏ヒアリング
		19:00	21:00	黒潮町消防団蜷川分団ヒアリング
				であいの里蜷川　宿泊
10月22日	火	10:00	13:00	周辺聞き取り調査・避難場所実踏等
		13:30	14:30	とりうみ商店にて昼食
		15:00	16:00	とりうみ商店　店主　鳥海氏ヒアリング
				ニュー白浜　宿泊
10月23日	水	9:00	10:00	高知県漁業協同組合 佐賀統括支所 副支長　植野修平氏ヒアリング
		10:00	13:00	周辺聞き取り調査・避難場所実踏等
		13:00	16:00	黒潮町→高知龍馬空港
			--	各自帰路へ

③ヒアリング・視察内容

	すぎもとファーム	代表	杉本憲司氏
10/21 （月）	・季節によって異なる作物を育てている。（冬～春はいちご、夏はグリーンレモン、秋はさつまいも） ・オンラインでも販売している。 ・温暖化の影響で、15年前と比べて気温でいうと5度ほど変化した。これにより、育てられる作物も変わってきている。 ・この変化に対応するためには、作物を変えるか、時期をかえるしかない。 ・蜷川地区の行事は夏祭り、秋祭り、盆踊り。子どもの数が減少しているが、今のところは何とか守っている。		

	であいの里蜷川	宿泊事業部　会長	金子　廣子氏
		集落支援員	松浦　隆太氏
10/21 （月）	・集落活動センターごとに運営をしている。 ・23年続けている。最初は8名で始め、金子氏以外のスタートメンバーは退職した。新たに入った2名と合わせて3名で運営している。全員60代。 ・スタッフが高齢化しているので、若い方に手伝ってもらいたい。 ・最大で53名ほど受け入れ可能。 ・スポーツ合宿の受け入れが増えている。 ・インバウンドのお客さんについて、ルールやマナーで困っていることは特にない。 ・宿泊が確定すると、観光ネットワークからアレルギーシートが送られてくる。 ・津波サミットの際には、ヴィーガンやベジタリアン対応も行った。		

	黒潮町消防団蜷川分団		団員の方々
10/21 （月）	・この消防団は30代から40代のメンバーで構成されている。 ・であいの里蜷川に滞在しながら、農業体験など地元の方と交流できる形の観光がよいのではないか。 ・黒潮町は、他の地域と比べて町民の声が施策に取り入れられやすいと感じている。 ・それぞれが地域に対して考えていることを話し合うワークショップを先日開催した。これから定期的に開催していきたい。 ・地元のお祭りは残っているが、神輿の担ぎ手が減っている。本来、男子のみが担ぐことになっているが、年によっては女子に担いでもらったこともある。		

	とりうみ商店		鳥海　琢也氏 鳥海　奈美氏
10/22 （火）	・店主の奥様が黒潮町出身。東京で働いていたが、数年前に家族でUターンをした。 ・お店を始めるために古民家を探していたところ、知り合いの紹介でこの物件に出会う。 ・店主の奥様のお兄さんも同じくUターンをして、営業日のうち2日はお兄さんのうどんの日となる。 ・インスタグラムを見て来て町外から来てくれる人が多い。 ・ビーガン対応は該当食材を除いて提供。 ・地区のお祭りなど、いつやっているか分からない。 ・町内のイベントなどの情報を集約している媒体がないことが困っている。（町のホームページにも載っていない） ・以前口づてでお祭りがあることを聞き、参加しようとしていたが、中止になっていたことがあった。		

	高知県漁業協同組合 佐賀統括支所	副支長	植野　修平氏
10/23 （水）	・このエリアはつり客が多い。 ・海水浴場ではないが、海がきれいなので時々観光の方もやってくる。 ・佐賀エリアで、過去に船の給油エリアに釣り客が竿を出してトラブルになったことがある。 ・ルールやマナーについては、粗大ごみの不法投棄があった。（冷蔵庫や洗濯機など） ・以前はこの地区でお祭りがあったが、もうなくなった。		

④調査の様子

すぎもとファーム　杉本氏ヒアリング

であいの里蜷川　金子氏・松浦氏ヒアリング

ニュー白浜　客室の様子

とりうみ商店　鳥海夫妻ヒアリング

高知県漁業協同組合　植野氏ヒアリング

浮鞭駅の案内板

佐賀地区津波避難タワー

であいの里蜷川　客室の様子（大部屋）

【第四回現地調査】

- ■ 日時　　：令和6年11月24日（日）～26日（火）の2泊3日
- ■ 実施方法：現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

所属団体	部課	役職	氏名	備考
1.連携先				
黒潮町役場	産業推進室	観光係　係長	山﨑　裕也	
(一社)黒潮町 観光ネットワーク		事務局長	高石　麻子	
幡多広域観光協議会		事務局長	三浦　治	
2.受託事業者				
リベルタ（株）	トラベル事業部	執行役員	林　美希子	
		トラベルコンサルタント	横内　直子	

②現地調査の行程

以下の行程で現地調査を実施した。

日／曜日		時間		内容
		IN	OUT	
11月24日	日	9:30	12:30	高知龍馬空港→黒潮町
		12:30	14:00	周辺調査
		14:30	15:30	道の駅 なぶら土佐佐賀　駅長　明神慶氏ヒアリング
				民宿たかはま　宿泊
11月25日	月	10:00	11:00	土佐くろしお鉄道株式会社　中村線中村駅　総務課長田中氏ヒアリング
		13:00	15:30	GDS TOP100コア指標・Dプロフィール・アセスメントに係る打合せ
		17:30	18:30	缶詰料理プログラム・黒潮の家上原氏ヒアリング
		18:30	19:00	夜間避難訓練プログラム
				黒潮の家　宿泊
11月26日	火	8:30	9:30	ローソン黒潮入野店　店長 冨田氏ヒアリング
		10:00	11:00	道の駅ビオスおおがた　支配人 土居氏ヒアリング
		11:30	12:30	外国人移住者　農家　ギルリィ・デイビット氏ヒアリング
		13:30	16:00	黒潮町→高知龍馬空港
			--	各自帰路へ

③ヒアリング・視察内容

	道の駅 なぶら土佐佐賀	代表取締役社長/駅長	明神　慶氏
11/24 （日）	・海外からの訪問客も多い。 ・施設内の電源を勝手に使うなど、一部マナーの悪い人がいる。 ・レンタカーで来る海外の人もいる。駐車場を使った車中泊はOKとしている。 ・ゴミ箱の利用も認めている。 ・お客さんからの質問で多いのは、宿泊施設、四国全体の地図など。 ・台湾-高松便が就航してから、高松からやってくる人が増えた。 ・ビーガン対応としては、サラダの提供・おにぎりの提供が可能。 ・スポーツ合宿の団体がお弁当を注文してくれる。子どもだけでなく、親御さんも来てくれるので経済効果は大きい。プランの中に子どもたちが使える500円分のお買い物券が入っており、道の駅での買い物に使ってくれている。		

	土佐くろしお鉄道株式会社 中村線中村駅	鉄道部業務課長/中村駅長	岡村　寛史氏
		総務部　総務課長	田中　龍吾氏
11/25 （月）	・海外からのゲストはアジア圏の方、お遍路さんが多い。 ・コミュニケーションの際は、お客さんがアプリで示してくれることが多い。 ・観光客には来てもらいたいが、鉄道会社としてだけでなく地域と連携して実施したい。 ・四万十の花火列車は、30分ほど車内から花火を楽しめる。県内から来られることが多い。		

	黒潮の家		上原　麗氏
11/25 （月）	・海外からのゲストは全体の1割ほど。国内の家族連れの方が多い。 ・初めはゲストハウスにすることを考えていたが、コロナの時期だったこともあり、家のオーナーさんと話し合って1棟貸しという形で始めることになった。結果的に、ゆったり過ごしたいゲストの方が連泊をしながら滞在するような宿になった。 ・最大12人まで受け入れ可能。学生の受け入れも行っている。 ・お遍路さんはあまり来ない。海が近いのでサーフィンをする人が多い。 ・母屋の隣にサウナ小屋があり、宿泊者は利用することができる。軽トラックに積んで移動させることも可能なため、近日中に能登半島にて出張サウナを実施する予定がある。		

③ヒアリング・視察内容

	ローソン黒潮入野店	オーナー	富田　準也氏
11/26 （火）	・海外のお客さんはお遍路さんが多い。割合としてはアジア3割、欧米7割くらい。 ・マナーに関しては、店内で購入した商品を食べながら歩く人がいることが気になる。 ・よく聞かれることは道や商品について。ここに売っていない商品は近くのスーパーを紹介している。 ・クレジットカードで会計をする人が多い。 ・勤務しているのは黒潮町の方と、四万十市の方。		

	道の駅ビオスおおがた	支配人	土居　美香氏
11/26 （火）	・道の駅の英語表記はトイレの案内のみ。レストランは英語・中国語・韓国語のメニューを用意している。 ・ベジタリアンメニューはサラダと塩むすび。 ・スタッフ1名は英語が話せる。 ・以前はバスツアーの団体が来ていたが、コロナ以降減少している。コロナ前と比べるとおよそ半分。 ・コロナ以降バスの大きさも大型から中型・小型になり、道の駅へはトイレ休憩のみで訪れる人も増えたため、観光バスの滞在が大きな売り上げにつながっている訳ではない。 ・バスの中ですぐに食べられるようなものが売れている。 ・スタッフは50～60代が多く、翻訳アプリは使い慣れていない。以前他の事業で翻訳アプリの貸し出しをしてもらったことがあるが、とっさの際はジェスチャーで伝わるので、結局お返しした。		

	外国人移住者		ギルリィ・デイビット氏
11/26 （火）	・在日歴は20年以上。黒潮町には12,13年ほど住んでいる。 ・以前大きな地震が来た際には、弘野（避難場所のある団地）に住んでいた。 ・農業やツアーガイド、サイクリングガイドなどをやっている。 ・観光として、防災避難タワーを活用したツーリズムについていいと思っている。 ・レストランの数が少ない。イベントなどがあると、出店のために飲食店の店舗はお休みになり、イベント後に外でご飯を食べたい人は町外へ行ってしまうのが課題。 ・宿泊施設も少ない。大人数を受け入れることが難しい。 ・黒潮町のサイクリングツアーを作ってはどうか。		

④調査の様子

道の駅 なぶら土佐佐賀　明神氏ヒアリング

民宿たかはま　客室

土佐くろしお鉄道　岡村・田中氏ヒアリング

缶詰製作所の缶詰を使った土鍋料理

夜間避難訓練プログラムの様子

黒潮の家　上原氏ヒアリング

ローソン黒潮入野店　富田氏ヒアリング

外国人移住者　ギルリィ氏ヒアリング

1-2. デスティネーションプロフィール

町の観光地としての地域属性や全体像を明確化し観光分野の基礎情報として共有するため、基本情報データや地理的情報、主な交通アクセス、観光統計などで構成されるデスティネーションプロフィールを作成した。

作成概要	
項目	JSTS−D（付録2）デスティネーションプロフィール表の項目を使用
使用ツール	入力シート（エクセル形式）：自治体担当者が主体的かつ効率的に作成できるよう、入力箇所を色分けしたシートを配布し、入力方法を事前に説明（次頁参照）
自治体担当者	黒潮町　産業推進室 観光係　山﨑　裕也 黒潮町観光ネットワーク　高石　麻子
引用・参考データ	・自治体：保管データ(総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等)、ホームページ公表データ等 ・国・県等関係機関の公表データ（国勢調査、環境省自治体排出量カルテ　等） ・民間機関の公表データ(必要な場合のみの使用とする) ・自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング

【作成手順】

①入力フォームの準備　（リベルタ）

JSTS−D付録2の記入例を参考とし、入力フォームを作成し、自治体とDMO担当者へ事前送付

②データ入力　（自治体・DMO担当者）

各自治体で把握しているデータ及び関係課へのヒアリング等により、わかる限りのデータをフォームに入力する

③内容・根拠確認　（自治体・DMO担当者、リベルタ）

データの内容・出典等の根拠資料の確認

④全体像の把握・共有　（リベルタ）

関係者へ共有する

⑤本事業後も、自治体側で適宜データ更新

デスティネーションプロフィールの入力用シート

Ⅱ．業務内容

自治体・DMO担当者側に必要データを入力してもらい、分析の根拠とした。

自治体コード： 394289 *6桁の番号

ディスティネーション・プロフィール

最終更新日：2024/12/26

組織概要

ディスティネーション名	黒潮町	ディスティネーションタイプ	都市　歴史文化　(自然)　温泉　リゾート
代表住所	高知県幡多郡黒潮町入野5893番地	代表電話番号	0880-43-2111

地理的情報

所属する地方自治体の名称		黒潮町				DMOの名称・設置年	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク			設置年	2020 年
人口	10,262 人	面積	188.46 km²		人口密度	54.50 人/km²	旧町別人口	旧大方町：7,333人、旧佐賀町：2,929人			
土地利用状況	農用地	8	%	森林	46 %	原野	1 %	水面・河川・水路	24 %		
	道路	1	%	宅地	2 %	その他	18 %				
特徴的な自然環境		(海)・山（高山・低山）・川・平原・その他					海抜高度	【平均】 未算出 【最大】 確認中 【主要観光地点】道の駅なぶら土佐佐賀 7.6m、道の駅ビオスおおがた情報館 5.5m 土佐入野駅 2.9m			
気象	年間降水量(*1)	2621.5 mm					降水日数(*2)	93 日			
	最暖月平均気温(*1)	27.2 ℃		8 月			最寒月平均気温(*1)	6.5 ℃		1 月	
観光の目玉		砂浜美術館、Tシャツアート展、観光防災プログラム									

環境		社会		経済	
年間CO2 排出量 (D12)(*3)	6.6 tco2/年	サスティナビリティ・コーディネーター (A2)	(有)・無	地域経済循環分析 (B1)	有 (無)　実施年 － 年
環境負荷の少ない交通の利用プログラム (D13)		ステークホルダー・ワーキンググループ (A2)	(有)・無		手段：RESAS / EMCalc / その他（　）
(有)無	徒歩・自転車・その他（　）	景観保全条例・計画 (C1)	(有)・無	宿泊客平均観光消費額 (B1)	黒潮町：16,204円/人

交通

主要な鉄道駅	土佐くろしお鉄道中村線　土佐入野駅	最寄りの国内空港（航空会社）	高知龍馬空港（ANA、JAL、FDA）
バス運行会社	㈱四万十交通・高知西南交通㈱	最寄りの国際空港	大阪国際空港（伊丹空港）、関西国際空港
主要タクシー乗り場	駅から直線距離で300m	フェリー・船舶乗り場（クルーズ会社）	八幡浜港（フェリー）・宿毛新港（クルーズ）

観光

宿泊業・飲食サービス業雇用者数 (B1)		2021年／313人											
月別観光客推計（人）(A11)	R5年 (2023)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	入込客数	1,300	2,511	3,629	1,173	1,625	712	2,760	4,340	1,573	1,661	1,285	1,463

年別延べ宿泊数（人）(A11)	(直近5年)	2019(H31)年	2020(R2)年	2021(R3)年	2022(R4)年	2023(R5)年
	宿泊数	24,085	13,147	15,899	18,925	24,042
	国内	23,981	13,142	15,894	18,913	24,031
	外国人	104	5	5	12	11

観光客の主要な来訪目的（A11）

スポーツ合宿、砂浜美術館、Tシャツアート展、ホエールウォッチング、お遍路、観光防災プログラム

外国人宿泊客の主な国（上位５カ国）(A11)	R5年 (2023)	国名	フランス	アメリカ	中国	台湾		その他
		宿泊数						
		構成比						

主な宿泊施設収容力 (A11)	R5年 (2023)	種別	ホテル	民宿	ゲストハウス	民泊
		軒数	2軒	9軒	6軒	1軒
		定員	150	216	60	10

※ 各欄に記載されている（D12）、（A2）等の標記は、「日本版持続可能な観光ガイドライン（ＪＳＴＳ－Ｄ）」の項目番号を示す。

(*1) 黒潮町入野 観測所による測定結果
(*2) 高知県統計データ：令和4年年間降水日数（観測地点・宿毛）
(*3) データ元：黒潮町地球温暖化対策実行計画区域施策編

黒潮町のデスティネーションプロフィールのポイントは下記の通り。デスティネーションプロフィール全体及びデスティネーションプロフィール作成根拠のリストは末尾別添「デスティネーションプロフィール」参照。

①経済

・地域経済循環分析：高知大において分析がなされているが、最新データがない。また分析データの把握や活用が十分でない。

経 済				
地域経済循環分析（B１）	有 (無)	実施年	－	年
	手段：RESAS / EMCalc / その他（　　）			

・宿泊客平均観光消費額：黒潮町の宿泊客平均観光消費額は令和5年度実績で16,204円。

宿泊客 平均観光消費額 （B１）	黒潮町：16,204円/人

②月別観光客数

2月、3月、8月が比較的多く、6月が少ないが、スポーツ合宿や夏季の一般観光客、観光防災プログラムの受け入れ等、計画的に観光客の季節分散化に取り組んでいる。

月別 観光客推計 （人） (A11)	R5年 （2023）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	入込客数	1,300	2,511	3,629	1,173	1,625	712	2,760	4,340	1,573	1,661	1,285	1,463

③観光資源

スポーツ合宿の大きな入り込みを主力としつつ、砂浜美術館やホエールウォッチング等の自然資源、お遍路や観光防災等の文化的資源など、多様な観光資源を有する。

観光客の主要な来訪目的（A11）
スポーツ合宿、砂浜美術館、Tシャツアート展、ホエールウォッチング、お遍路、観光防災プログラム

④外国人宿泊客の主な国

国別のデータを収集できていないため、今後のデータ収集が必要不可欠である。

外国人宿泊客の主な国 （上位５カ国）（A11）	R5年 （2023）	国名	フランス	アメリカ	中国	台湾		その他
		宿泊数						
		構成比						

⑤持続可能な観光に関する研修やセミナーの実施状況

2019年より、持続可能な観光に関するセミナーの主催や専任スタッフ育成などに取り組んでおり、しっかりと取り組み状況が記録されている。

持続可能性／持続可能な観光に関する研修・セミナーの記録

年	月・日	研修名と主な内容	参加者数	主催区分	主催者情報
2019	5月29日	食品衛生勉強会 及び 観光客受入の取組について	20	DMO	すなび候補法人
2019	12月3日	外国人観光客受入研修　Wi-Fi整備・キャッシュレス・決済方法についての勉強会	18	DMO	すなび候補法人
2020	1月27日	Grow With Google「いますぐはじめる観光のデジタル化」勉強会	13	DMO	すなび候補法人
2020	2月3日	『DMOによる観光地域経営』 勉強会	28	DMO	すなび候補法人
2020	6月4日	宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン勉強会 及び 観光客受入の商品造成について	20	DMO	すなびDMO
2020	11月11日	ワーケーションについての勉強会	10	DMO	すなびDMO
2021	2月25日	体験プログラム安全管理マニュアル作成についての勉強会	11	DMO	すなびDMOと合同開催
2021	11月26日	「経営に役立つ省エネ」についての勉強会	9	DMO	すなびDMOと合同開催
2023	2月20日	インバウンドの食（ビーガンやベジタリアン）」についての勉強会	16	DMO	すなびDMOからの移行期間（NWDMO登録申請）
2024	8/19-21	GSTCサスティナブルツーリズム研修	30	広域DMO	四国ツーリズム創造機構 (四国持続可能な観光推進ネットワーク)
2025	1/20 (予定)	仮）バリアフリー観光について	未実施	DMO	NWDMO
2025	2/4 (予定)	地域におけるつながる経済「ディスティネーションﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄについての勉強会	未実施	DMO	NWDMO

1 ページ

1-3．アセスメントレポート

(1)作成概要

前項1-2で作成したデスティネーションプロフィールを含む収集した既存資料やデータ等及び事業対象自治体からのヒアリングをもとに、アセスメントレポートを作成した。アセスメントレポートは、JSTS-Dに記載されている指標活用要領に基づいて作成し、チェックシートとしてJSTS-Dの各項目を確認することで、最小限の作業量で地域の自己分析を行うことを目的とし、自治体担当者が主体的かつ効率的に作成しつつ、相対的な現況把握ならびにアクションプランの検討・精査を行えるよう作成した。

<table>
<tr><th colspan="2">作成概要</th></tr>
<tr><td>項目</td><td>JSTS−Dの113項目（下表参照）を使用
・4分野(マネジメント、社会経済、文化、環境)
・項目：大項目10、中項目47、小項目113
<table>
<tr><th>分野</th><th>大項目</th><th>中項目</th><th>指標数</th></tr>
<tr><td>4</td><td>10</td><td>47</td><td>113</td></tr>
<tr><td rowspan="3">A:持続可能なマネジメント</td><td>(a) マネジメントの組織と枠組み</td><td>4</td><td>12</td></tr>
<tr><td>(b) ステークホルダーの参画</td><td>6</td><td>12</td></tr>
<tr><td>(c) 負荷と変化の管理</td><td>6</td><td>17</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B:社会経済のサステナビリティ</td><td>(a) 地域経済への貢献</td><td>3</td><td>8</td></tr>
<tr><td>(b) 社会福祉と負荷</td><td>5</td><td>16</td></tr>
<tr><td rowspan="2">C:文化的サステナビリティ</td><td>(a) 文化遺産の保護</td><td>5</td><td>8</td></tr>
<tr><td>(b) 文化的場所への訪問</td><td>3</td><td>11</td></tr>
<tr><td rowspan="3">D:環境のサステナビリティ</td><td>(a) 自然遺産の保全</td><td>6</td><td>14</td></tr>
<tr><td>(b) 資源のマネジメント</td><td>3</td><td>5</td></tr>
<tr><td>(c) 廃棄物と排出量の管理</td><td>6</td><td>10</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>使用ツール</td><td>入力シート（エクセル形式）：JSTS−D 項目をもとに本事業に沿った形で項目を追加。</td></tr>
<tr><td>黒潮町側の担当者</td><td>黒潮町　黒潮町　産業推進室観光係　観光係長　山﨑　裕也
一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク　事務局長　高石　麻子</td></tr>
<tr><td>引用・参考データ</td><td>・自治体：保管データ(総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等）、ホームページ公表データ等
・国・県等関係機関の公表データ（国勢調査、環境省自治体排出量カルテ等）
・民間機関の公表データ(必要な場合のみの使用とする)
・自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング</td></tr>
</table>

【作成手順】

①入力フォームの準備　（リベルタ）

JSTS−Dの各項目をチェックシートとして活用するため、入力シートを作成し、自治体側の担当者へ事前送付

②データ入力　（自治体・DMO担当者）

各自治体で把握しているデータおよび関係課へのヒアリング等により分かる限りのデータをフォームに入力する

③内容・根拠確認　（自治体・DMO担当者、リベルタ）

データの内容・出典等の根拠資料の確認・提案および優先度の検討

④全体像の把握・共有　（リベルタ）

アセスメントレポートから各町の全体像を把握し、関係者へ共有

(2)アセスメントレポート項目内容

様式　既存フォーマットの項目　　転記　JSTS-Dより転記する項目　　追加　追加項目

No.	項目	区分	作成・入力		説明
			自治体	リベルタ	
1	大項目	様式	---	---	JSTS-Dの大項目
2	大項目の説明（JSTS-D本文）	転記	---	○	JSTS-Dより、大項目の補足説明を転記。 目的：作業の効率化
3	小項目	様式	---	---	JSTS-Dの小項目
4	判断基準	追加	---	○	「3.小項目」の実施状況について、「6.取組の状況」の判断基準を追加。 目的：自治体担当者が主体となって作成する際、相対的な判断をするため。
5	JSTS－D参考資料	転記	○	---	JSTS-D の参考資料を転記。 目的：作業の効率化
6	取組の状況	様式	○	---	取り組み状況を6項目より選択。 ・ない/いいえ ・今後準備する予定 ・現在準備中 ・ある ・更新し適切に実施 ・不明 選択項目により0点～5点に自動換算される。
7	取組内容・スコア判断基準	様式	○	---	自治体の取り組み状況とスコア判断根拠を記載。
8	データ（参考資料やデータ名とURL）	様式	○	---	「6.取組の状況」「7.取組の内容」の参考資料やデータ名、URL等を記載。
9	備考	様式	○	---	特記事項があれば記載。
10	現状・課題	追加	○	---	「7.取組の内容」の回答における現状・課題(達成・未達成の取組内容等)を記載。 目的：「7.取組の内容」の内容精査、現況・課題の把握
11	対応策	追加	○	○	「１０.現状・課題」の客観的な対応策を記載（アクションプランではない）。 目的：「6.取組の状況」の改善・解決のための取り組み、考え方等。
12	関連する課題	追加	---	○	現地調査での抽出課題で各項目に関連するものを記載。
13	JSTS－D関連項目	転記	---	○	「3.小項目」に関連するJSTS-Dの大項目を転記。
14	優先度	追加	○	○	アクションプランの検討に際し、優先的に取り組むべき項目かの判断材料とする。 （基本4項目） ①基礎項目：カテゴリー小や大項目を達成するための基礎的な取組 ②住民の満足度や安全に関わる項目：経済、福祉、安全等 ③旅行者の満足度や安全に関わる項目： **④影響度：取り組むことにより、他への影響・波及効果が期待できる（GD TOP100やアワード）** 0：低い/基本4項目のいずれも該当しない場合。 1：やや低い/基本4項目のうち、1項目に該当。 2：どちらでもない/基本4項目のうち、2項目に該当。 3：やや高い/基本4項目のうち、3項目に該当。 4：高い/基本4項目のうち、4項目に該当。 5：非常に高い/基本4項目のうち、4項目に該当。**かつ「影響度」に該当する為＋1加点** ※No.6の評価結果との連動による評価ではなく、実施状況が良好でも優先度評価も高くなる場合もある。 →既に取り組んでいるが強化が必要
15	優先度の事由	追加	○	○	「14.優先度」の判断事由を記載。

ステップ1　データ作成

ステップ2　確認・検討・提案

（3）取組み状況まとめ

JSTS-Dの基準の各項目について、現在の取組状況を確認・分析するため、「アセスメントレポート　項目６．取組の状況」について、4分野113項目の「5段階評価」を点数換算し、検証を行った。

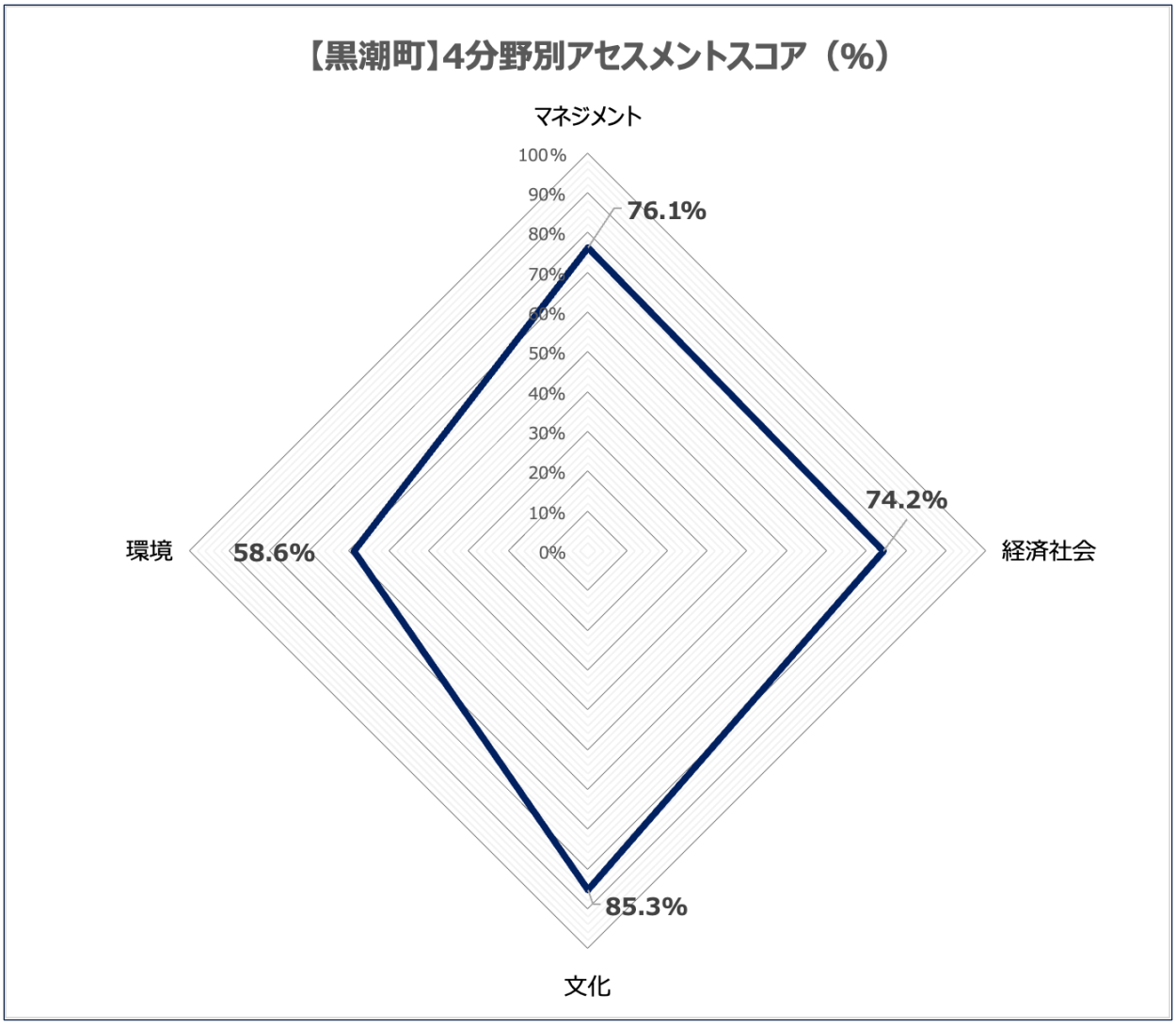
【判定基準と点数】

更新し適切に実施	5点
ある	4点
現在準備中	3点
今後準備予定	2点
ない/いいえ	1点
不明	0点

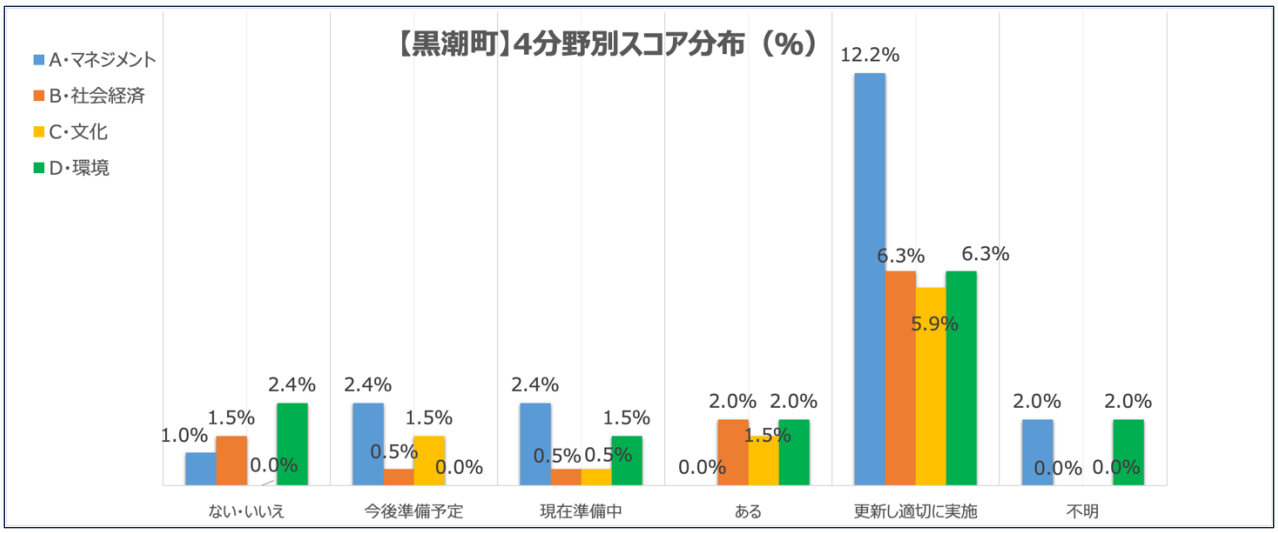
黒潮町のスコア・達成度

分野		合計	最高スコア	達成度
A	マネジメント	**152**	205	74.1%
B	経済社会	**89**	120	74.2%
C	文化	**81**	95	85.3%
D	環境	**95**	145	65.5%
合計		**417**	565	73.8%

合計スコアは417ポイント（達成度73.8%）と、概ね取組みが確認できる状況であった（上図）。
また、4分野別での達成度においても全体的に達成度が高いことが確認できた（下図）。今後、持続可能な観光地の国際認証（GDアワード）等を目指す際の最初の判断基準が全体の60%達成であることを踏まえると、現状の取組み状況は良好であるといえる。



4分野別の取組み状況のスコア分布は、「文化」「マネジメント」「社会経済」「環境」の順に高い状況であった。（下図）。主に「社会経済」「観光」分野については今回のアセスメントレポート作成を担う観光担当部署以外の領域となるため、項目によって「不明（0点）」が見られたことがスコアに影響している。



（4）現状と課題

✓ 観光資源が良好に活用されている

黒潮町は、町内関係者によって組織される（一社）黒潮町観光ネットワーク（DMO）やNPO砂浜美術館との連携体制により観光振興に取組んでおり、大分類としては「スポーツツーリズム」「防災ツーリズム」「エコツーリズム」を柱とする黒潮町らしいストーリーに紐づけられた観光プログラムが企画・開発・催行されている。

✓ 観光客向けの防災対策のより一層の強化が求められる

自然の恵みと災いの二面性を理解し、向き合う黒潮町の暮らしそのものが文化的資源、自然環境資源となっており、うまく活用できている一方で、観光客への防災対策（受入体制）については避難誘導や多言語対応、情報発信等の課題が見られた。

✓ 持続可能な観光における指標（JSTS-DやGSTC）の導入

今後の観光振興における土台に持続可能な観光の推進を位置付け、具体的なアクションとして令和6年度にはJSTS-D指標による現状把握調査（本事業）の実施。また、翌7年度にかけてJSTS-Dのロゴ使用申請や世界の持続可能な観光地Top100選（Green Destinations Top100 stories)エントリーを目指している。その過程で必要となるのが今回のアセスメントレポートだが、主に町の観光に関するデータ収集不足や業務実施報告（レポート）の未整備、観光に関する地域住民の満足度の未把握、関係部署・関係者間での情報共有や情報公開が不十分等の課題が明確に抽出できた。

【今後の方向性】

- **連携強化**：観光、防災、教育や環境関係の担当部署、地域住民の参画による、より一層の連携強化、データ収集、保管、公表のプロセス構築
- **観光における危機管理体制の強化**：客向けの受入体制強化（情報整備、防災手帳の活用、観光防災プログラムの拡大　等）
- **環境的・文化的貢献**：責任ある観光（レスポンシブル・ツーリズム）の推進、来訪者向けマナー整備、自転車等のソフト・モビリティや歩き旅の促進、無形文化の観光活用（維持継承）

2.関係者間におけるワークショップの実施及び今後実施すべき対応策のとりまとめ

2-1.関係者間におけるワークショップの実施

2-1-1.ワークショップ①

（1）実施概要

- 日時　　：令和6年8月6日(火) 13:30～15:30
- 実施方法：対面＋オンライン(Zoom)
- 会場　　：ふるさと総合センター 会議室
- 参加者　：17名（次項を参照）
- 内容

1．日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）について リベルタ株式会社 林 美希子
2．地域の分類、国内での実践事例紹介
3．旅行会社目線での JSTS-D の活用について
4．全体討論

ワークショップの様子

（２）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	開始時会議	WS①
1	黒潮町	森田俊彦	もりた　としひこ	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
2	黒潮町	高石麻子	たかいし　あさこ	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
3	黒潮町	瀧本淳平	たきもと　じゅんぺい	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
4	黒潮町	山﨑裕也	やまさき　ひろなり	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
5	黒潮町	小野日菜子	おの　ひなこ	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
6	黒潮町	伊藤翼	いとう　つばさ	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
7	連携組織	三浦　治	みうら おさむ	一般社団法人　幡多広域観光協議会	○	○
8	連携組織	東　泰照	ひがし やすてる	一般社団法人　幡多広域観光協議会	○	○
9	オブザーバー	松本　栄志	まつもと　えいじ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
10	オブザーバー	竹内　里見	たけうち　さとみ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
11	オブザーバー	井上　郷平	いのうえ　きょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
12	オブザーバー	藤井　椋平	ふじい　りょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
13	オブザーバー	大上　莉賀子	おおうえ　りかこ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
14	オブザーバー	佐伯　友里恵	さいき　ゆりえ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
15	オブザーバー	小栗　充裕	おぐり　みつひろ	株式会社四国銀行　地域イノベーション部	オンライン	オンライン
16	事業実施主体	上戸　康弘	うえと　やすひろ	国土交通省　四国運輸局　観光部	○	○
17	事業実施主体	福島　史晃	ふくしま　ふみてる	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
18	事業実施主体	福池　愛	ふくいけ　あい	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
19	事業実施主体	山本　佳波	やまもと　かなみ	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
20	事業実施主体	宮野　広至	みやの　ひろし	国土交通省　四国運輸局　高知運輸支局　総務・企画観光部門	オンライン	オンライン
21	受託事業者	林 美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○
22	受託事業者	横内 直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	オンライン	オンライン
23	受託事業者	渡辺 祐子	わたなべ　ゆうこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○

（3）実施内容

１．日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）について

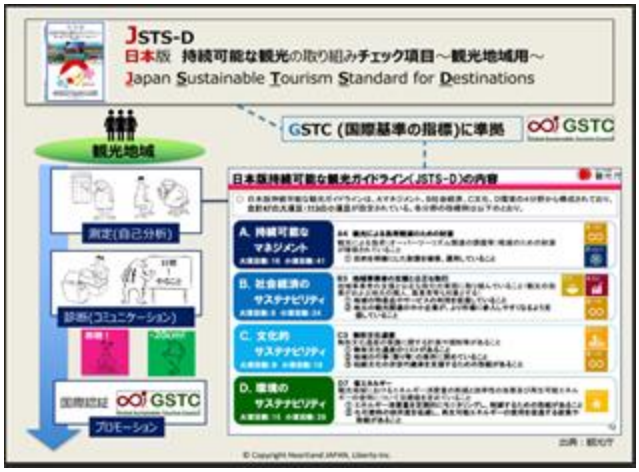
前半では、リベルタ株式会社林よりサステナブルツーリズムやJSTS-Dについての説明を行い、後半では全体で意見交換を行った。

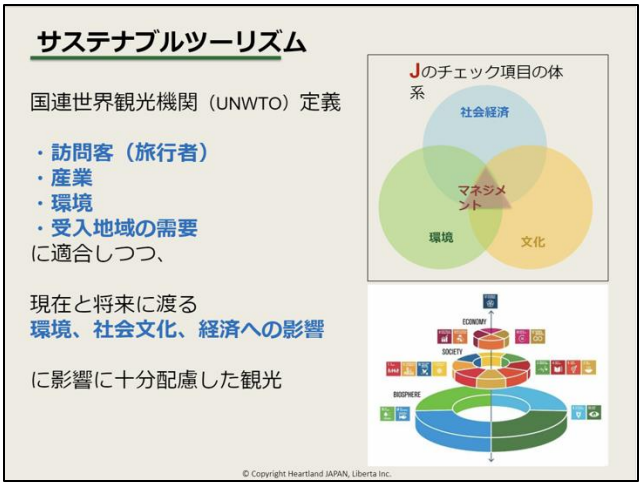
①サステナビリティとSDGｓ

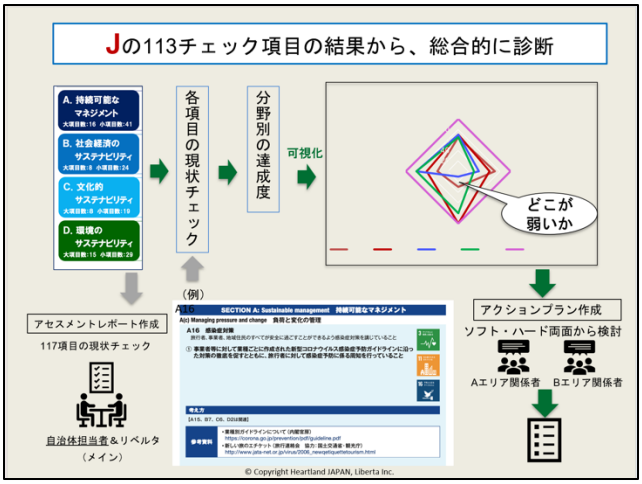
・サステナビリティは日本語で持続可能性を意味する言葉であり、サステナブルツーリズムは「持続可能な観光地（地域）」であるといった定義や状態。観光地（地域）が目指すべき状態と捉えると、あらゆるツーリズムの土台であり、目指すべき姿とも言える。

・SDGsは、地域のサステナビリティ実現に向けた目標。その目標達成の先に目指す状態があるという構造。

・国際指標のGSTCと、その指標をもとに体系化された日本版のJSTS-Dはいずれも健康診断に例えるならば検査・測定項目のようなもの。これらの項目を通じて、現在の観光分野の健康状態が客観的に把握できる。

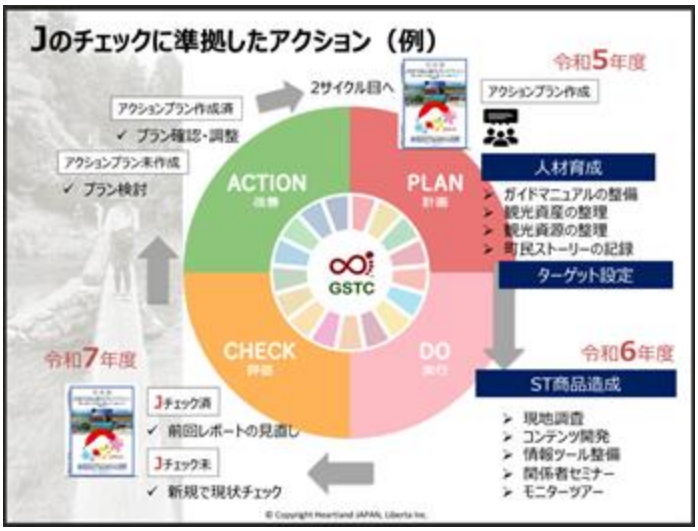






②サステナブルツーリズム

サステナブルツーリズムは、エコツーリズムやアドベンチャーツーリズムなどあらゆる旅行形態に適用でき、JSTS-Dのチェックと連動することでより現状が把握できるようになる。また、JSTS-Dの項目のチェックに沿ってPDCAを回していくことで、一つ一つの行動として落とし込んでいくことができ、年度ごとの事業として見通すこともできる。

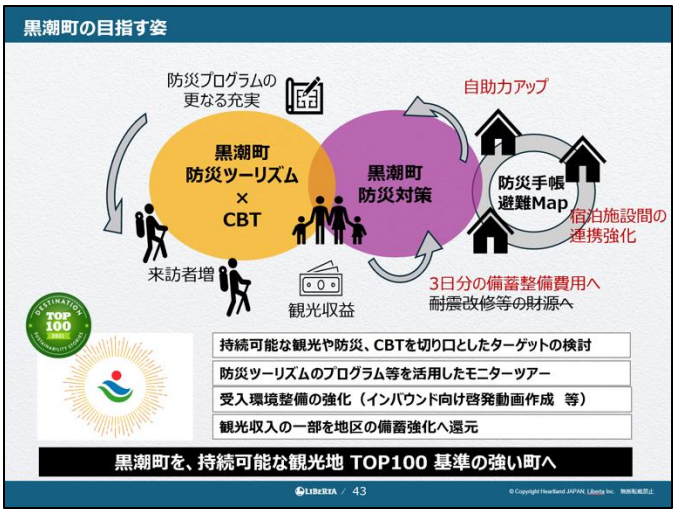


2．地域の分類、国内での実践事例紹介

国内の事例として、徳島県美馬市、長野県乗鞍高原、北海道富良野地区でのサステナブルツーリズムの取り組み状況を紹介した。

3．旅行会社目線での JSTS-D の活用について

2023ATWS（Adventure Travel World Summit）で注目されたキーワード「Off the beaten track(人里離れた、人気のない)」「Responsibility（責任）」「Contribution（貢献）」を取り上げ、黒潮町の観光の参考になる視点を説明した。



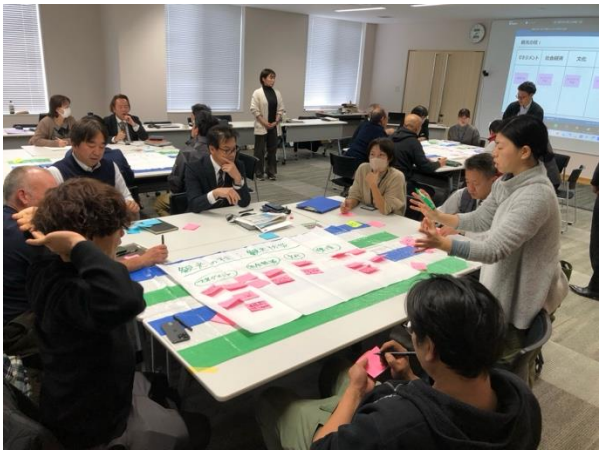
2-1-2.ワークショップ②

（1）実施概要

- 日時　　：令和6年12月20日(金) 14:00～15:30
- 実施方法：対面
- 会場　　：黒潮町役場 中会議室　及び オンライン（Zoom）
- 参加者　：27名（次項を参照）
- 内容

1．グループワーク①「地域課題について」
2．グループワーク②「優先取り組み課題と解決策について」
3．発表・意見交換

ワークショップの様子



（２）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	中間報告会	WS②	役職
1	黒潮町	山本　祥平	やまもと　しょうへい	ネスト・ウエストガーデン土佐	○	○	代表
2	黒潮町	秋森　香	あきもり　かおり	黒潮町商工会	○	○	
3	黒潮町	村上　健太郎	むらかみ　けんたろう	(特非）ＮＰＯ砂浜美術館	○	○	理事長
4	黒潮町	植木　栄造	うえき　えいぞう	海辺のガラス工房kiroroan	○	×	代表
5	黒潮町	明神　慶	みょうじん　けい	道の駅なぶら土佐佐賀	○	×	駅長
6	黒潮町	橋田　和人	はしだ　かずと	一般社団法人であいの里　蟠川	○	○	代表理事
7	黒潮町	西　勝巳	にし　かつみ	幡東森林組合	○	×	参事
8	黒潮町	小松 孝年	こまつ　たかとし	大方球場を守る会	○	○	
9	黒潮町	ブルース・ディロン	ぶるーす・でぃろん	幡多サーフ道場	○	○	代表
10	黒潮町	澳本　哲也	おくもと　てつや	西南珈琲(カフェロッシ46）	○	×	代表
11	黒潮町	藤崎　毅	ふじさき　つよし	佐賀北部地域活性化推進協議会（集落活動センター佐賀北部）	○	○	支援員
12	黒潮町	上原　麗	うえはら　れい	一棟貸しの宿黒潮の家	○	○	代表
13	黒潮町	松下　卓也	まつした　たくや	浮津地区	○	○	区長
14	黒潮町	片岡　孝夫	かたおか　たかお	高知西南交通株式会社	○	○	代表取締役
15	黒潮町	田中　龍吾	たなか　りゅうご	土佐くろしお鉄道株式会社	○	○	総務部長
16	黒潮町	田島　知治	たしま　ともはる	高知県産業振興推進部計画推進課	○	○	地域支援企画員(黒潮町）
17	連携組織	森田　俊彦	もりた　としひこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	代表理事
18	連携組織	髙石　麻子	たかいし　あさこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	事務局長
19	連携組織	瀧本　淳平	たきもと　じゅんぺい	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	地域おこし協力隊
20	連携組織	三浦　治	みうら　おさむ	（一社）幡多広域観光協議会	○	○	事務局長
21	連携組織	秋森　弘伸	あきもり　ひろのぶ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	室長
22	連携組織	宮川　智明	みやがわ　ともあき	黒潮町役場　環境政策室	○	○	室長
23	連携組織	村越 淳	むらこし　じゅん	黒潮町役場　情報防災課	○	○	課長
24	連携組織	宮川　雅一	みやがわ　まさかず	黒潮町　教育委員会	○	×	教育長
25	連携組織	山﨑　裕也	やまさき　ひろなり	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係長
26	連携組織	伊藤　翼	いとう　つばさ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係
27	連携組織	小野日菜子	おの　ひなこ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係
28	オブザーバー	竹内　里見	たけうち　さとみ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	チームマネジャー
29	オブザーバー	井上　郷平	いのうえ　きょうへい	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
30	オブザーバー	大上　莉賀子	おおうえ　りかこ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
31	オブザーバー	佐伯　友里恵	さいき　ゆりえ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
32	オブザーバー	小栗　充裕	おぐり　みつひろ	株式会社四国銀行　地域イノベーション部	オンライン	オンライン	主任
33	事業実施主体	櫛田　哲也	くしだ　てつや	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	○	課長
34	事業実施主体	福池　愛	ふくいけ　あい	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	○	外客来訪促進係長
35	受託事業者	林 美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○	執行役員　兼　部長
36	受託事業者	横内 直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○	トラベルコンサルタント
37	受託事業者	池田　真理子	いけだ　まりこ	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	×	部長/エディター
38	受託事業者	大沼 栞	おおぬま　しおり	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	×	デザイナー

（3）実施内容

１．グループワーク①「地域課題について」

グループワーク①では、「A スポーツツーリズム」「B　防災ツーリズム」「C　エコツーリズム」の3つのグループに分かれ、サステナブルツーリズムの考え方の4つの観点（マネジメント・社会経済・文化・環境）において地域の課題だと思うことをピンクの付箋に書き、模造紙に貼った。

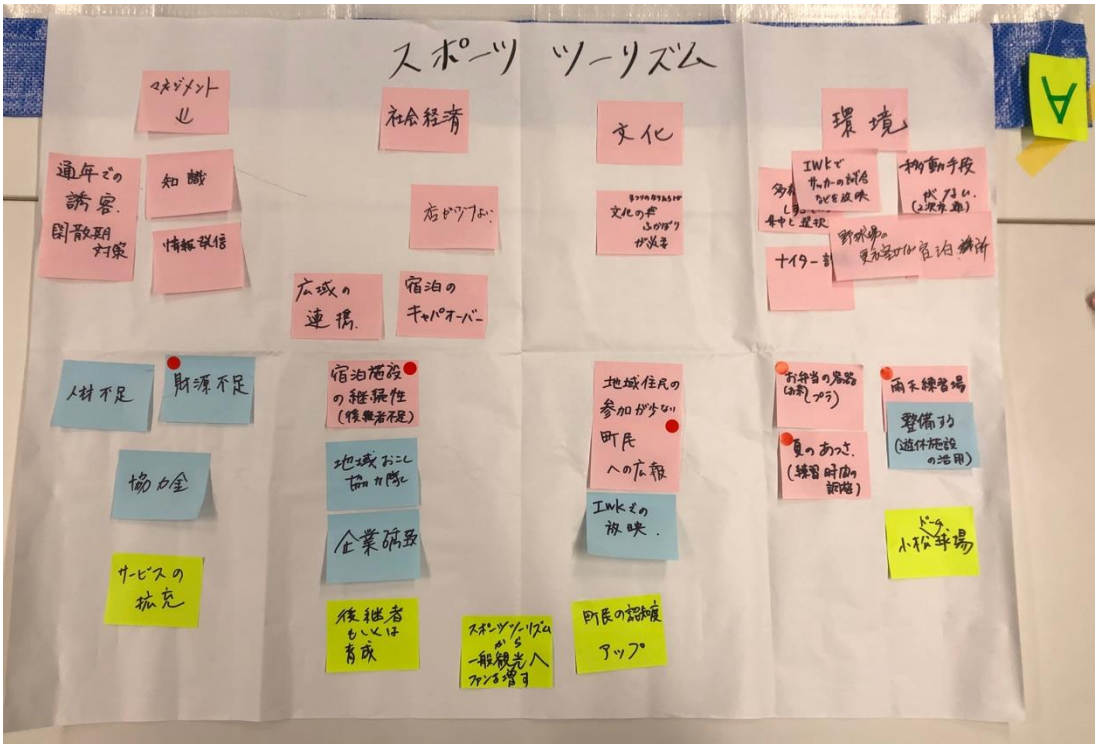
２．グループワーク②「優先取り組み課題と解決策について」

グループワーク②では、出された課題の中で特に重要、早期解決が必要だと思うものに赤いシールを貼り、それらの課題に対する解決策を考え、青い付箋に書いた。
その後、それらの取り組みを経て、望ましい地域の状態を黄色の付箋に書いて整理した。（黄色の付箋は解決策ごとにあってもよいし、4つの観点全体を通して1つにまとめてもよいこととした）

３．発表・意見交換

Aグループ

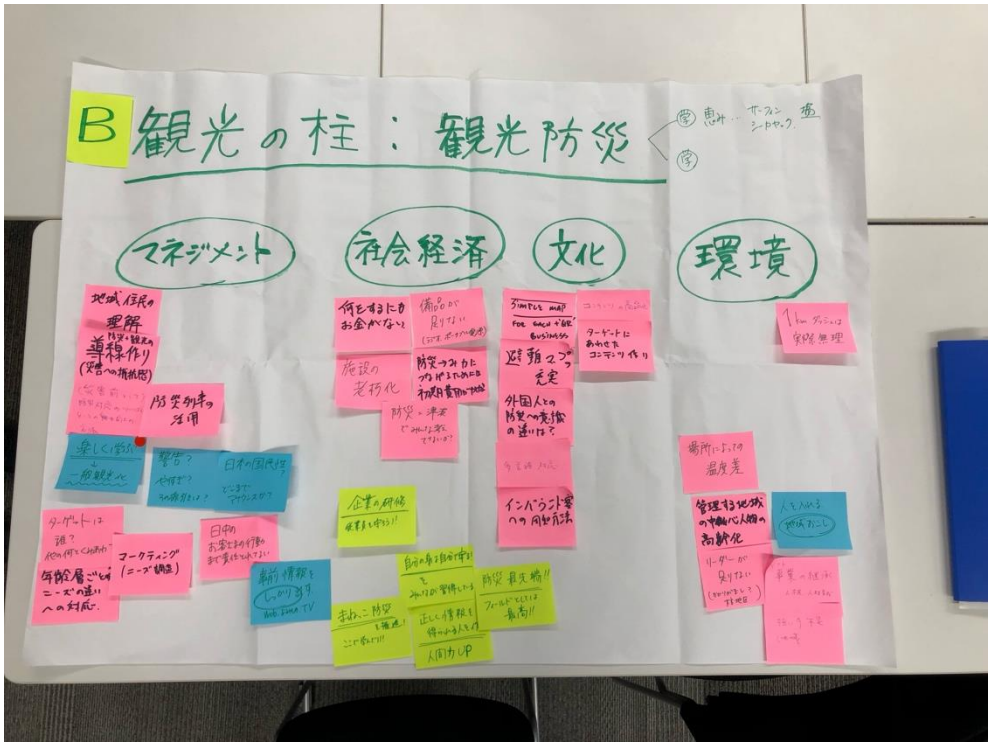
マネジメント：財源不足が挙げられた。事業者にとっても、財源がないと人を雇うことができないため、優先して取り組みたい課題と考えた。解決策として、宿泊税の導入、技能実習生の募集などが挙げられた。
社会経済：宿泊施設の継続性（後継者不足）が挙げられた。個人でやっている事業者さんの中には、この人が辞めてしまったら継続は難しいという施設もある。具体的な解決策は出てきていないが、後継者を育成したり、広く募ったりすることをしていく必要性を感じている。
文化：地域住民の参加が少ない。町の広報に載せてもらったり、IWK（地域のケーブルテレビ）に扱ってもらうことで、町民の認知度の向上を目指したい。
環境：雨天時練習場、お弁当の容器を捨てる場所、夏の暑さなどが挙げられた。解決策として、遊休施設の活用が挙げられた。
全体を通して、いずれの取り組みも関係者間において目指したい方向性についてきちんとすり合わせる必要があるとの意見が出された。



Aグループの成果物

Bグループ

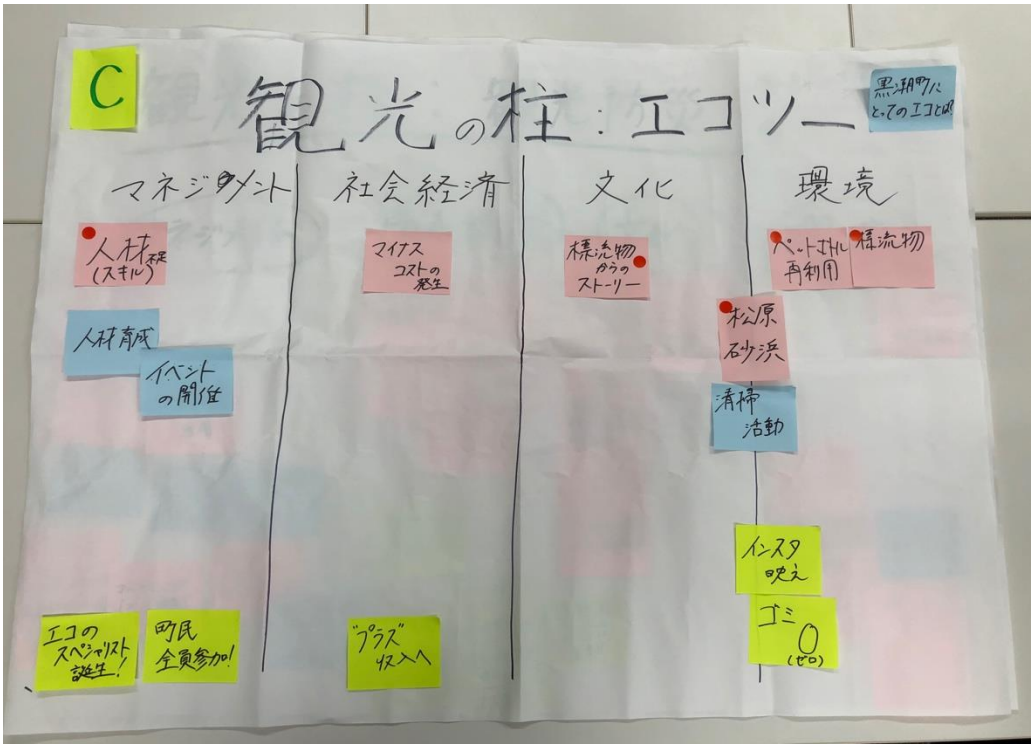
マネジメント：地域住民の理解、防災列車の活用、防災観光の導線づくりなどが挙げられた。解決策としては、防災について楽しく学ぶという意識を地域がもてるような取り組みをしていくことなどが挙げられた。
社会経済：何をするにもお金がない、備品が足りない、施設の老朽化などが挙げられた。
文化：ターゲットに合わせたコンテンツ作り、避難マップの充実、外国人との防災への意識の違いを知ることなどが挙げられた。
環境：いざとなったときに1kmの距離を実際に走るのは難しい、場所によっての温度差、リーダーが足りないなどが挙げられた。
目指したい姿として、企業の研修をする、自分の身は自分で守るとみんなが習得していること、防災最先端の地域となること、まねっこ防災の推進といった意見が出された。



Bグループの成果物

Cグループ

マネジメント：人材不足が課題。解決策として、ごみ拾いイベントなどの開催などを通して意識づけ、認知につなげてもらい、エコのスペシャリストの育成や町民が全員参加するような地域を目指したい。
社会経済：マイナスコストの発生が課題。例えば、ごみを処理するにもコストがかかるため、ごみを減らすことのできる取り組みを考え、実行することで収入を確保していきたい。
文化：漂流物が課題として挙げられたが、これを活かす仕組みを考え、ごみゼロを目指したい。
環境：ペットボトルの再利用が課題として挙げられた。ペットボトルを使うことを悪とするのではなく、容器を洗って何度も使ったり、きちんとリサイクルしたりすることが大切だと考え、エコを推進していきたい。



Cグループの成果物

2-1-3.ワークショップ③

（1）実施概要

- 日時　　：令和7年2月6日(木) 13:30～15:30
- 実施方法：対面
- 会場　　：黒潮町役場 中会議室
- 参加者　：23名（次項参照）
- 内容

1.全体説明
2.グループワーク①（黒潮町の観光に関するターゲットの絞り込み、優先すべきアクションについて）
3.全体発表①
4.グループワーク②（防災手帳のデザインについて）
5.全体発表②

ワークショップの様子

（2）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	WS③	役職
1	黒潮町	山本　祥平	やまもと　しょうへい	ネスト・ウエストガーデン土佐	○	代表取締役
2	黒潮町	植野　幹也	うえの　みきや		○	支配人
3	黒潮町	吉田　かずみ	よしだ　かずみ	(有)ソルティーブ	○	
4	黒潮町	境　文子	さかい　ふみこ	黒潮カツオ体験隊(黒潮一番館)	○	
5	黒潮町	村上　健太郎	むらかみ　けんたろう	(特非)　ＮＰＯ砂浜美術館	○	理事長
6	黒潮町	明神　慶	みょうじん　けい	道の駅なぶら土佐佐賀	○	駅長
7	黒潮町	橋田　和人	はしだ　かずひと	一般社団法人であいの里　蜷川	○	代表理事
8	黒潮町	吉田　耕一	よしだ　こういち	幡多信用金庫　入野支店	○	
9	黒潮町	小松 孝年	こまつ　たかとし	大方球場を守る会	○	
10	黒潮町	周治　輝峰	しゅうじ　てるみね	いろりや	○	
11	黒潮町	上原　麗	うえはら　れい	一棟貸しの宿黒潮の家	○	
12	黒潮町	松下　卓也	まつした　たくや	浮津地区	○	
13	黒潮町	山本　倫	やまもと　みち	ゲストハウスまぁる	○	
14	黒潮町	川村　渡	かわむら　わたる	集落活動センター かきせ	○	会長
15	連携組織	秋森　弘伸	あきもり　ひろのぶ	黒潮町役場　産業推進室	○	室長
16	連携組織	山﨑　裕也	やまさき　ひろなり		○	観光係
17	連携組織	伊藤　翼	いとう　つばさ		○	観光係
18	連携組織	小野　日菜子	おの　ひなこ		○	観光係
19	連携組織	森田　俊彦	もりた　としひこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	代表理事
20	連携組織	高石　麻子	たかいし　あさこ		○	事務局長
21	連携組織	瀧本　淳平	たきもと　じゅんぺい		○	地域おこし協力隊
22	受託事業者	林　美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	○	執行役員　兼　部長
23	受託事業者	横内　直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部	○	トラベルコンサルタント

（3）実施内容

1.全体説明

今回が本事業にかかわるワークショップへ初参加となる方もいたため、はじめに事業の目的、実施内容について全体に説明。防災手帳に記載予定の「来訪者へのルール」の呼びかけや、デザインについては、ワークショップで話し合われた内容をもとに作成することを説明した。

2.グループワーク①（黒潮町の観光に関するターゲットの絞り込み、優先すべきアクションについて）

参加者をAからDまでの4つのグループに分け、これまでの聞き取りの中から明らかになった黒潮町を訪れる方を9つのターゲットとして示し、今後受け入れていきたいターゲットを優先度の高い順番に並び替えてもらった。その後、各ターゲットの受け入れに際し課題になりうる事項及びその解決策について話し合った。

ターゲットとして示したのは以下の通り。その下に記してあるのはすでに取り組んでいる内容も含めたアクションの例である。この他にもターゲットとして考えられる属性があれば追記してもらうよう伝えた。

施策案

9_9つのターゲット_情報発信・プロモーション

既存-国内／スポーツ合宿（学生）
既存-国内／スポーツ観光客
既存-国内／修学旅行
既存-国内／個人旅行者
既存-国内／研修・視察
既存-お遍路さん（国内／インバウンド）
今後-インバウンド／研修・視察
今後-インバウンド／アジア　**個人・団体**　＊お遍路さん以外
今後-インバウンド／欧米豪　**個人・団体**　＊お遍路さん以外

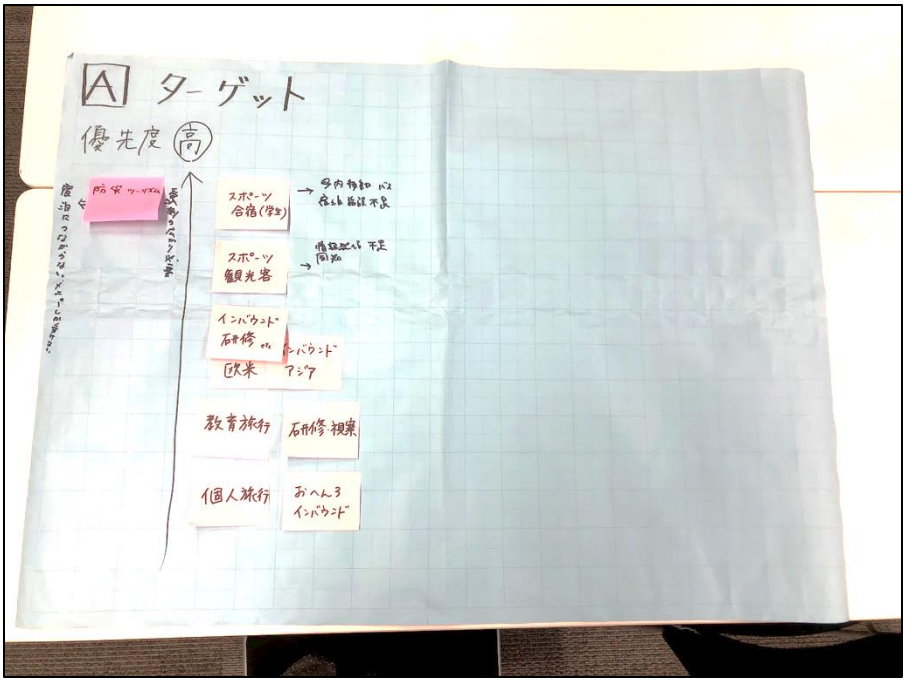
・オンサイト商談会（商談会やファムトリップ）
・オンライン商談会
・持続可能な観光のガイドライン（JSTS-D）の導入
・JSTS-D ロゴ使用の申請・承認
・GreenDestinations　持続可能な観光地 TOP100 エントリー

3. 全体発表①

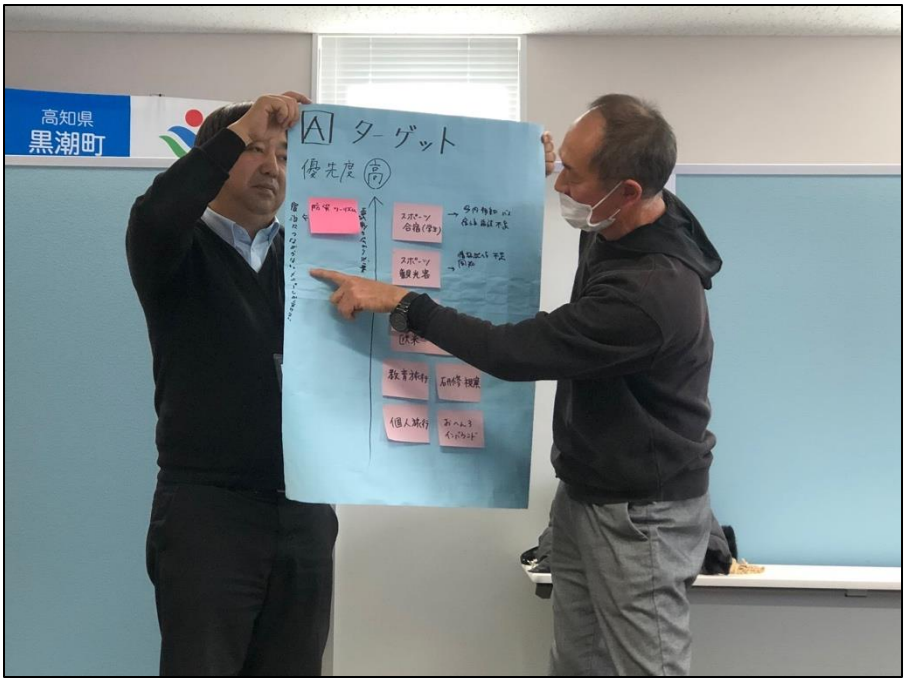
Aグループ

・防災ツーリズム
宿泊につながらないコンテンツがほとんどのため、宿泊につなげることを目指したい。そのためには、受け入れ施設を増やすことも重要。

・スポーツ観光客
学生のスポーツ合宿における課題として、移動バスや運転手の不足、宿泊施設の不足といった実態がある。また、観客動員の問題として、地元の野球試合などへの観客が少ない現状もある。また、上と関連するが、選手のための施設で予約が埋まってしまい、観客が宿泊できる施設がないという問題もある。



Aグループの成果物



発表の様子

Bグループ

・スポーツツーリズム

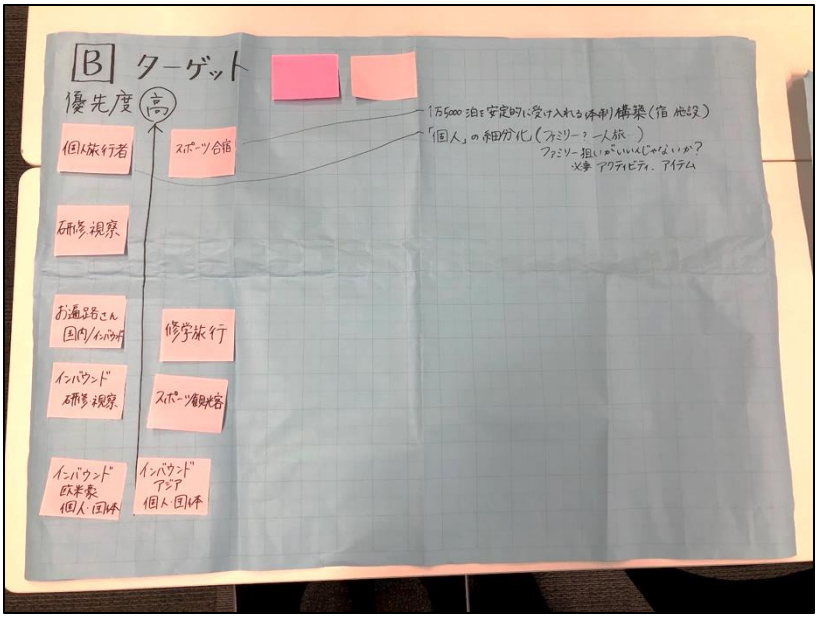
現在受け入れている年間15000人泊を安定して受け入れられる体制を作ることが大切。受け入れ施設については課題もあるため、整備をしていく必要がある。

・国内/インバウンド　個人客

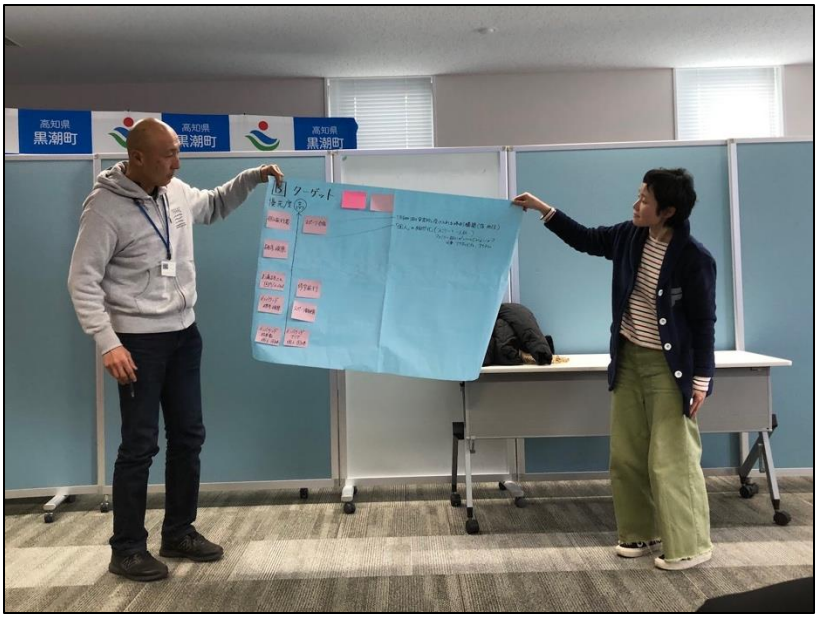
グループの中に民宿を経営している方が2名おり、宿泊対象が個人客となるためターゲットの優先度が高くなっている。しかし個人客にも家族連れや一人旅などさまざまな属性の方がおり、それによってアプローチの仕方が異なるため、議論が必要。

・インバウンド　個人客/団体客

優先度としては低く設定しているが、グループの中にいる黒潮一番館は幡多広域観光協議会からの紹介でアジア圏を中心としたインバウンドの来訪者が多く、対応に課題を感じることがある。
また、上記のインバウンドの個人客、特にファミリー層に来訪してもらうためには、子どもが安心して滞在できる場づくりが必要だと考える。



Bグループの成果物



発表の様子

Cグループ

・スポーツツーリズム

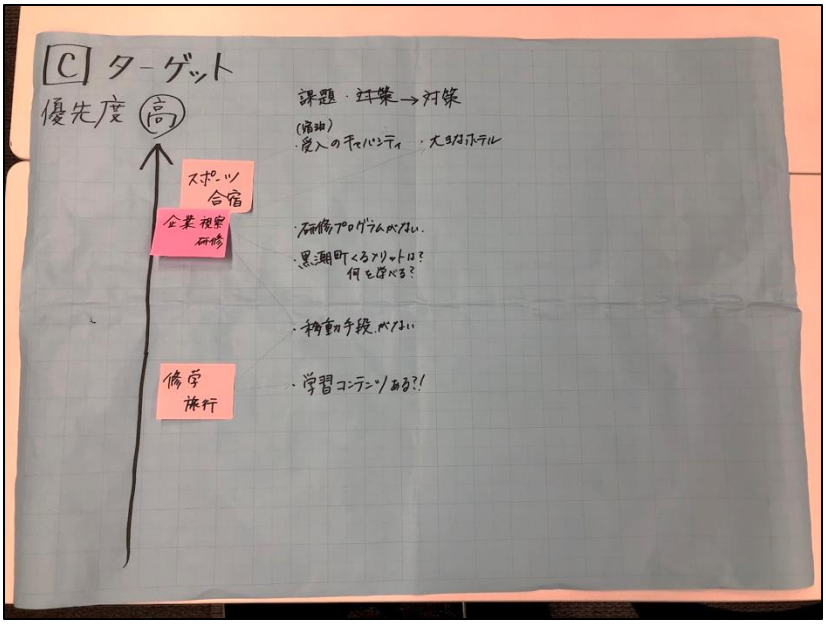
実績があるので、優先度を高く設定している。この来訪者数を維持継続するために必要な取り組みを講じたい。ただし、受け入れ施設の収容人数の問題は常に感じている。

・企業視察研修

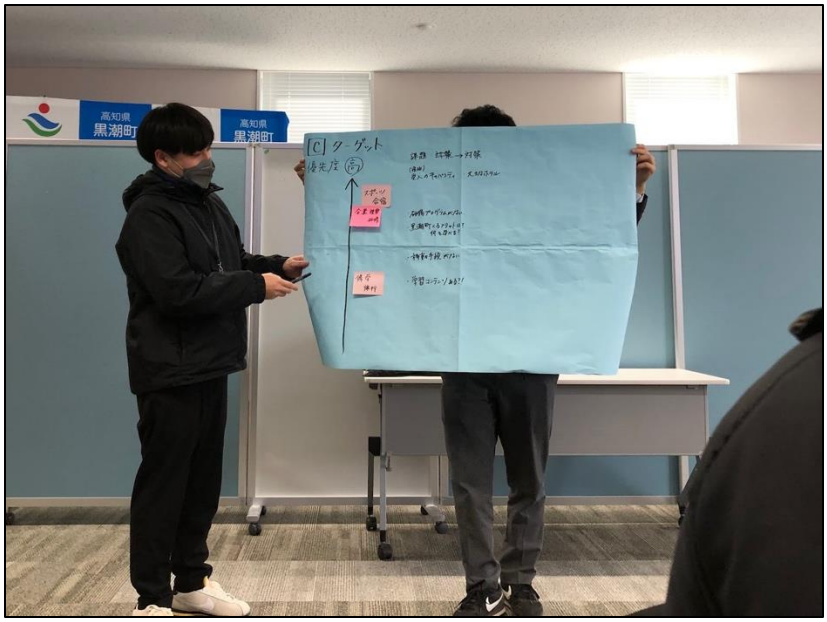
スポーツツーリズムと関連するところもあるが、実業団や企業の誘致を積極的に行い、その他の観光客の呼び込みにつなげられれば。課題としては、研修プログラムがないことと、黒潮町に来るメリットをどのように打ち出していくのか議論が必要だと感じている。同じような規模で、同じような課題を抱えている市町村は全国に他にもあると思うので、事例等も参考にしながら、明確にしたい。

・修学旅行

旅行の目的として平和学習があるのと同様に、黒潮町の強みである防災学習をテーマとした修学旅行を推進していきたい。課題としては上記にも関連するが学習コンテンツがあまりないと思うので、コンテンツとなりうる要素の洗い出しをしたうえで、磨き上げをしたい。



Cグループの成果物



発表の様子

Dグループ

・スポーツツーリズム

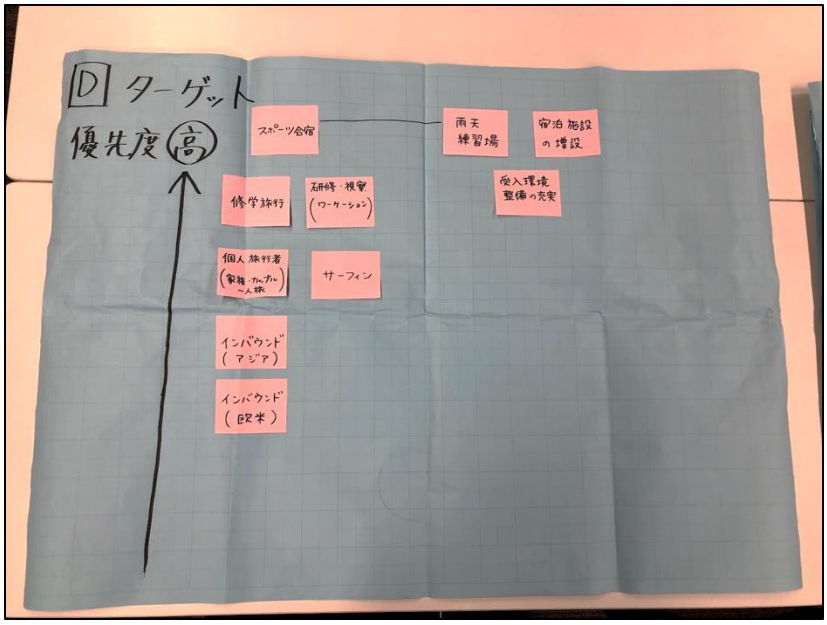
優先度が一番高い。黒潮町を訪れる観光客の40%を占める重要な観光形態の一つとなっている。課題として季節による受け入れ人数の差があるため、その他平日に来訪してくれる修学旅行や企業研修などで補っていきたい。

・国内/個人客

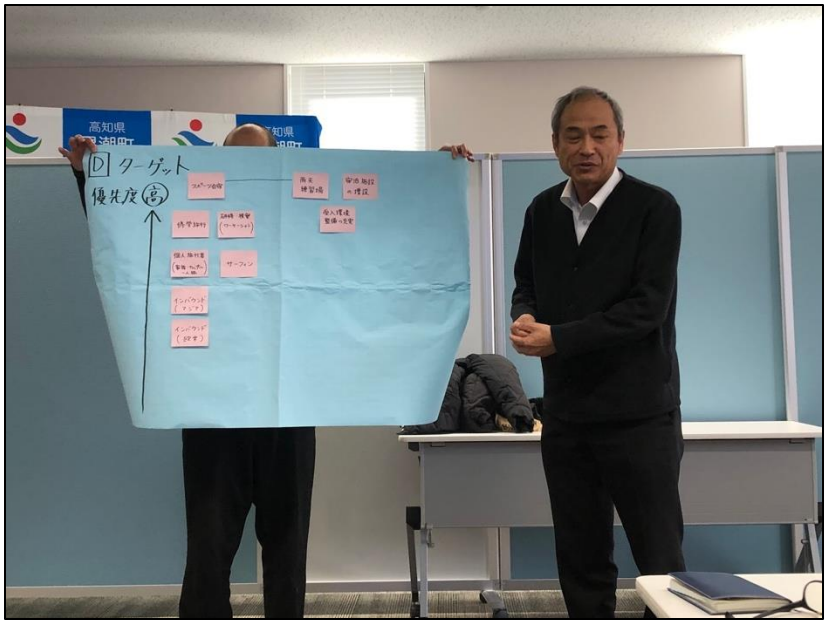
民宿の受け入れは基本的に個人旅行者がターゲットになると思うので、受け入れ側がどのような方に来訪してもらいたいかを明確にし、発信していくのがよいのでは。
サーフィン客は季節による増減はあるものの平日も含めてある程度長期で滞在してくれているので、町への消費につながるような仕組みづくりをしたい。

・インバウンド/個人客　団体客

ネスト・ウエストガーデン土佐だけで言うとインバウンド受け入れ全体に対して約8割がアジア圏からの来訪者であり、その中の45%が香港、25%が中国、約10%が韓国となっている。現在は欧米からの訪問客は少ないが、今後増えてくると予想している。ただ、現時点ではアジア圏に向けた方策を考えるのが優先だと思う。課題としては、受け入れ施設の収容数の問題がある。高知市には外資系の大きな宿泊施設があり、受け入れをしているが、黒潮町はその方向ではなく、既存の宿泊施設にトレーラーハウスを増設するなどして簡易宿泊施設を設け、災害時は避難シェルターとして活用していくことを提案したい。



Dグループの成果物

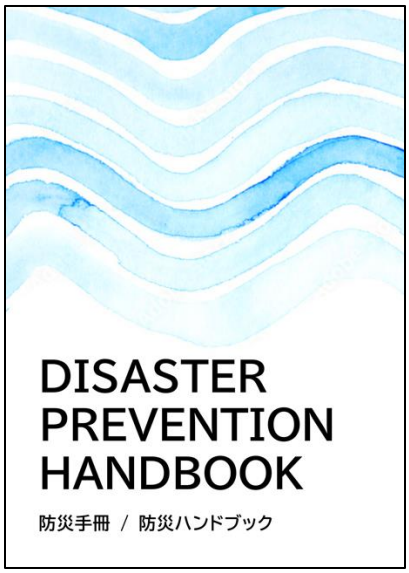


発表の様子

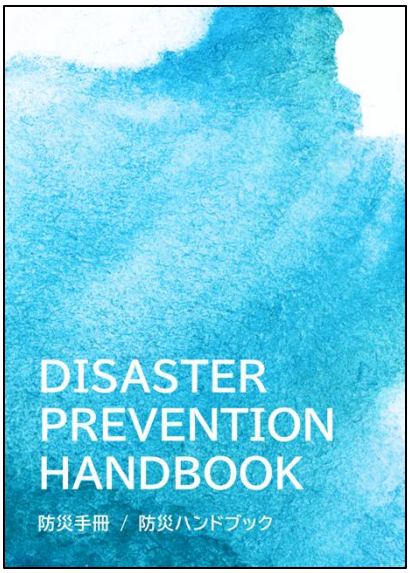
4.グループワーク②（防災手帳のデザインについて）

これまでの現地調査のヒアリング等を通して、防災手帳の色は黄色や赤、緑などの警告色ではなく、黒潮町の町章やその他の刊行物にも採用されている水色を基本とし、デザインはユニバーサルデザインの考え方を取り入れた見やすいものにするという方針が固まった。この考え方をもとに、リベルタから3つの表紙デザインを提案。グループワーク②では参加者にどのデザインが好みであるかをたずね、気に入ったデザインごとに集まって意見交換を行った。また、どれにも当てはまらない人のためのグループも設け、改善点について話し合った。

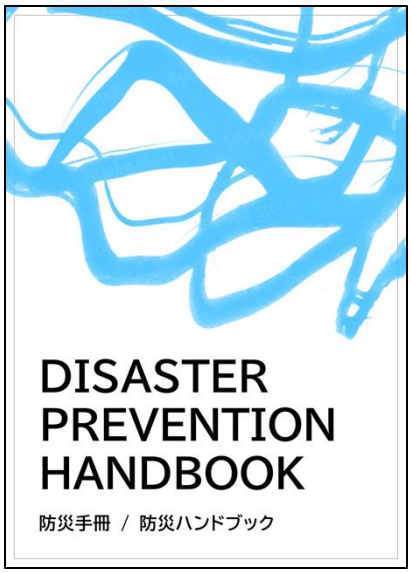
デザイン案



A案



B案



C案

5.全体発表②

それぞれのグループごとに話し合われた内容について代表者が発表を行った。出された意見は以下の通り。

A案（5名）
・ぱっと見て波を連想させるデザインが、海沿いの町黒潮町に合っていると思う。
B案（5名）
・直観的にこれが良いと感じた。
・他の案に比べて、主張が少ないのがいい。
・海とも空ともとれるデザインがいい。
▶一方で、他のグループより、浸水している様子を連想させるのではとの意見もあった。
C案（4名）
・他地域の防災手帳が目につきやすい色であるというには理由があると思うので、目につきやすいことも大切だと考えたときに、C案が最も視界に入りやすかった。
どれにも当てはまらない（4名）
・個人的にはB案が一番いいと思ったが、英語の文字がここまで大きくなくてもよいと思った。
・デザインに関してあまり自信がなく、A案かC案で決められなかった。
・この3つの中から選ぶのは難しい。他の案が見たい。
・個人的にはB案が一番好みだが、色覚障害などの見え方についての知見がなく、水色と白色の見え方について分からないので、決められなかった。

→各案を選んだ人の数をみるとほぼ同数となった。出された意見をもとに再度デザイナーと協議し、修正したものを後日連携先に提案。

2-2.アクションプラン

これまで実施したJSTS-D調査、ワークショップ及び現地ヒアリングを通して明らかになった黒潮町の強みをもとに、以下の通りアクションプランを策定した。

➢ 黒潮町の観光の土台、考え方

人が元気、自然が元気、地域が元気な黒潮町
「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」

これまでの取り組みや黒潮町のアイデンティティをもとに、持続可能な観光の側面から相対的に再編すると・・・

黒潮町が目指す観光地域像

Zero to One

～ 0 （ゼロ）からの価値を生み出す観光地域 くろしお ～

9 つのターゲット

①国内／スポーツ合宿
②国内／スポーツ観戦客
③国内／修学旅行
④国内／個人旅行
⑤国内／研修・視察
⑥国内外／お遍路さん
⑦インバウンド／研修・視察
⑧インバウンド／アジア市場 *
⑨インバウンド／欧米豪市場*
*BtoB中心

4 つのポリシー

KUROSHIO STYLE
黒潮町での暮らし方・過ごし方

①自然の恩恵を存分に楽しむ
②自然の脅威と向き合う
③日常（いつも）と非常（もしも）の2つのフェーズをフリーにする
④住む人も、来る人も、誰一人取り残さない

6 つのゼロ

持続可能な観光の実現に向けた黒潮町ゼロ・アクション

①避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ ・・・黒潮町の防災活動、防災プログラム
②ゼロ・カーボン ・・・黒潮町ゼロカーボンシティ宣言、地産地消
③ゼロ・ウェイスト ・・・漂流物展、KURO KAN
④ゼロ・リセット（ウェルネス） ・・・鯨に逢う、豊かな自然
⑤ゼロ・プロジェクト（バリアフリー） ・・・ネストウエストガーデン土佐、食／天然塩や砂糖、情報／防災手帳
⑥ゼロからの観光（レジリエンス／回復） ・・・黒潮町缶詰製作所、コロナ禍からの観光再興、災害復興

持続可能な観光の実現に向けた黒潮町ゼロ・アクション

Ⅱ．業務内容

基本方針0.持続可能な観光によるマネジメント力とブランディング力の強化

1.「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の導入＊ ～100万円未満

2.国際基準「世界の持続可能な観光地TOP100選」エントリー＊ ～100万円未満

3.持続可能な観光によるブランディングと視察ツアーの促進

4.アセスメントレポートの定期的な見直し・評価＊ ～100万円未満

5.来訪者向けのマナー、ルールの整備

6.ターゲットの拡大とターゲット毎のセールス展開

＊新規アクション
最優先・重要アクション
優先・重要アクション

基本方針1.スポーツツーリズムの推進

1.スポーツに集中できる環境整備　・・・雨天時の練習環境整備

2.スポーツ合宿の継続につながる施設整備　・・・予約コントロール、人材確保

3.スポーツ観光客の滞在時間延長と消費拡大に向けたプログラムづくり

4.防災教育を組み合わせたプログラム開発

基本方針2. 防災ツーリズムの推進

1.津波避難タワー等を活用した観光防災プログラムの磨き上げ

2.災害フェーズ・エリアごとの観光防災プログラムの充実* 101万円～300万円

3.黒潮町の防災ストーリーの更なる磨き上げ（歴史の深掘り）

4.先進地視察や連携等、他地域との繋がり強化（四国内外の国際認証地域）＊ ～100万円未満

101万円～300万円

基本方針3. エコツーリズムの推進

1.Tシャツアート展などの地域ブランドイベントの継続

2.カツオ等の食文化体験の利用促進

3.マリンアクティビティの充実

4.関係人口の創出につながるクリーンアップイベント等の開催

基本方針4. 地域資源を活かした新たな観光コンテンツの創出

1.伝統文化や地元の暮らしを体験できるプログラムの開発・・・地区ごとの祭りや歌、踊りの継承

2.地域の特産品を活かした食・工芸体験の充実

3.若者や家族連れ向けの滞在プログラムの開発

4.既存コンテンツを活用したインバウンド向けのコンテンツの開発

基本方針5. 誰一人とり残さない、受入態勢の整備

1.観光施設のユニバーサル対応の推進・・・心のバリアフリー認定施設の普及啓発

2.食のバリアフリーの推進・・・地域食材の活用、

3.データを活用した「逃げるバリアフリー」の推進　＊ 601万円～1000万円

4.観光客向けの多言語対応（案内板、パンフレット、ウェブサイト）

5.フェーズフリーな宿泊環境整備・・・トレーラー型ハウス等の増設 1001万円～

防災とアウトドアを組み合わせた宿泊プログラム開発 101万円～300万円

6.観光防災手帳の開発と活用　＊ ～100万円未満

【最優先・重要アクション】 提案

基本方針5：3.データを活用した「逃げるバリアフリー」の推進 ＊

601万円～1000万円

【課題1】

黒潮町に観光で来た方にとって、緊急時（一刻の猶予もない状況）の避難ルートがわかりづらい

→最寄りの避難タワーの場所や所要時間がわからない

（課題とされる観光拠点）

・国内／砂浜美術館　（昼夜を問わず）

　　／飲食店等、宿泊施設　（夜間）

・インバウンド／砂浜美術館、宿泊施設、飲食店等　（昼夜を問わず）

【対策1】
- 防災関連アプリの普及・啓発／高知県防災アプリ、Safety tips　など

【課題2】

アプリをインストールしていない人は、緊急時の情報が入手できない

（懸念されるターゲット）

インバウンドの旅行者、地震の少ない地域からの国内観光客、黒潮町内でアプリに慣れていない方

【対策2】
- 現在地から最寄り避難場所までの地図＆避難ルートデータの整備（QRコード式）

←津波避難場所までのルート

距離	1.6 km
所要時間	0:25 時間
上り	21 m
下り	5 m
最高地点	21 m

3.受け入れ環境整備

3-1.現地調査

(1)調査目的

持続可能な観光地への現状・課題調査及び関係者間におけるワークショップにて抽出された内容からも分かる通り、これから黒潮町を訪れる外国人観光客が安心して滞在することができるよう、受け入れ環境の整備をしていくことが必要である。

その第1ステップとして、地震の際の行動指針や避難マップが掲載され、災害時に役立つパーソナルデータを書き込める「黒潮町防災手帳」を作成するにあたり、地域で暮らす人々や外国人の方への意見を収集すること、災害が発生したときの避難ルート及び避難場所を確認することを目的に、現地調査を実施した。

(2)調査概要

現地調査の日程及び同行者については、「1.持続可能な観光地への現状・課題調査 1-1.現地調査」の項を参照。

(3)ヒアリング・視察内容

	コーナンホームストック 黒潮店	店長	新仰内　秀一氏
10/14 （月）	・一般客の防災への意識はかなり高い。地元民が防災グッズを求めてくることが多い。 ・観光客が立ち寄ることも多いが、防災に関する意識は低いと思われる。実際、防災グッズを買いに来る観光客はあまりいない。 ・南海トラフ地震に備えた防災グッズコーナーを設け、さまざまな用途に対応できるようにしている。 ・防災グッズの販売場所がすぐわかるように店内に大きな看板を取り付け目立つようにしている。 ・防災グッズの一例として、タープやポップアップテント、簡易トイレやカンパン等バラエティ豊かな商品を取り揃えている。 ・いざという時にすぐ買えるようにしたいと思っている。		

	ネスト・ウエストガーデン土佐	フロントチーフ	東　一志氏
10/14 （月）	・一時待機場所となる避難場所はスロープがあるので車椅子にも対応している。 ・海外からのお遍路の宿泊者はあるが、数は少ない。どちらかというと台湾人が多い。 ・地震があった場合避難に関すること聞かれることがたまにある。 ・不安を取り除いていくのも宿の役目である。 ・避難訓練は人数が多くなった場合、ハプニングがあってもいいのではないかという意見をもらったことがある。シミュレーションがあるともっとリアルになるのではないか、という提案があった。訓練の中で気づいたことがあれば参加者に教えてもらっている。 ・夜間避難訓練のプログラムは完成できていないので、磨き上げ中である。 ・避難訓練はその前後が大切だと思っている。避難後にどうしていけばいいのか不安なので知りたいのではないか。そこをうまく説明できれば助かると思う。 ・地震津波等の災害が起こった場合、その後解除されても被害が起こっている場合は何人が収容できるか。食料、飲料水の確保ができるのか、聞くと安心するのではないか。 ・館内放送は日本語に加え、英語の放送ができればと思っている。町内放送も英語版が役場で課題にあがっており、進めてくということになっている。 ・館内の英語版の放送については「ここに来てください」が分かればいいのではないかと思う。 ・館内放送は大浴場、コミュニティ広場などすべて聞こえるようになっている。 ・停電になった場合の館内放送については、1～2時間備蓄電気にて放送案内が可能。内容は町内全体のものを流し、その後施設管理の内容となっている。 ・何が起こっているのか、どうすればいいのか、地震等はっきり内容を伝えたい。 ・避難タワーへの誘導前は宿泊者リスト確認してから行く流れを作っている。なかには出てこない気づかない場合もあるのが課題。 ・予備電源は本体についている（切り替え式） ・各部屋にライト、ラジオ、SOSボタンなどを全客室に設置している。携帯USBも直接させるようになっている。 ・モニターツアーでインバウンド向けは黒潮の家のみとなっているので、増えてくれたらと思う。 ・黒潮の家の場合は隣にオーナーが住んでいる。訓練は実際音を鳴らしてオーナーが3分後には駆けつける、という設定になっている。 ・令和5年から夜間避難訓練を開始しているが、体験予約が入った件数は片手で数えられるほどしかない。 ・窓は常にブラインドを下ろしている（ガラス飛散防止のため）		

(3)ヒアリング・視察内容

	漁家民宿 おおまち	民宿オーナー	明神　好久氏 明神　妙子氏
10/15 （火）	・カツオ漁師のため、津波が来たら船は諦めるしかないと思っている。 ・防災タワーはすぐそばにあるが、避難訓練の際近所に声をかけながら避難しようと思っても、いざとなるとなかなか気が回らない。 ・防災グッズを玄関先に用意しているが、いざとなると持っていくのを忘れてしまうのが現状。 ・町の防災訓練は年に2回。昼間と夜とあるが、どちらも参加するようにしている。 ・周り近所が年配ばかり。近所に車椅子の人も住んでいるが、津波が来たら声をかけて連れていく余裕はないと思っている。 ・避難訓練でさえ焦るので、いざとなったら逃げ切れるか不安ではある。		

	かかりがま士の会	浜町地区長　ガイド	河内　香氏
10/15 （火）	・避難訓練プログラムは令和元年度に行政から引き継ぎ、座学付きはここ2～3年になる。 ・令和３年は視察が多かった。避難タワーができた時は年間1,000人前後視察に訪れた。 ・技能実習生として、インドネシア、ベトナム、カンボジア、中国、東南アジア系の外国人が来る。 ・漁師町なので地元にいるのは女性が多い。 ・防災研究所には、防災関係でメキシコから来ていたことがあった。 ・コロンビア大学から地震の講師も来ていたことがある。 ・9月～11月は視察が多く、阿波市消防団関係の視察も来ていた。ほかには地区防災組織、学校関係、教育委員会等も対応したことがある。 ・かかりがま師のメインガイドは3名。人数が足りない。 ・避難タワーの管理は自分がやっている。掃除などもしている。 ・町は防災タワーの管理について自治体に任せていると思っている。 ・防災プログラムの通訳はハードルが高いと思っている。ただ通訳士がいないと海外の対応ができないのが課題だと思っている。 ・ガイドは通訳必須でなら対応が可能。通訳を準備してくれるなら受け入れ、できない場合避難タワープログラムはお断りしている状況。 ・今後の課題は言語の問題だと思っている。英語対応の体制は整えたいという気持ちはある。 ・インバウンド向けは実質難しい。5年の間で2組だけ対応したことがある。 ・外国人の体験は主に台湾人系。欧米豪はまれに来る。 ・避難タワーがあっても言語に関する横展開は難しいと思う。英語版の1種類が限界ではないか。 ・現在は避難タワー内での備蓄で増やしたいものは特にないが、椅子をもう少し購入しようか検討中ではある。 ・人口は約2,000人で半分以上は高齢。70歳以上が多い。 ・この地区の避難訓練の参加者は300人に対して110人～115人くらいと半分以下。 ・町全体に備蓄倉庫があるが、活用できるかが課題。		

(3)ヒアリング・視察内容

	特定非営利活動法人NPO 砂浜美術館	観光部　部長	塩崎　草太氏
10/16 （水）	・有事の際、ほとんどの場所は看板は立っているので、その看板を頼りにいくしかないと思っている。 ・観光セクションとして、現在の看板がわかりづらいので、もっとシンプルな看板でないと判断ができないのではないか。 ・防災手帳は大雨、洪水、土砂崩れ、海の高波等も網羅されているほうがよいのではないか。 ・フィールドは海付近になる。海の近くにいたらどう行動していくかが大切だと考えている。 ・アウトドアアクティブのアプリも必要ではないか。その中に情報を入れるとよいと思う（サイレンがなったら、揺れているうちは動かない、等）。 ・誘導灯等は、何の意味を示すか等を防災手帳で伝える必要があると思う。色より凡例マークで指示するのがよいのではないか。 ・防災手帳には、なぜ逃げなければいけないのか、この町の概要などを記す必要があると思う。 ・余計な情報を削ぎ落として観光目線の防災情報を入れてはどうか。 ・黒潮町に関わる人（足が悪い人等）も防災手帳があるという情報が必要では。 ・分厚すぎるものは読まれないと思う。でも必要最低限の情報は入れないといけないが、町民向けにも作成してほしい。 ・防災手帳は100P程度がよいのではないか。地図は別物として別紙扱いがよいと思う。 ・地図は各施設（宿やコンビニ含め）、「ここにある」ということを伝える必要があると思う。 ・防災手帳は中身を理解し説明できるようになったほうがよい。 ・黒潮町で必要な内容を含め、町の人間もずっと持っておけるものにしてほしい。汎用性があるものがよいと思う。海抜や所要時間、避難場所までの距離が一目でわかるものが必要ではないか。 ・視点が違うのでどこを基準にしていいのかわからないが、取り組みとしてこれが必要というインバウンド受け入れに対し町として意識がない。町全体がそういう意識になっていないのも課題である。 ・防災手帳は各施設に置く予定でよいと思う。		

	フリーコンサルタント		森氏
10/16 （水）	・防災手帳をどういった人に渡すのかを明確にし、危険を煽るようなものにしてほしくない。 ・自然との共有を前提に、安全に楽しめればいいと思っている。 ・ターゲットによって作り方が違うので、防災手帳は黒潮町の観光ターゲットである英語圏、アジア等に向けた作りにしてほしい。 ・完全に英語にしてしまうと地元の方がわからないため、黒潮町で作ったものは汎用性を持たせてほしいと思う。		

(3)ヒアリング・視察内容

	居酒屋ポコペン	店主	森近　宗弘氏
10/16 （水）	・特に避難マニュアルは作成していないため、有事の際お客様がいた場合は店の指示や案内を聞くまで待つよりも真っ先に逃げてほしいと思っている。 ・店舗には特に防災グッズを備えていない。 ・店舗が海の目の前ではあるが、現在水害や洪水はない。 ・正直地震より突然起こる洪水の方が怖いと思っている。 ・地震対策として、揺れた場合はすぐ元栓を閉めて外に出るようにしている。		

	黒潮町缶詰製作所	取締役・営業担当	友永　公生氏
10/16 （水）	・高台に移転予定。5年か10年以内に移転したい。場所は目処が付き、進めている。 ・移転時に新しく設備を作る際見学が自由にできるよう、観光コンテンツ施設にしたい。 ・就業先としての役割も果たし人口を増やしたい。 ・滞在時間を増やすため、できれば見学のほかに体験メニューをいれていきたい。 ・町内宿泊先での調理体験の際は作る工程もメニューに入れたい。 ・缶詰のファンを増やしていきたいと思っている。 ・缶詰は14日間出荷できないルールがあるので、高台移転時、必ず食品は黒潮町にあるという安心感につながればいいと思っている。 ・高台がある程度避難施設になり、安心材料になる可能性が高いと思っている。 ・現在は衛生関係で工場内を見学できないため、訪問された方には物足りないかもしれないが、動画で内容を見せている。 ・取り組みについての語り部の人間が限られている（現状2名）。今後の課題として後継者作りが必要。 ・工場視察予約の窓口は黒潮町観光ネットワークとなっているが、黒潮町の教育旅行は少なめ。視察要素は強いが平日対応に人員が不足しているため、その場合は黒潮町役場で対応してもらっている。 ・プログラム料金の料金設定が適正かどうかを考えていきたい。 ・体験料の一部を備蓄に充てるプログラムとなっているが微々たるものなので、スケールメリットが期待できないため効果がないと思っている。 ・視察の際の言語対応ができていない。専門用語もあるため通訳は必須。 ・郊外の宿泊施設に委託販売してもらえないか検討中。 ・旅館組合で委託され在庫を抱える分、県内10社一緒に取り組みをして販路を拡大している。 ・備蓄ではなく、普段から商品が販売できるようにしたい。商売で維持できるよう配慮している。 ・備蓄の大切さを知ってもらい、どこで何か起こっても食事に困らないようにしたい。 ・2024春から賞味期限が切れたら提供する仕組みを作っている。 ・後々は全国展開していく予定（社会を支える仕組みを作りたい）。 ・災害時のみではなく、一般的に食品が通っているようにしたい。販路拡大も、これをきっかけに進めていく方向。 ・経済循環備蓄として、地域が潤いながら経済が回っている状態が良いと思っている。 ・購入先の現状はユートピアカントリー売店、ネストウエストガーデン土佐、ビオスおおがたのみ。 ・缶詰がどこで買えるのという情報を取り入れていく必要がある。防災手帳に入れて欲しい。 ・缶詰の賞味期限は3年だが、賞味期限が近くなったら給食に提供している。 ・有事の際、大量の備蓄がないとスポーツ合宿等の受け入れ自体危うくなるので考えていかないといけないのではないか。まずは国内団体の対応対策も必要だと考えている。		

(3)ヒアリング・視察内容

	道の駅 なぶら土佐佐賀	代表取締役社長/駅長	明神　慶氏
11/24 （日）	・年に1回、避難訓練を実施している。 ・備蓄は防災倉庫にある。 ・8月に地震があったとき、避難すべきかどうか判断に迷った。どれくらいのレベルで避難すべきか、指針があるとありがたい。 ・過去に小学校の事故もあったが、大丈夫だと思っていてもあとから被害が出ることがある。 ・地震が起きたら、隣の川から水が溢れてくる。 ・避難マップでは山へ逃げるように書いてあり、訓練ではそのようにしているが、あまり広い避難場所ではないため、誘導しなくてはいけないお客さんの人数によっては、少し上った水神坂に逃げようと思っている。		

	土佐くろしお鉄道株式会社 中村線中村駅	鉄道部業務課長/中村駅長	岡村　寛史氏
		総務部　総務課長	田中　龍吾氏
11/25 （月）	・避難マニュアルがある。 ・8月の地震の際は、運転を一時停止し、約1時間後に低速で運転を再開した。その後も警戒が解除されるまでの期間は低速で運行した。 ・交通情報について、以前はXで発信していたが、すべての人が見られる訳ではないので、情報の発信媒体について再検討中。現在のところは電話が一番確実。 ・車内に備蓄はない。有事の際は電車を安全な場所で停止させ、人数を確認したうえで最寄りの避難場所まで誘導する。 ・有事の際に特にリスクの高い駅を挙げるとすれば、土佐白浜駅、土佐入野駅。（避難経路のこう配が急であったり、駅自体の位置が浸水エリアであるため） ・有井川駅の線路脇に、山へ避難するための階段を作った。 ・通常の連絡は無線で行っている。加えて、車掌さんは災害用の有線電話も1台携帯している		

	黒潮の家		上原　麗氏
11/25 （月）	・缶詰料理の体験は、他地域で缶詰を食べる体験があるのは知っていたが、ここで美味しく調理していただく体験をした方がよいと考え、普段料理教室も行っている上原氏にメニュー開発の依頼があったことから、このプログラムが始まった。 ・楽しく防災を学ぶことが大切だと考えている。 ・玄関には、ゲスト用の非常用持ち出し袋を用意している。		

	ローソン黒潮入野店	オーナー	富田　準也氏
11/26 （火）	・地震があった際は目の前の山へ避難する。およそ2分～5分。 ・8月の地震の際は揺れは感じなかった。ただその後、しばらくお客さんが減った。 ・日中に発災したときに、お客様を誘導する方が人数も多く時間がかかると思う。 ・お子さんは黒潮町で防災教育を子どもの頃から受けているため、防災に関する意識が高い。寝ているときに地震が起きてもすぐに起きる。		

(3)ヒアリング・視察内容

	道の駅ビオスおおがた	支配人	土居　美香氏
11/26 （火）	・避難場所の案内をトイレに貼っている。 ・避難するのは弘野か鞭集会所。弘野には物資が用意されている。 ・緊急時は一度駐車場に集まり、その後避難誘導をする。		

	外国人移住者		ギルリィ・デイビット氏
11/26 （火）	・有事の際、QRコードで情報が得られるのはいいと思う。（googleのストリートビューなどと連動させるのはどうか） ・米国では安否確認の際にFacebookを使う人がいる。 ・避難場所で、観光客に伝える必要があると思うのは、「食料を取りにいかなくてはいけないか、持ってきてもらえるのか」「この食料は何日分の量なのか」「この水は飲めるのか」		

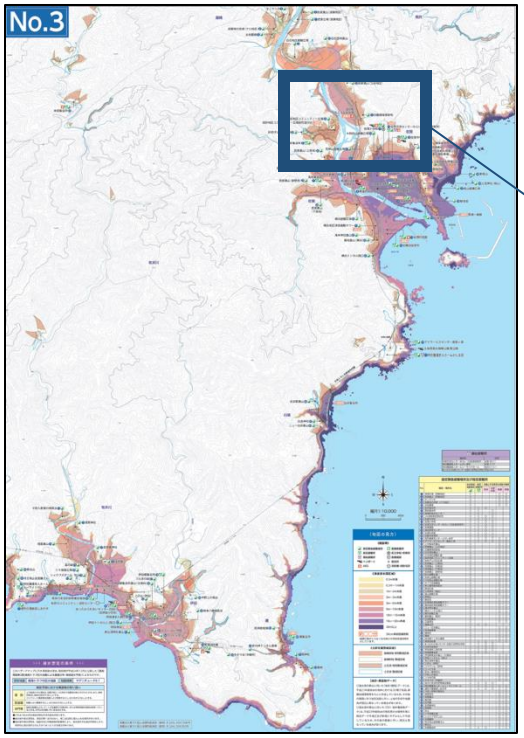
(4)避難ルート・避難場所踏査

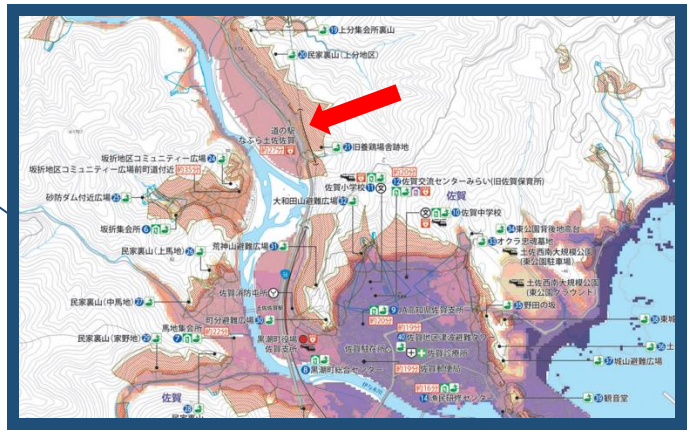
町内で外国人観光客が訪れる可能性が高いと思われる場所を中心として、避難ルート及び避難場所の踏査を行った。踏査にあたっては、黒潮町が公表している「黒潮町地震・津波ハザードマップ」を用いてルートの事前の確認を行い、ウォーキングのルートを記録できるアプリ「outdooractive」を活用しながら実施した。

①道の駅前高台

道の駅なぶらから一番近い避難場所

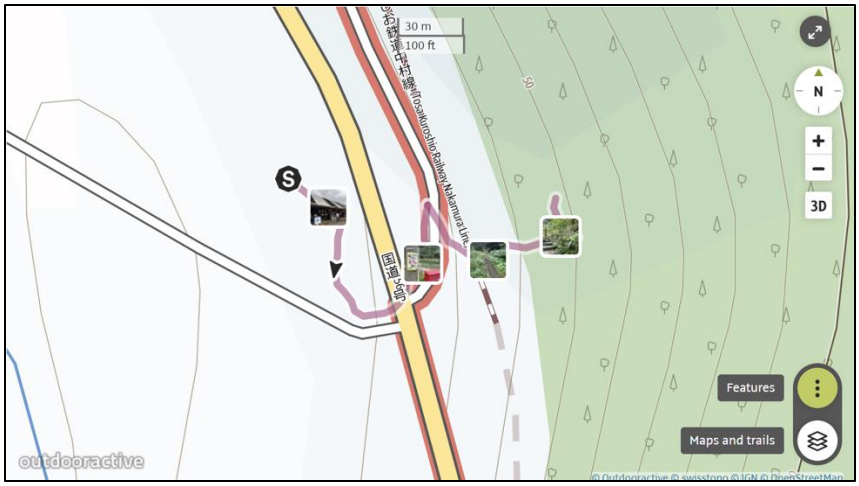
踏査日：2024年10月21日（月）
距離：0.3km
避難場所到着までにかかった時間：4分
備考：
・道の駅なぶらの目の前を走る道には歩道がないため、横断をする際には注意が必要。
・避難ルート上に倒木あり。（町役場に報告済み）
・避難場所の収容人数は15～20人ほど。道の駅にいるお客さんを誘導するには十分でない可能性がある。





(参考：黒潮町地震・津波ハザードマップ　No.3)

避難ルート



踏査の様子

道の駅なぶら

この道を渡った先の高台が避難場所

案内標識

線路の下をくぐる

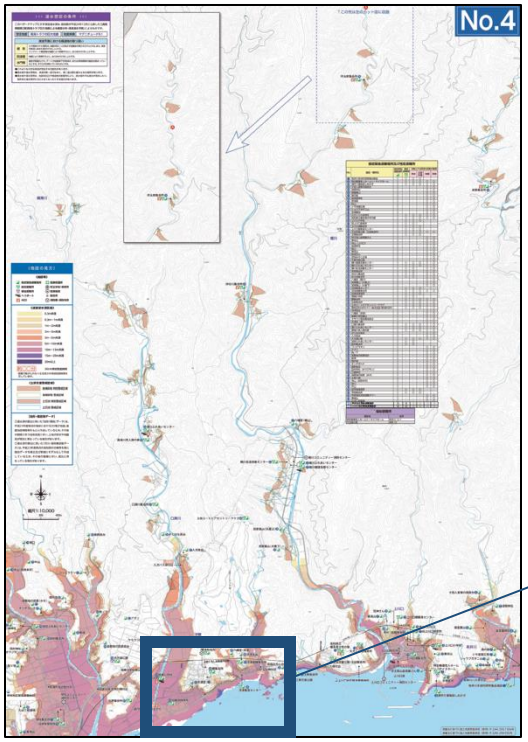
ルート上の倒木

避難場所

②弘野集会所

ビオスおおがたから一番近い避難場所

踏査日：2024年10月22日（火）
距離：0.6km
避難場所到着までにかかった時間：9分
備考：
・高台の上にある、団地の駐車場
・ビオスおおがたにいる方を避難させることができる広さを有している。
・避難場所へ行く途中に川を渡る必要があるので、抵抗のある人がいる可能性がある。



(参考：黒潮町地震・津波ハザードマップ　No.4)

避難ルート

踏査の様子

ビオスおおがた

ビオスおおがた内に掲示されている避難場所案内

案内標識①

案内標識②

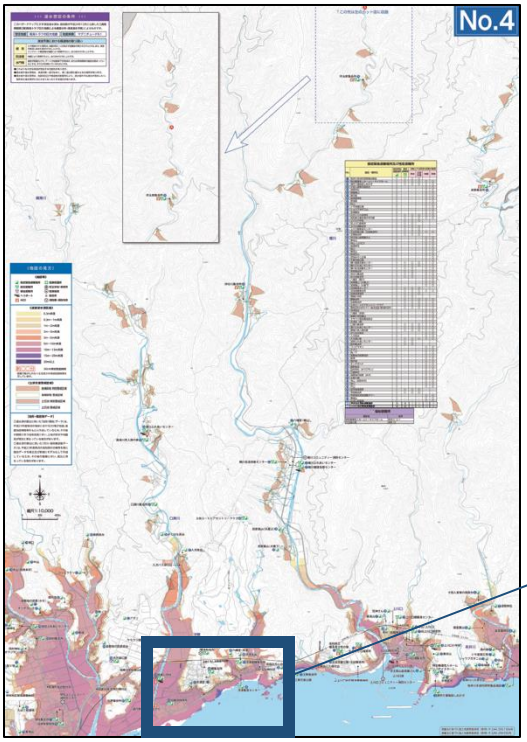
整備されたルート

避難場所

③鞭集会所

ビオスおおがたから二番目に近い避難場所

踏査日：2024年10月22日（火）
距離：0.7km
避難場所到着までにかかった時間：11分
備考：
・高台の上にある、集会所が避難場所となっている。
・②の弘野集会所よりわずかに距離があるが、川を渡る必要がないのと、坂のこう配が弘野集会所よりは緩やかのため、状況に応じて選択するのがよいと思われる。
・避難場所の施設は比較的新しい。



(参考：黒潮町地震・津波ハザードマップ　No.4)

避難ルート

踏査の様子

案内標識①

避難場所付近からの景色

案内標識②

避難場所

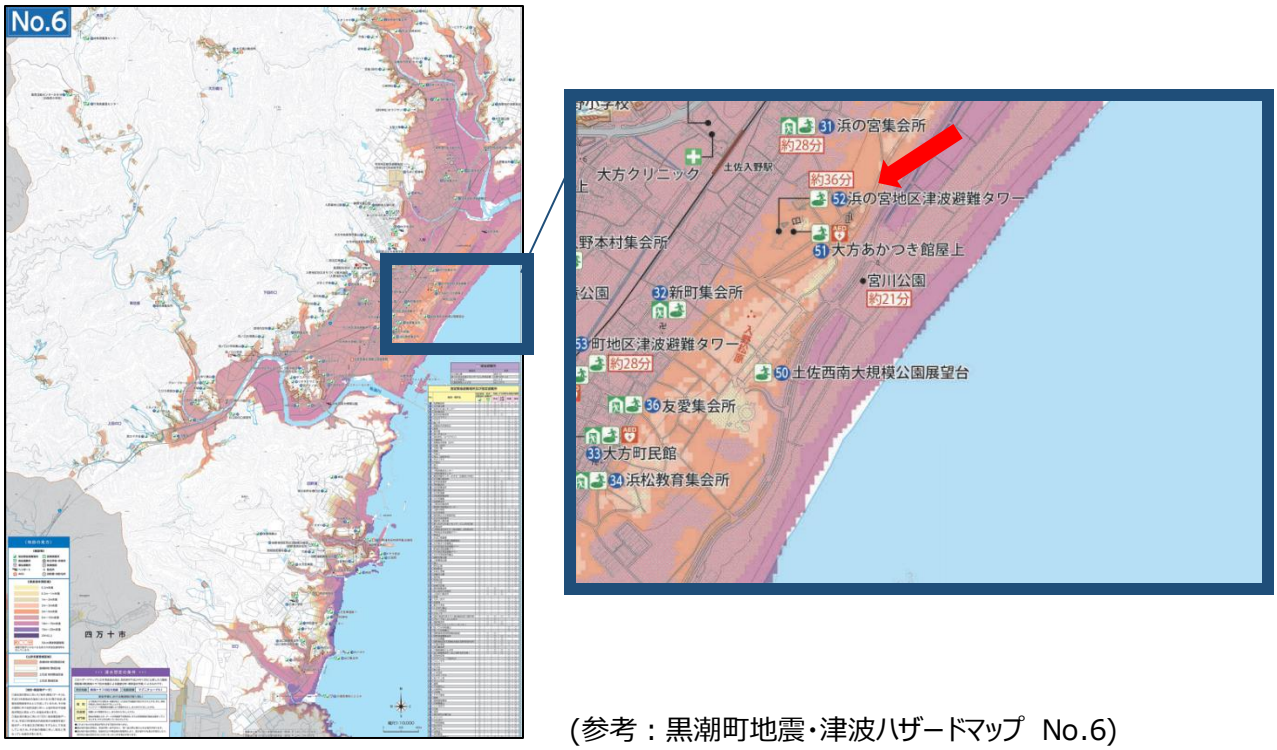
避難場所の隣に設置された災害時
救護対応自動販売機

避難場所のすぐ近くにある消防団分団屯所

④浜の宮地区津波避難タワー

入野海岸から一番近い避難場所

踏査日：2024年10月22日（火）
距離：1.6km
避難場所到着までにかかった時間：23分
備考：
・入野海岸にいたときに災害が起きた想定で踏査。ハザードマップを見て分かる通り、このエリア一帯が浸水区域のため、避難タワーまでかなりの距離を移動することになる。
・避難標識がないため、地図を頼りに避難した。留意点として、なるべく海から離れようとやみくもに進むと、川へ出てしまうため注意が必要である。
・避難タワーは十分な広さがあり、防災倉庫も備わっている。



(参考：黒潮町地震・津波ハザードマップ　No.6)

避難ルート

踏査の様子

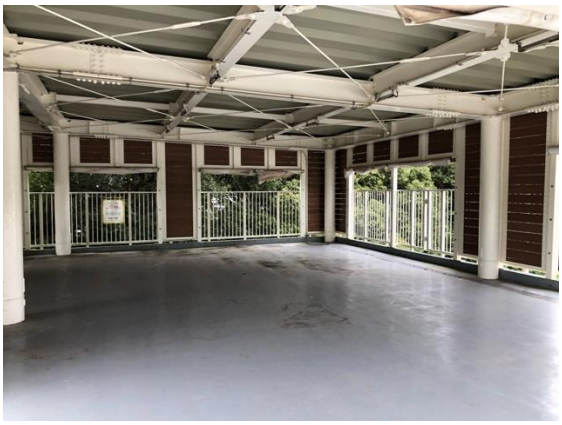
入野海岸

避難標識がないため、地図を見ながら進む

避難ルート上の雑木林

避難標識

避難場所



避難場所　内部

3-2.黒潮町防災手帳の作成

(1)外国人への防災アンケートの実施

防災手帳の作成にあたり、外国人の視点で手帳の仕様及び含める内容を検討することを目的として外国人への防災アンケートを実施した。

(2)アンケート対象者

英語圏及び中国語圏出身者

(3)アンケート内容

以下の最優先事項をふまえつつ、次の表の内容についてたずねるアンケートを作成し、集計を行った。

【最優先事項】
・**見やすさ**：言語対応だけでなく、色覚の個人差を問わずより多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した配色を心がける。
・**持ち運びやすさ**：外国人にとって持ち運びやすく、使いやすいサイズを検討（アンケート結果の活用）。
・**汎用性**：情報のインプットだけでなく、避難時や避難先でのコミュニケーションツールとしても活用できること。

・デザイン及び仕様	
サイズ	B6、A6（文庫本サイズ）、A7（パスポート）
綴じ	左綴じ、もしくは右綴じ
本文デザイン	黒・グレー・白・青・オレンジの配色（CUDO推奨配色）の見え方
本体	防災に関する共通の情報（恒久的、汎用的情報）
別紙（カード形式等）	地域限定や更新頻度の高い情報
・内容	
1.発災前	・防災手帳の使い方
	・災害関連の基礎情報（南海トラフ大地震、震度階級、警報・注意報、避難マーク・ロゴ）
	・黒潮町の防災情報（津波・洪水・土砂災害等のハザードマップ、避難タワーの特徴）
	・防災関連の問い合わせ先
	・避難時の持ち物リスト
	・自分に関する情報（氏名、生年月日、性別、血液、出身国、電話、メールアドレス、持病、服用薬、食事制限など）
	・家族や友人・知人の連絡先
	・旅行会社の連絡先（旅行会社を利用した旅行者の場合）
2.発災～12時間	・発災直後の行動、避難フロー
	・避難場所でのルール
	・体調管理（暑さ・寒さ対策）
	・災害時に役立つアプリ（Safety tips等）
	・災害医療（心肺蘇生、AED、トリアージ等）
3.発災12時間後～	・避難場所でのルール
	・体調不良の対応
	・災害医療（心肺蘇生、AED、トリアージ等）
4.フェーズ別のコミュニケーション	・身体マップ
	・症状の単語リスト
	・食事制限
	・シーン別の会話

参考：デザインに関する補足資料

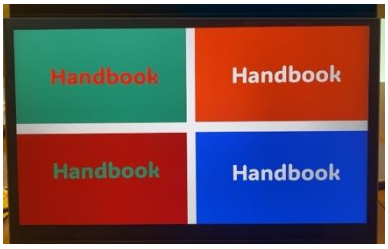
サイズ

持ち運びやすい手帳サイズとしてA5,A6,B6,B7を選定のうえ、アンケートにて聞き取りを実施した。

表紙デザイン
・写真やイラストを多用せず、極力シンプルで目立つ配色を想定。
・カラーユニバーサルデザイン機構（略称：CUDO）のカラーユニバーサルデザイン推奨配色セット ver.4のアクセントカラーを想定。

以下の4つの配色のうち、もっとも見やすいものについて聞き取りを実施した。

1型2色覚 **P型** Protanope-type



一般的 **C型**：Common-type

2型2色覚 **D型** Deuteranope-type

3型2色覚 **T型** Tritanope-type

＊浅田憲一氏 色のシュミレーターアプリで比較

P型D型の割合

女性に比べ、男性に多い。

男性：日本・20人に1人（5%）、欧米・12人に1人（8%）、フランスや北欧・10人に1人（10%）
女性：日本・500人に1人、欧米・200人に1人

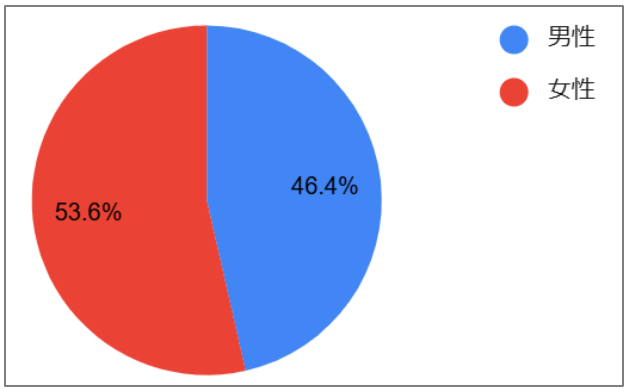
(4)アンケート結果

回答数：28件（中国語圏）
30件（英語圏）

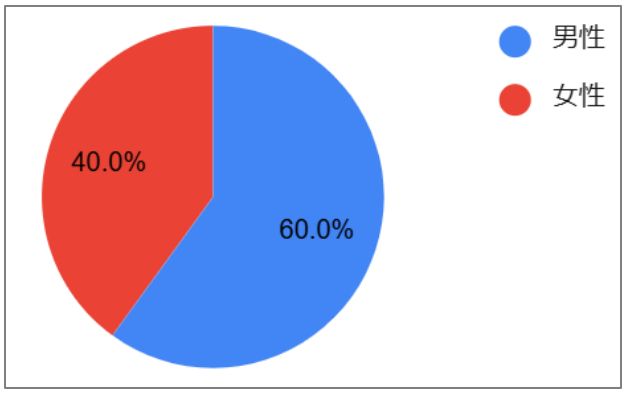
①属性

1．性別

中国語圏

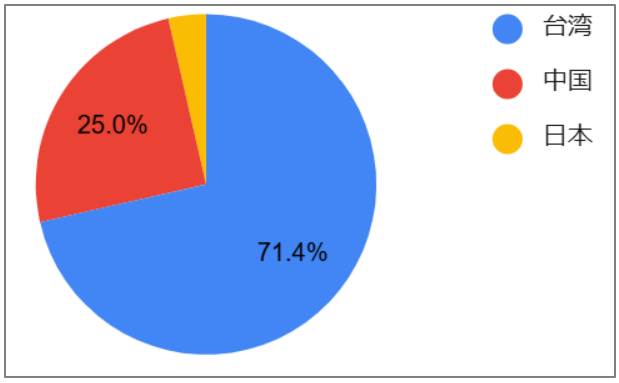


英語圏

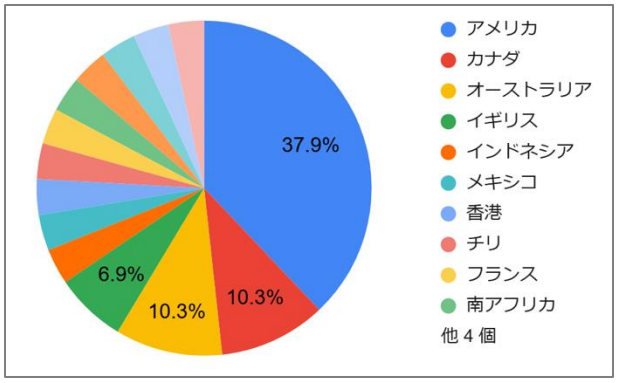


2．国籍

中国語圏

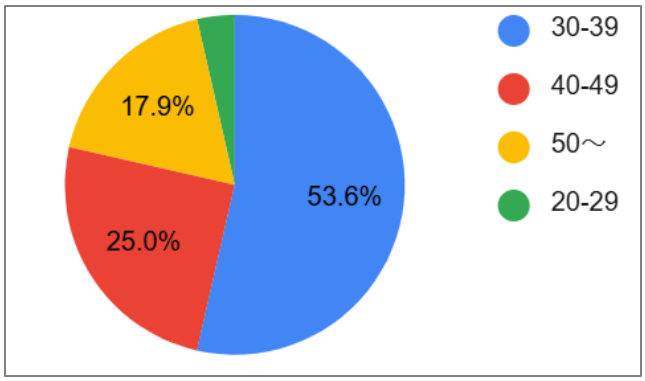


英語圏

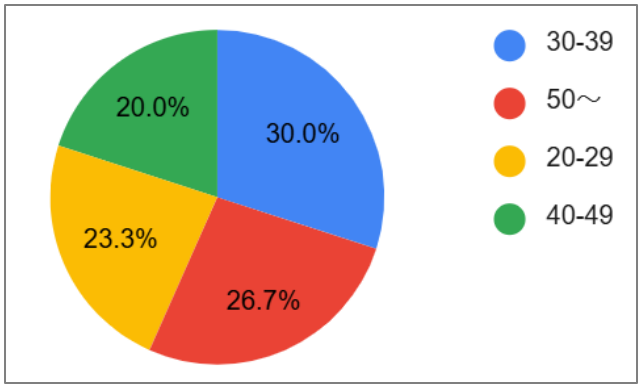


3．年齢

中国語圏



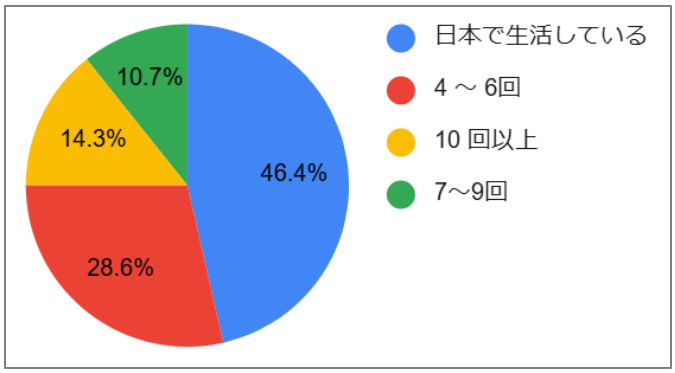
英語圏



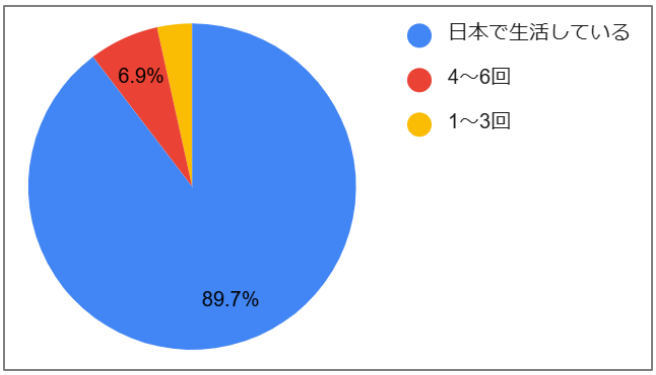
②来日経験

4．日本への来日回数

中国語圏

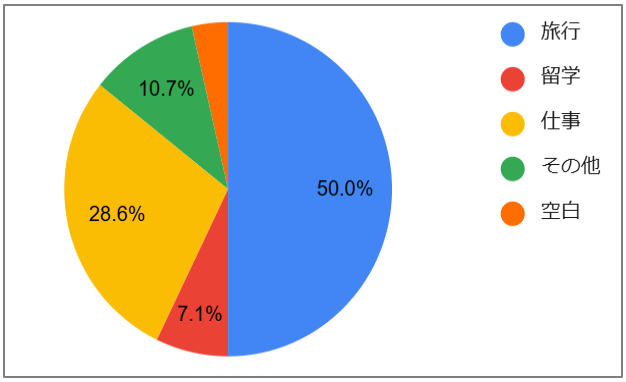


英語圏

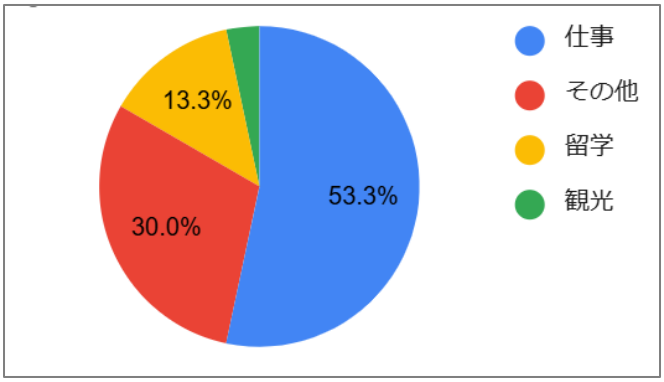


5．日本を訪れた理由

中国語圏



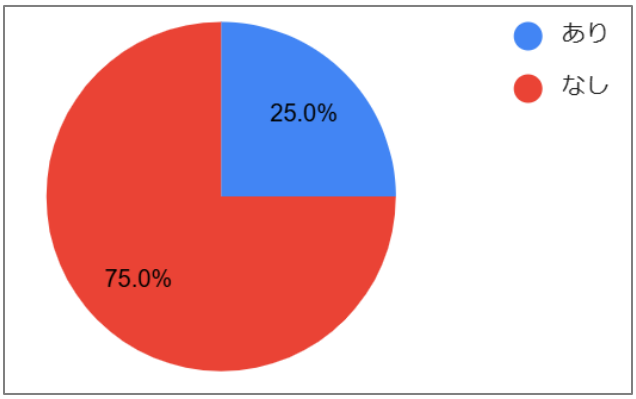
英語圏



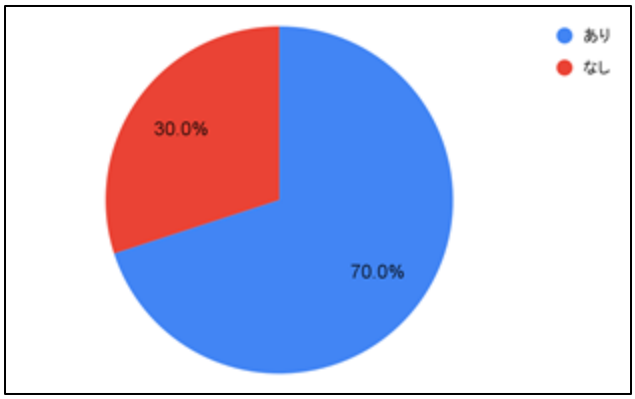
③四国訪問経験

6．四国への訪問経験

中国語圏

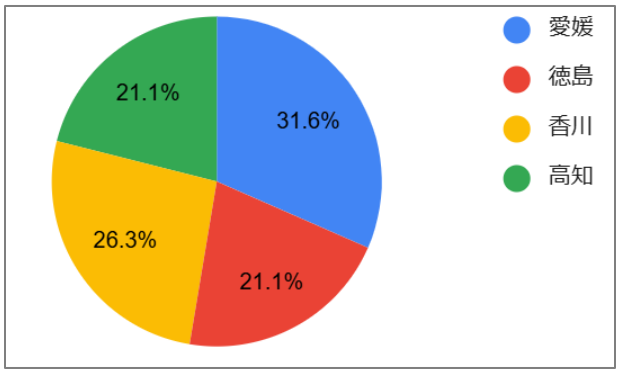


英語圏

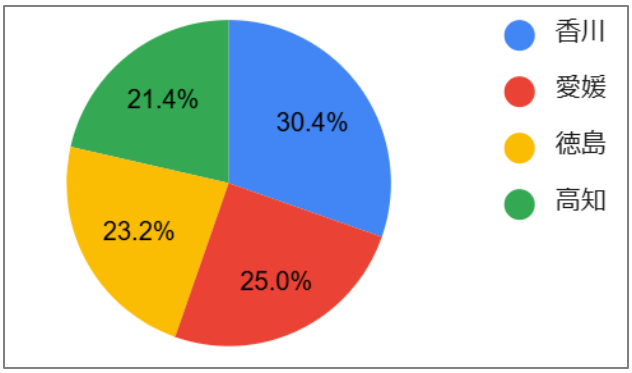


7-1．訪れた四国の県名

中国語圏

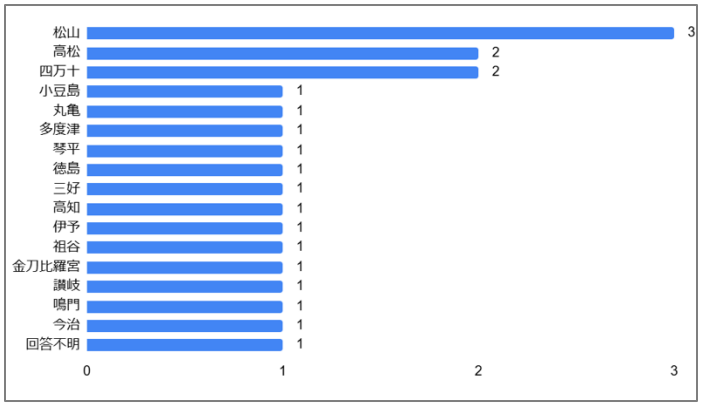


英語圏

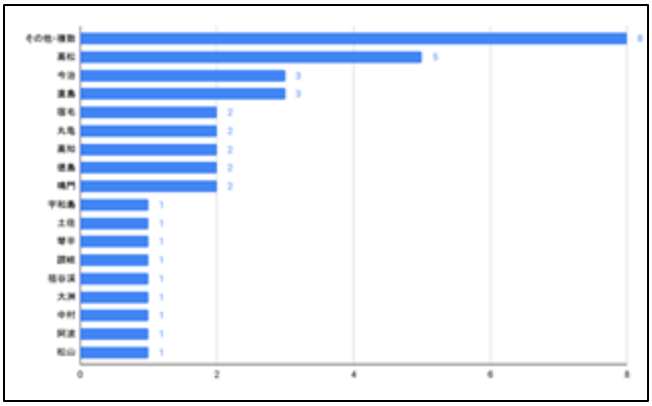


7-2．訪れた四国の地名

中国語圏



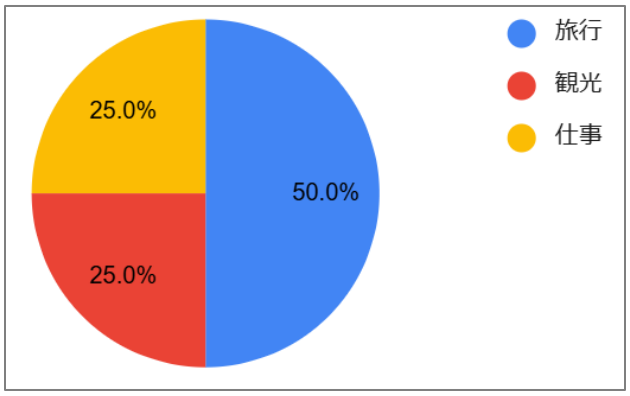
英語圏



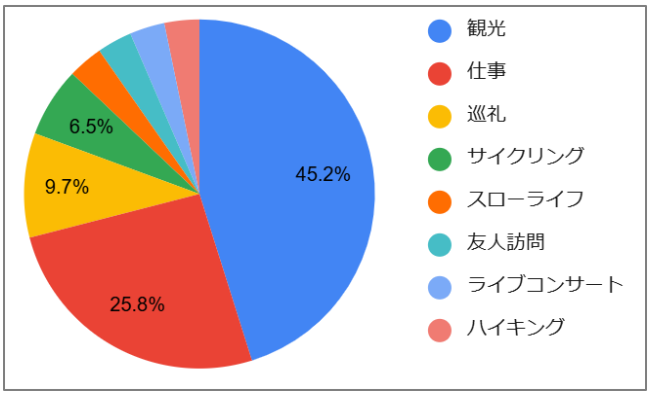
③四国訪問経験

7-3．訪問目的

中国語圏

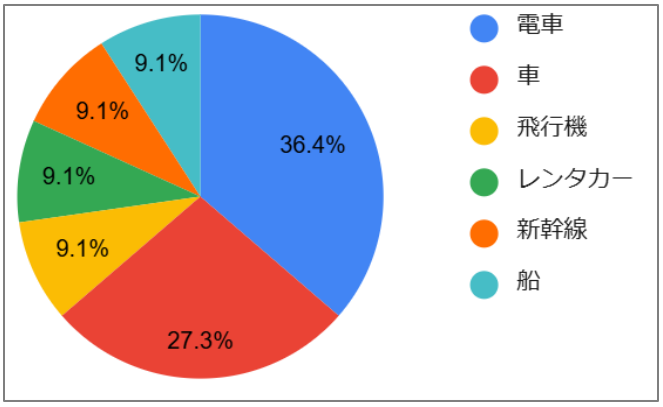


英語圏

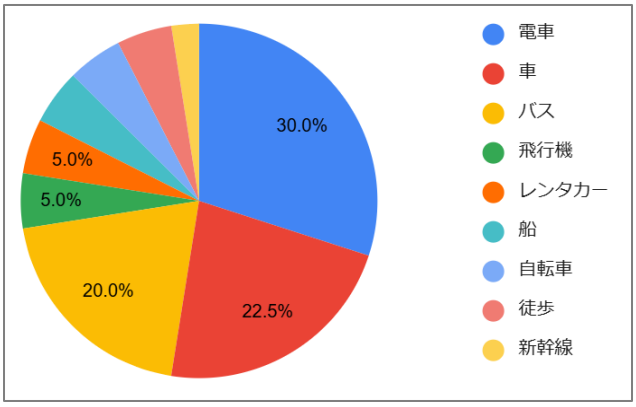


7-4．交通手段

中国語圏



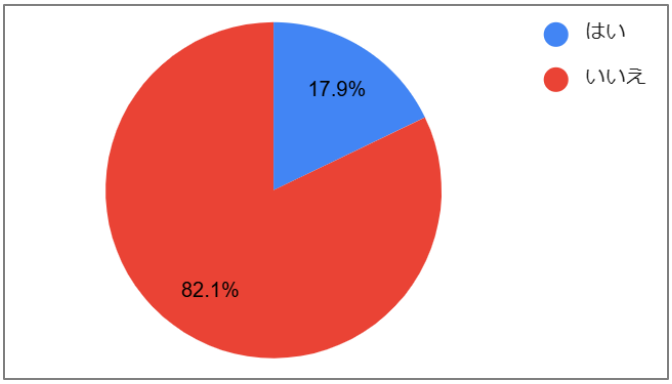
英語圏



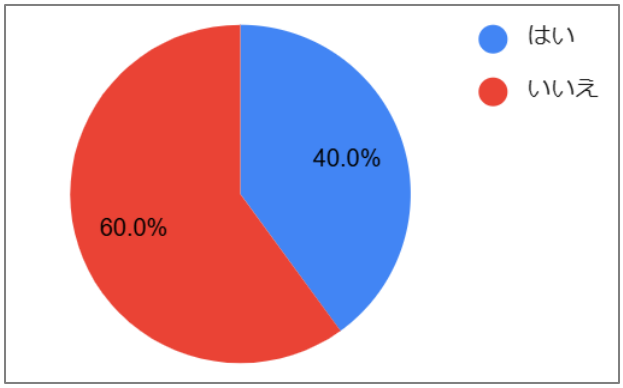
④黒潮町について

８．黒潮町を知っているか

中国語圏

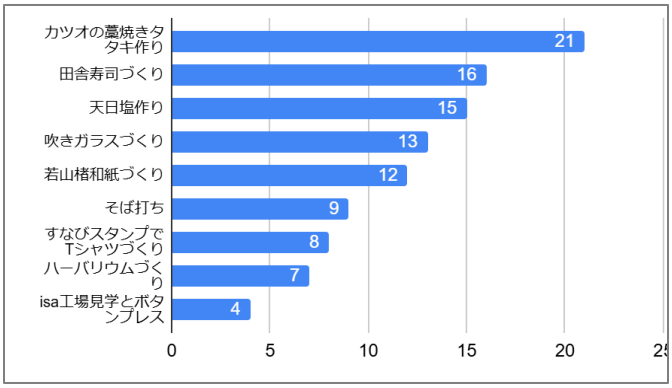


英語圏

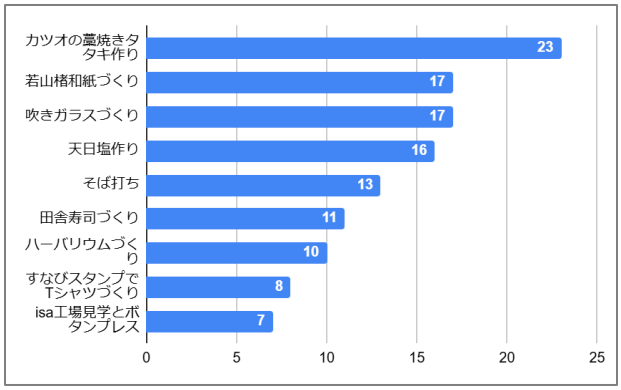


９．黒潮町で体験してみたいアクティビティは何か（文化体験）

中国語圏

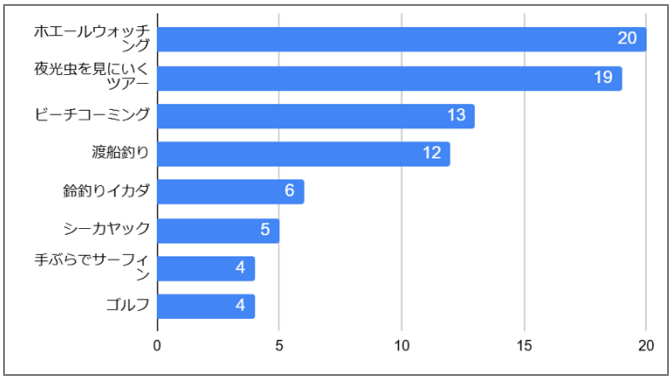


英語圏

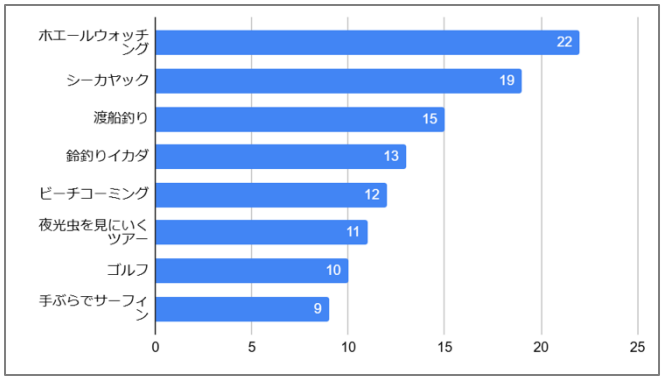


１０．黒潮町で体験してみたいアクティビティは何か（アクティビティ）

中国語圏



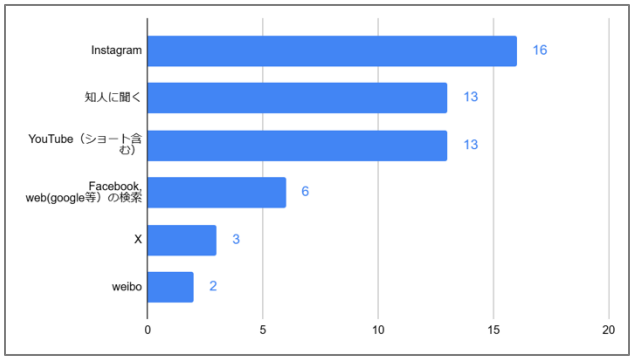
英語圏



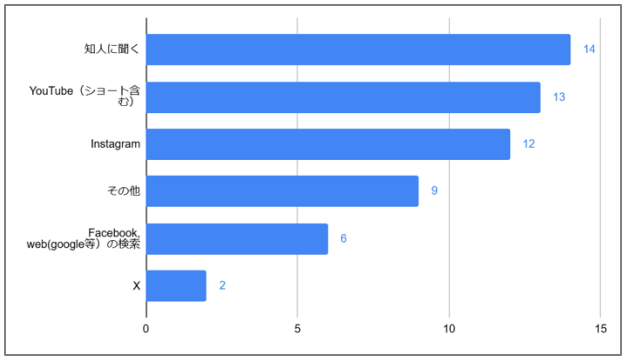
⑤旅行時の情報収集について

１１．旅行中、どこで情報を入手するか（検索キーワード、検索方法）

中国語圏

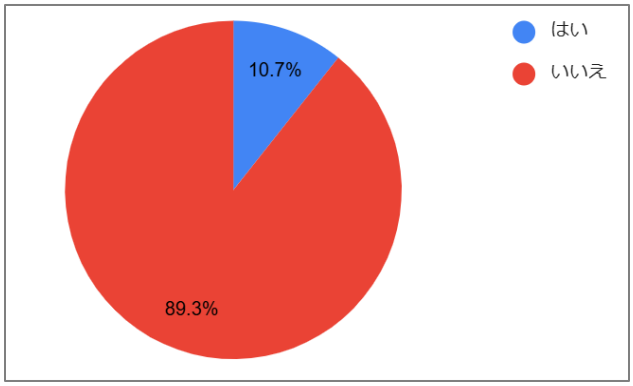


英語圏

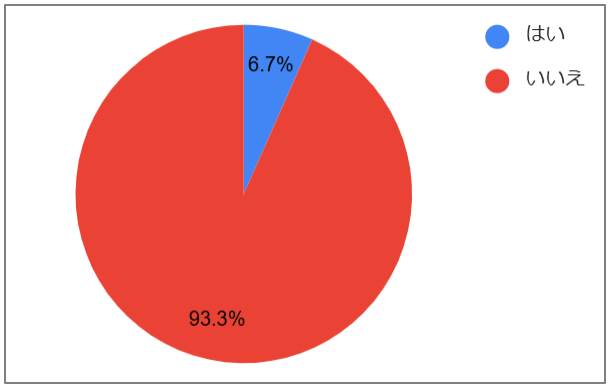


１２．旅行をする際に防災に関する情報を確認するか

中国語圏

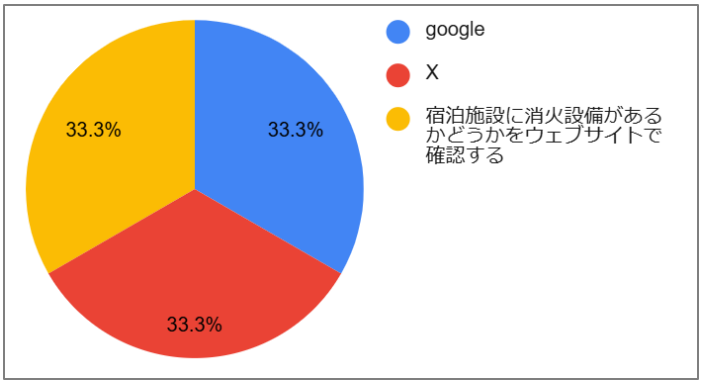


英語圏

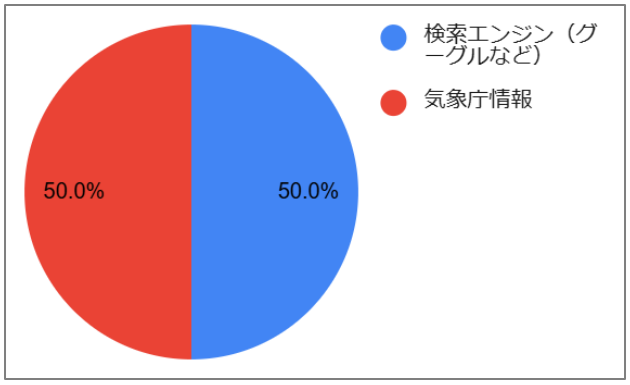


１３．「はい」の場合の検索方法は何か

中国語圏



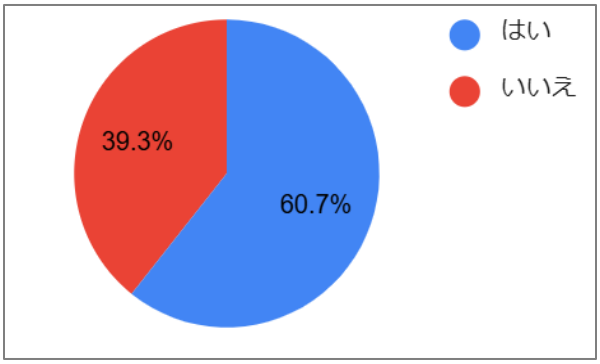
英語圏



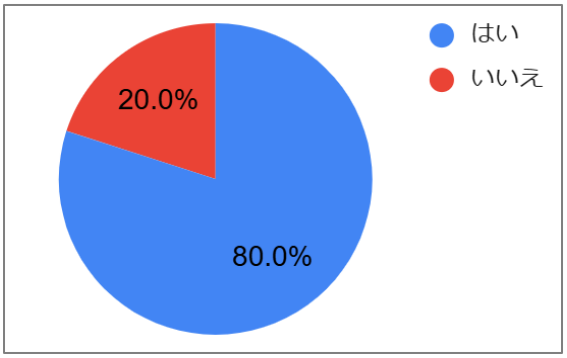
⑥災害について

１４．今までに災害（地震・津波・洪水・土砂災害）を経験したことがあるか

中国語圏



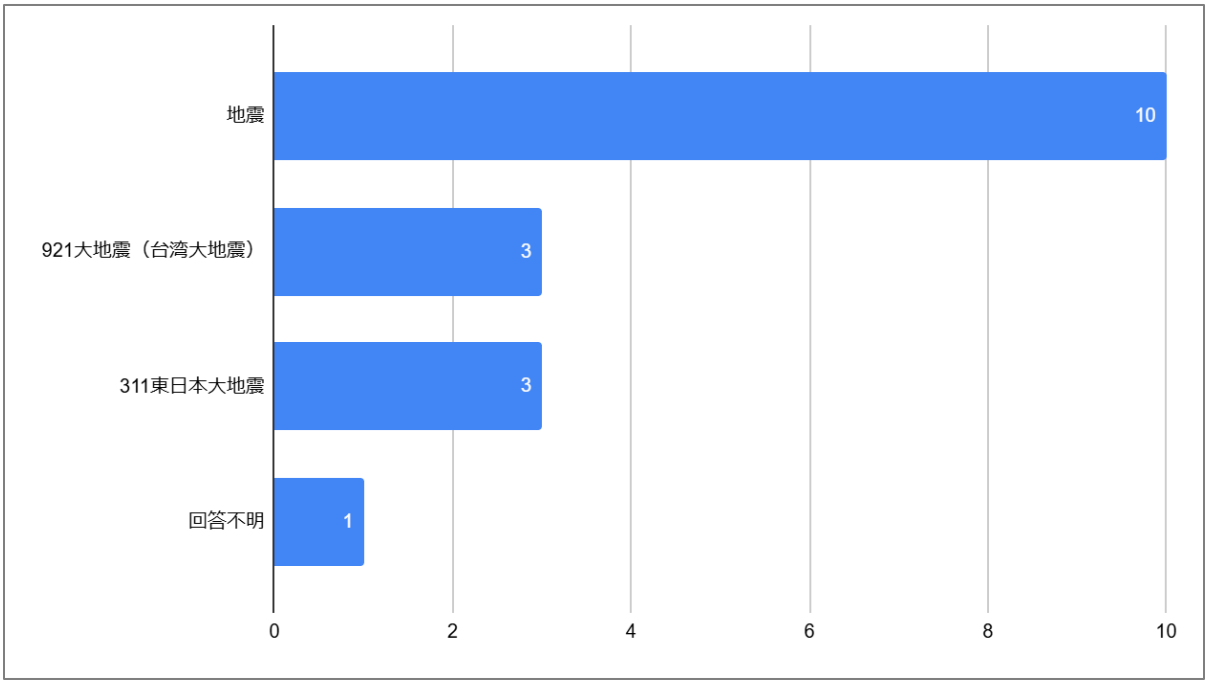
英語圏



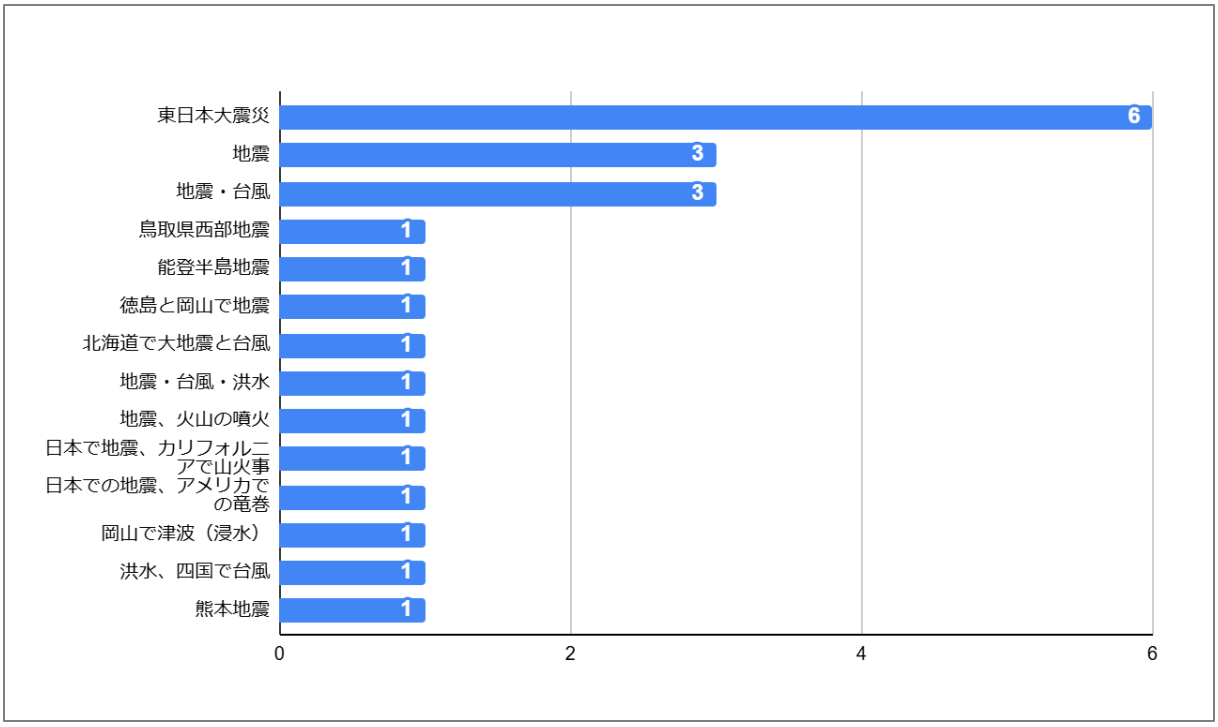
⑥災害について

１５．災害を経験したことがある方 → 体験談(わかる範囲で記入)

中国語圏



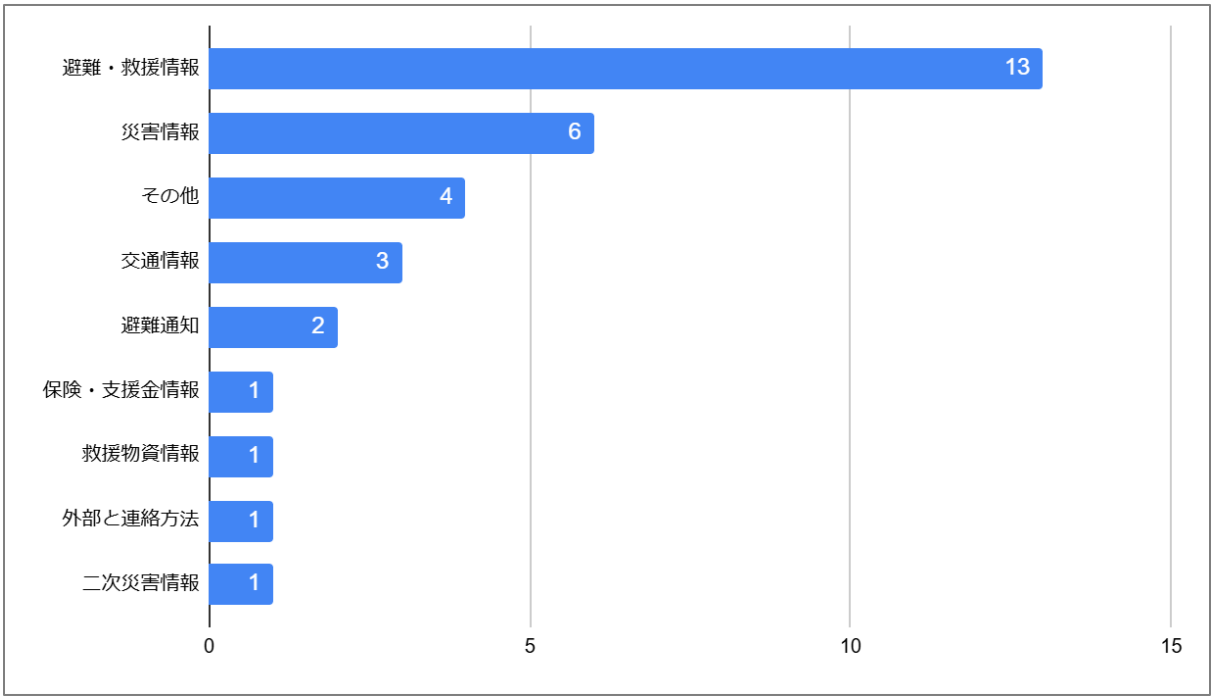
英語圏



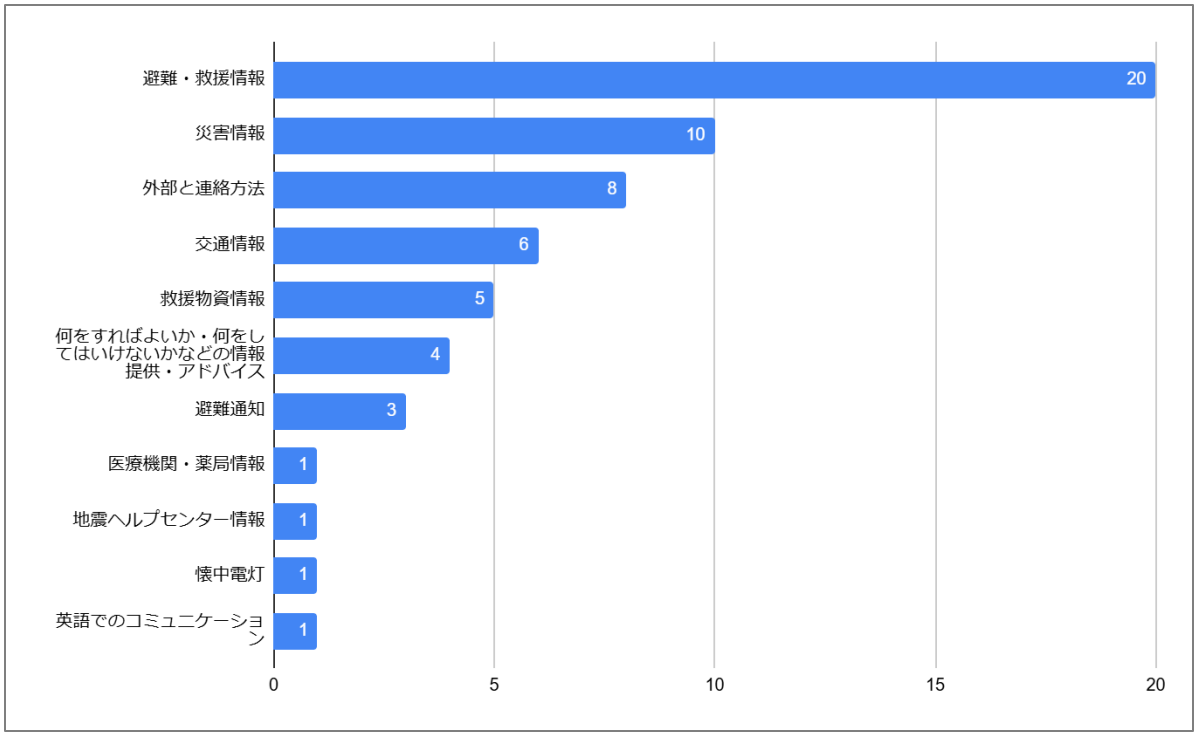
⑥災害について

１６．旅行中に災害が発生した場合、どのような情報が欲しいか

中国語圏



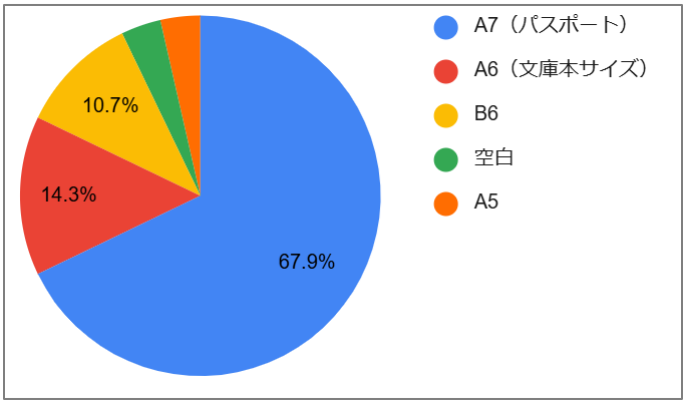
英語圏



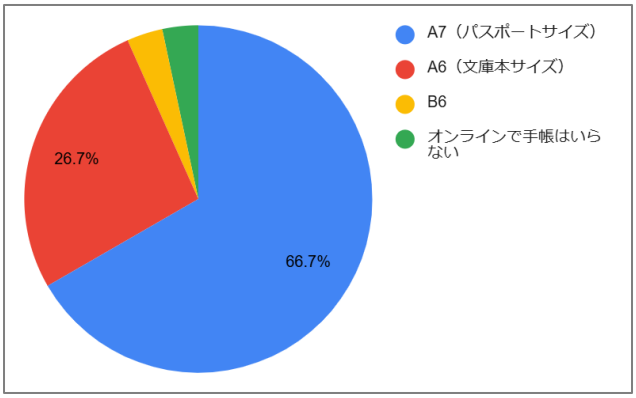
⑦防災手帳デザインについて

１７．防災手帳のサイズはどのくらいが良いと思うか

中国語圏

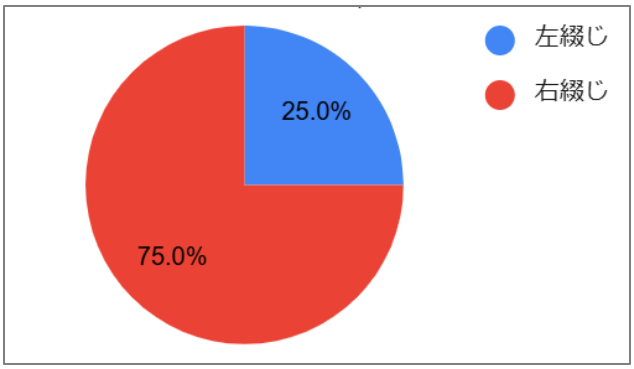


英語圏

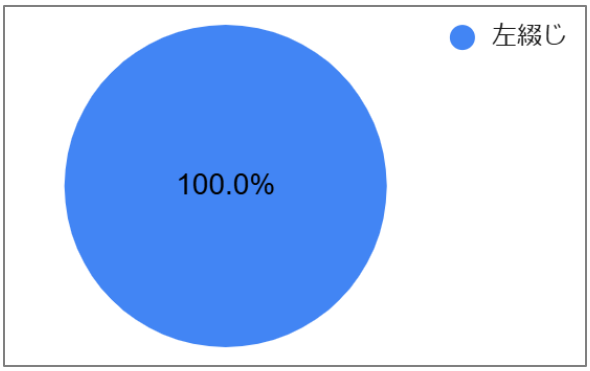


１８．どちらの綴じ方の方が読みやすいか

中国語圏

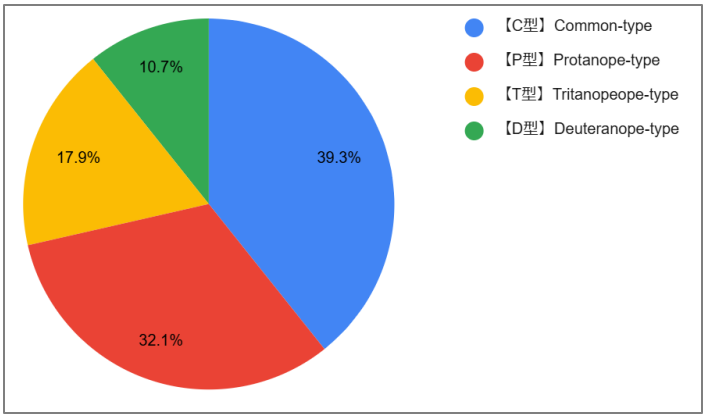


英語圏

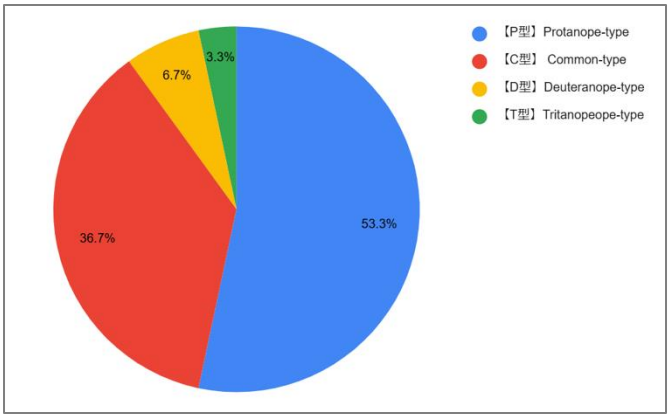


１９．本文デザイン：（以下の配色のうち、どれが一番見やすいか）

中国語圏



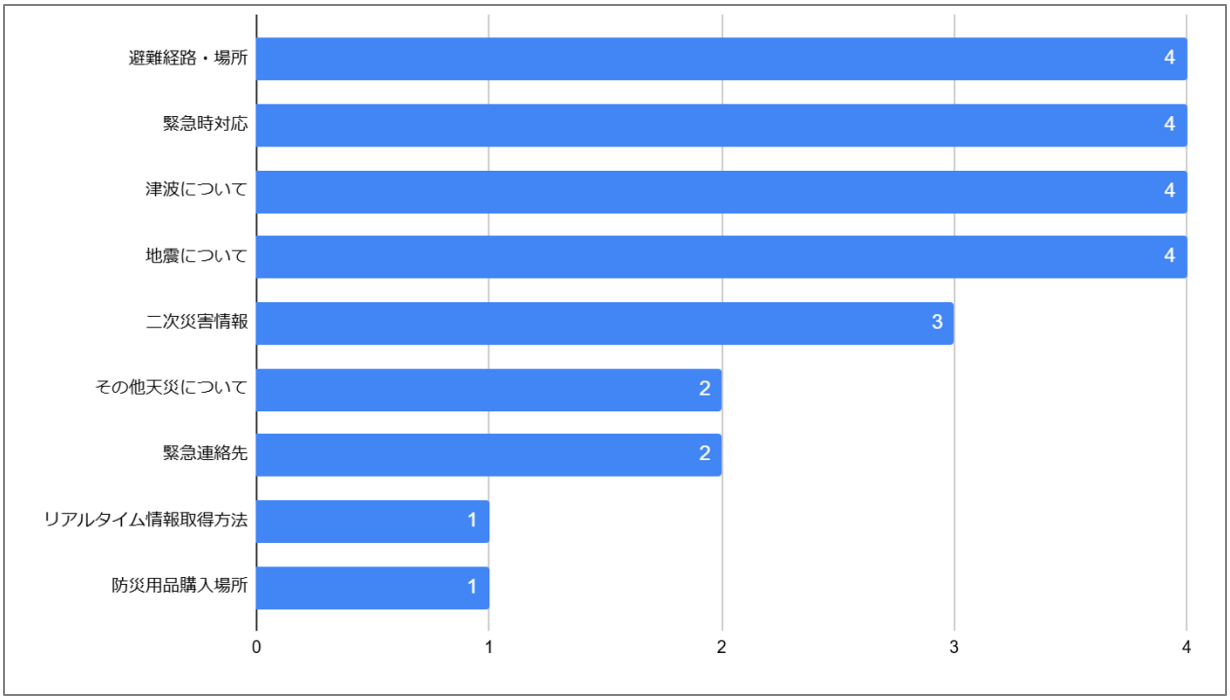
英語圏



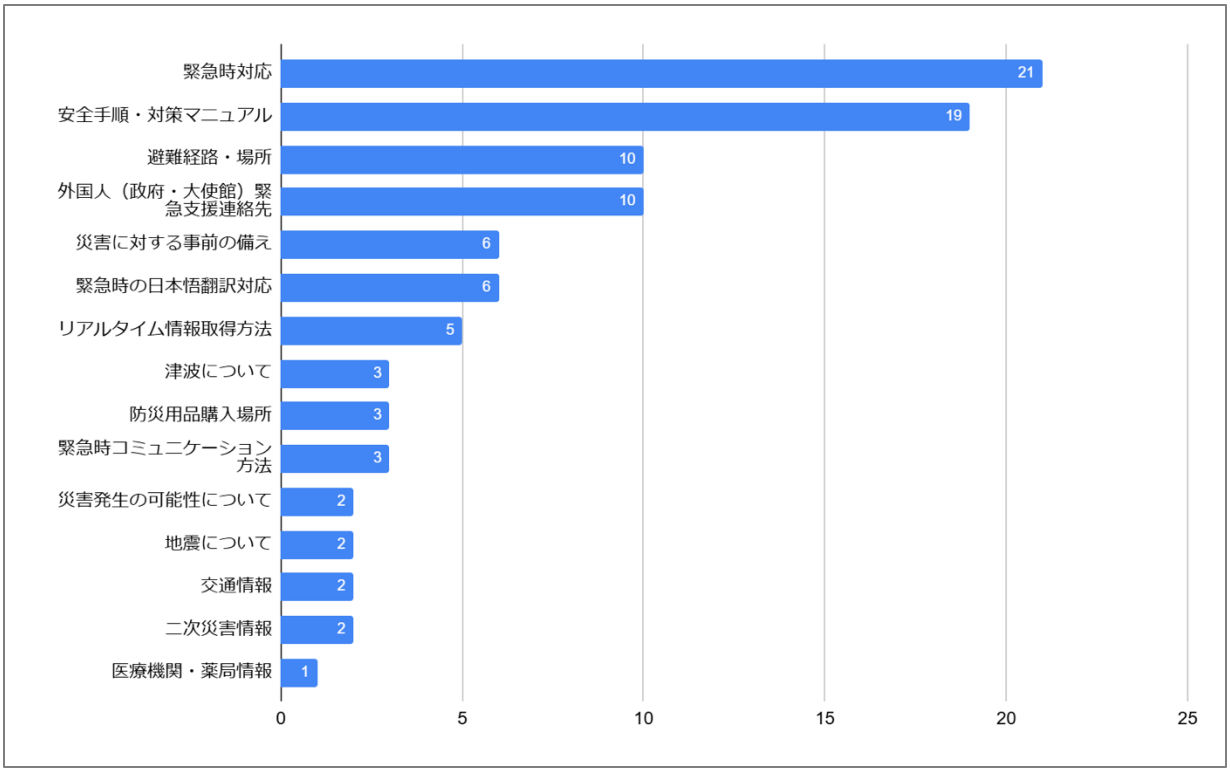
⑧防災手帳の内容について

２０．本文：防災に関する一般的な情報
(防災ハンドブックに掲載してほしい自然災害に関する一般的な情報は何か)

中国語圏



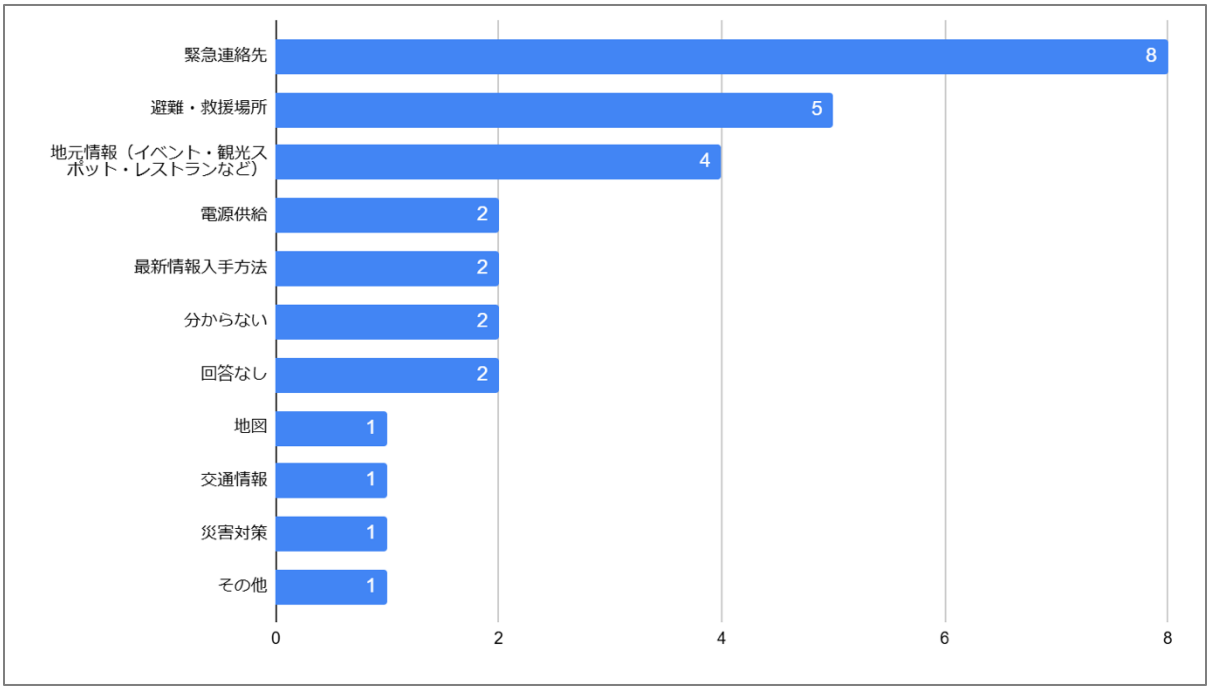
英語圏



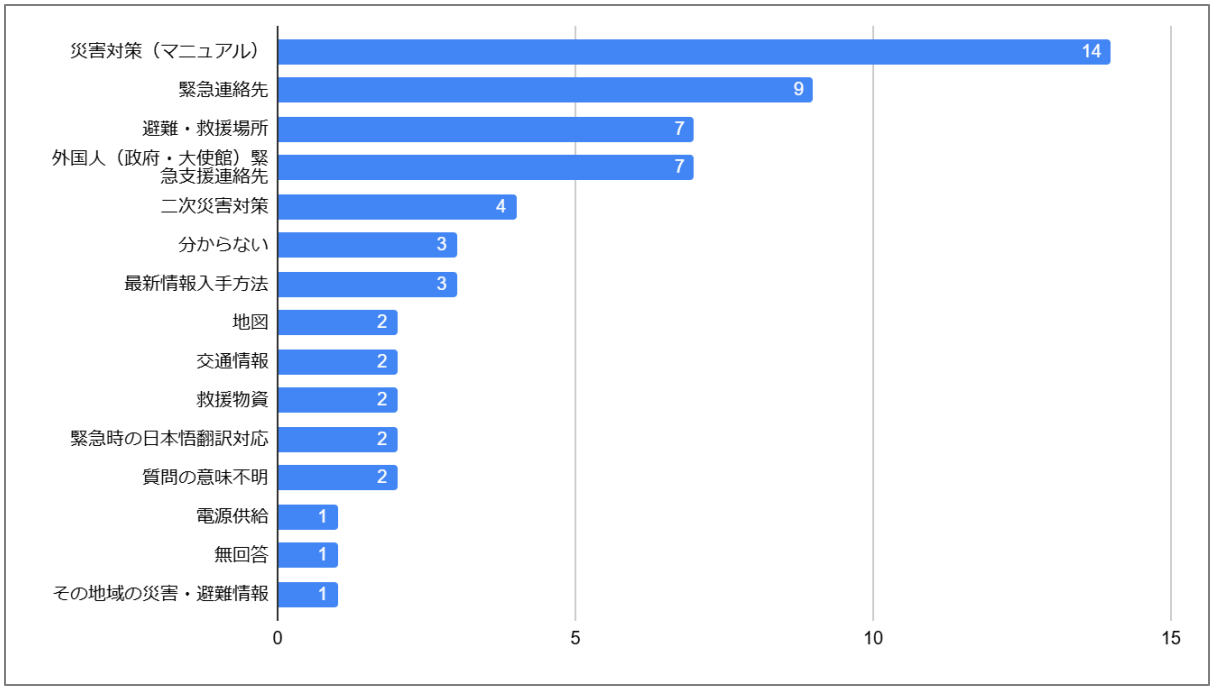
⑧防災手帳の内容について

２１．別紙（カード形式等）：現地に関連した最新の情報で、カード形式で受け取りたいものは何か

中国語圏



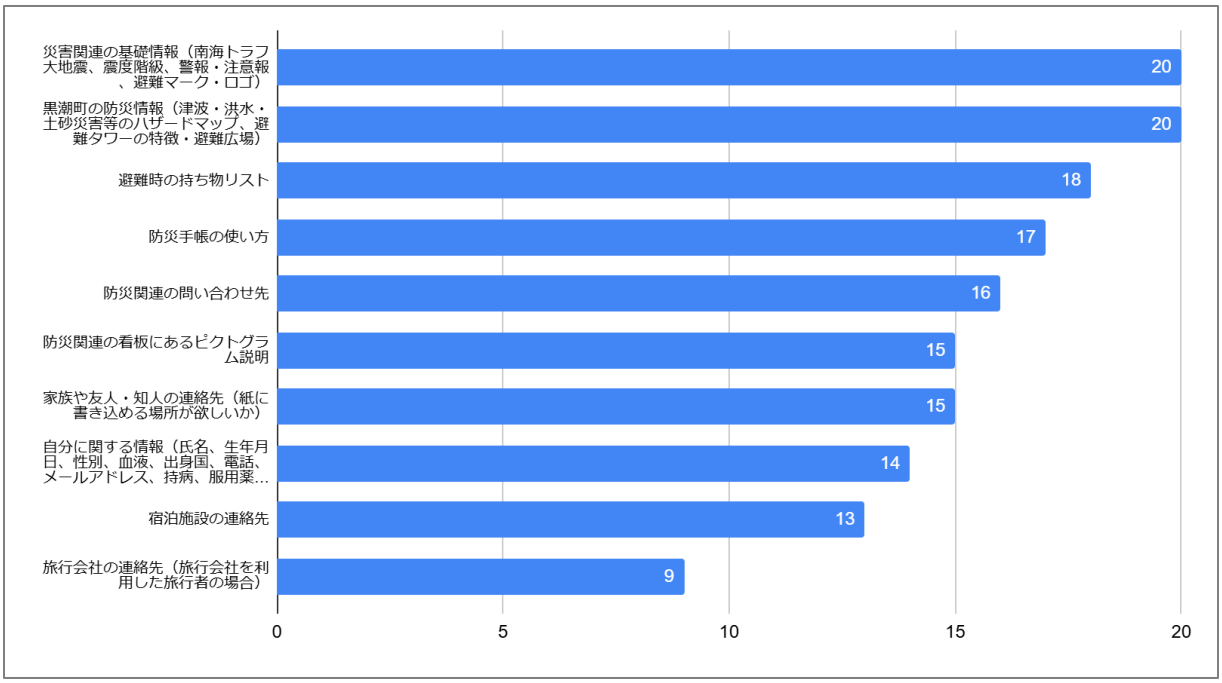
英語圏



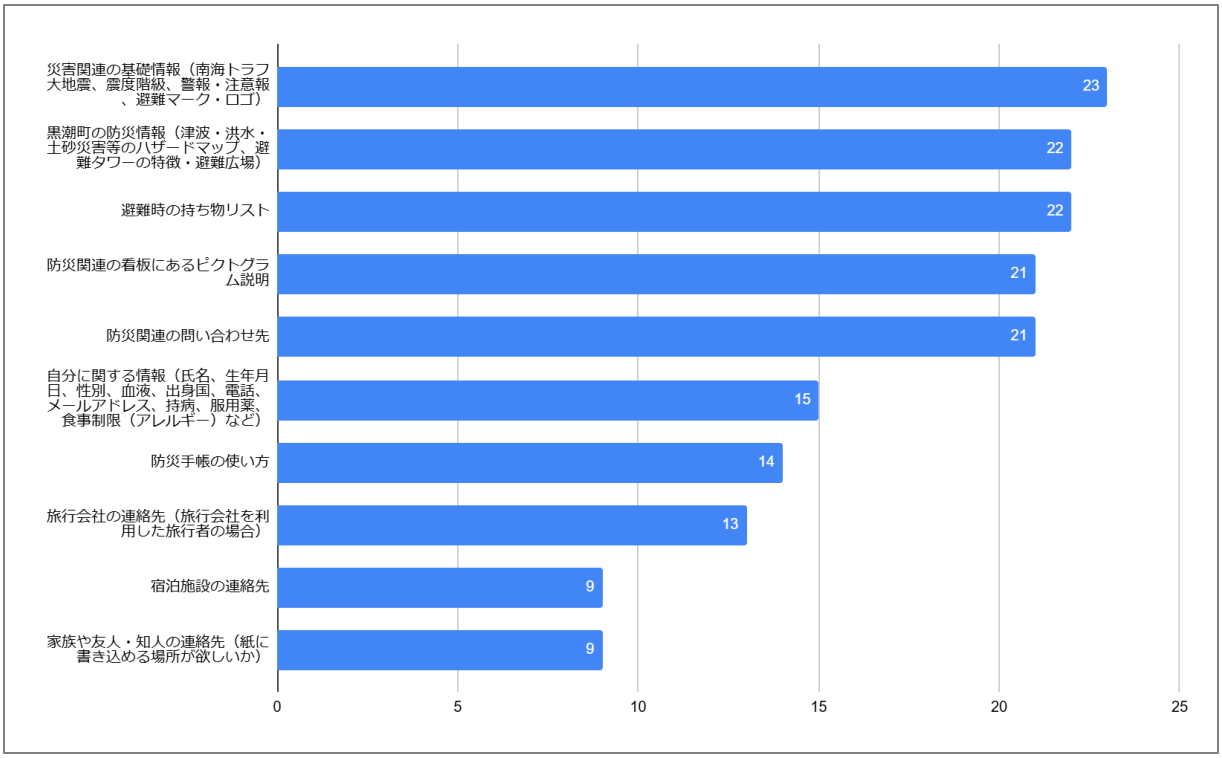
⑧防災手帳の内容について

２２．(災害前) ハンドブックに記載してほしい情報は何か

中国語圏



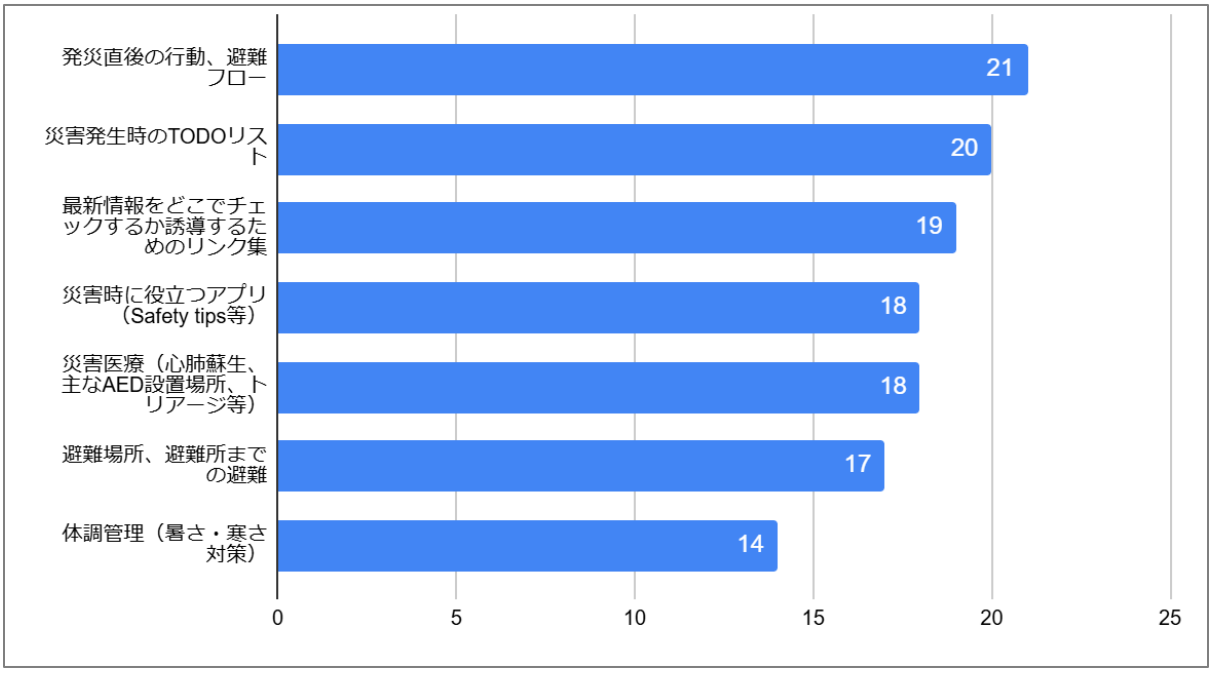
英語圏



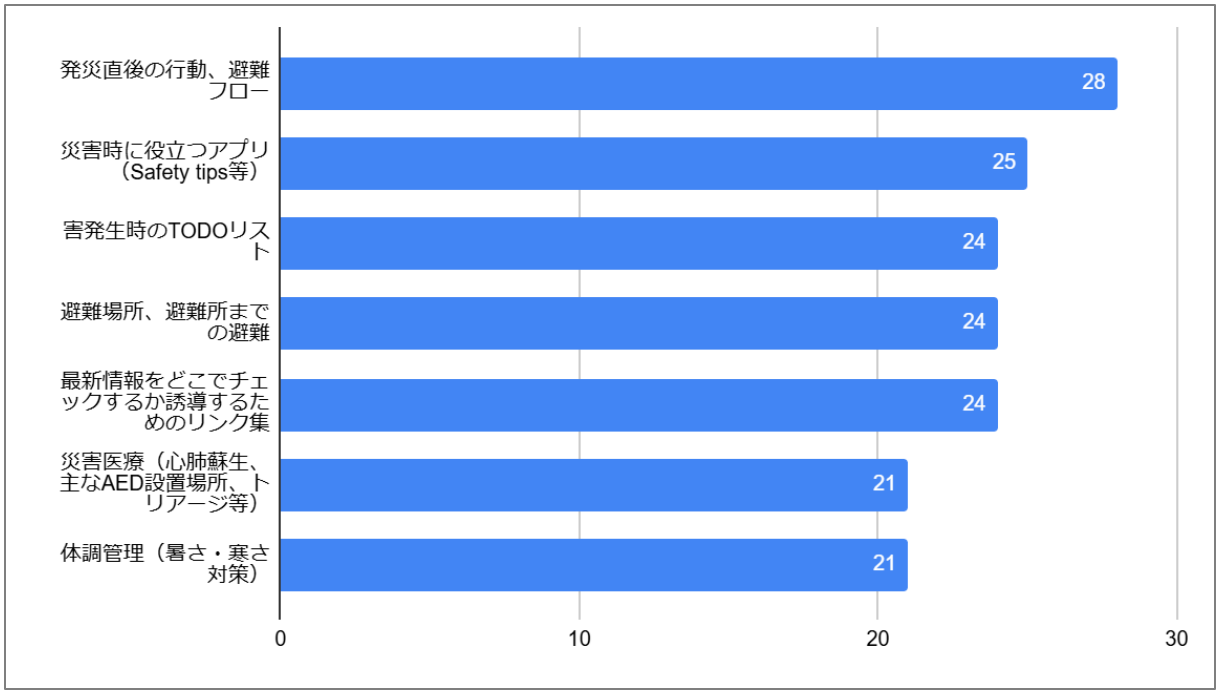
⑧防災手帳の内容について

２３．（災害発生から12時間以内）ハンドブックに記載してほしい情報は何か

中国語圏



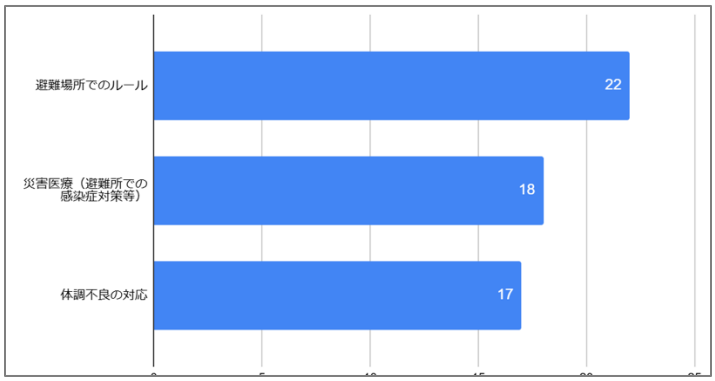
英語圏



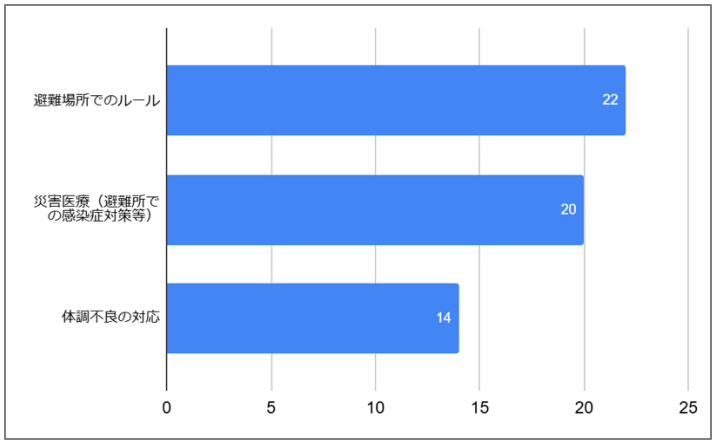
⑧防災手帳の内容について

２４．（災害発生から12時間後）ハンドブックに記載してほしい情報は何か

中国語圏

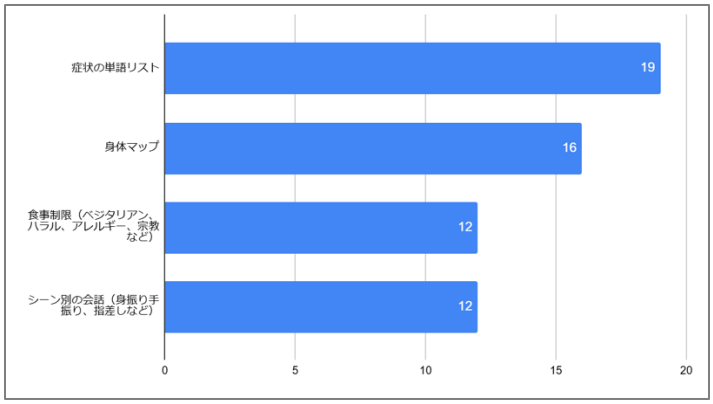


英語圏

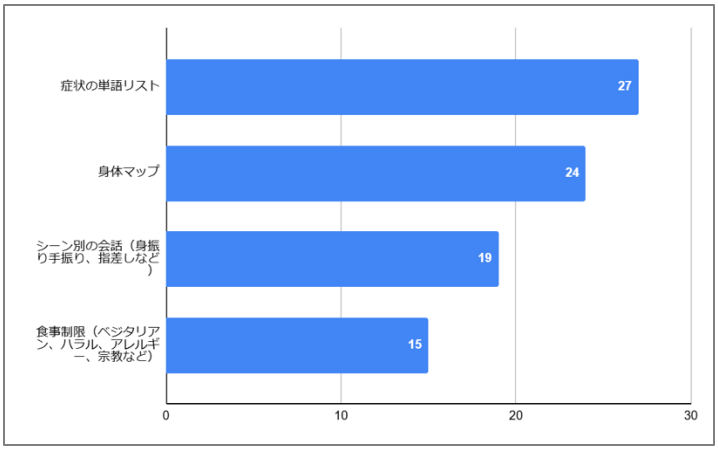


２５．（災害発生から12時間以降）ハンドブックに記載してほしい情報は何か

中国語圏



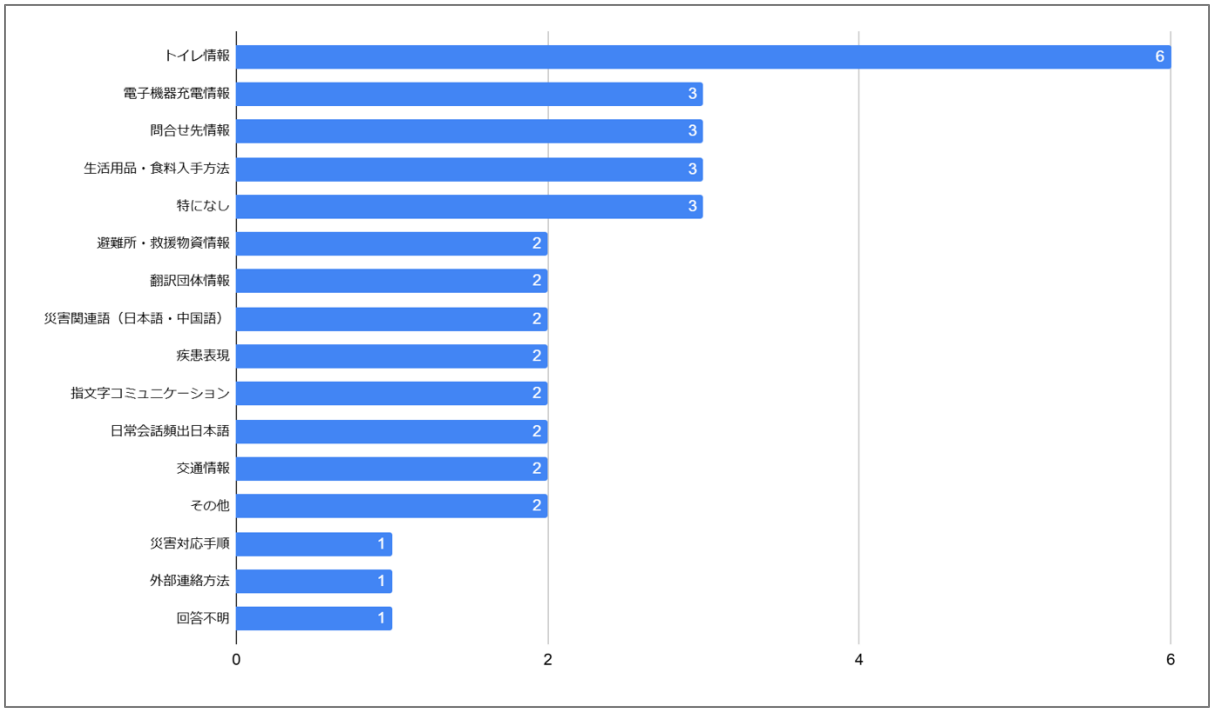
英語圏



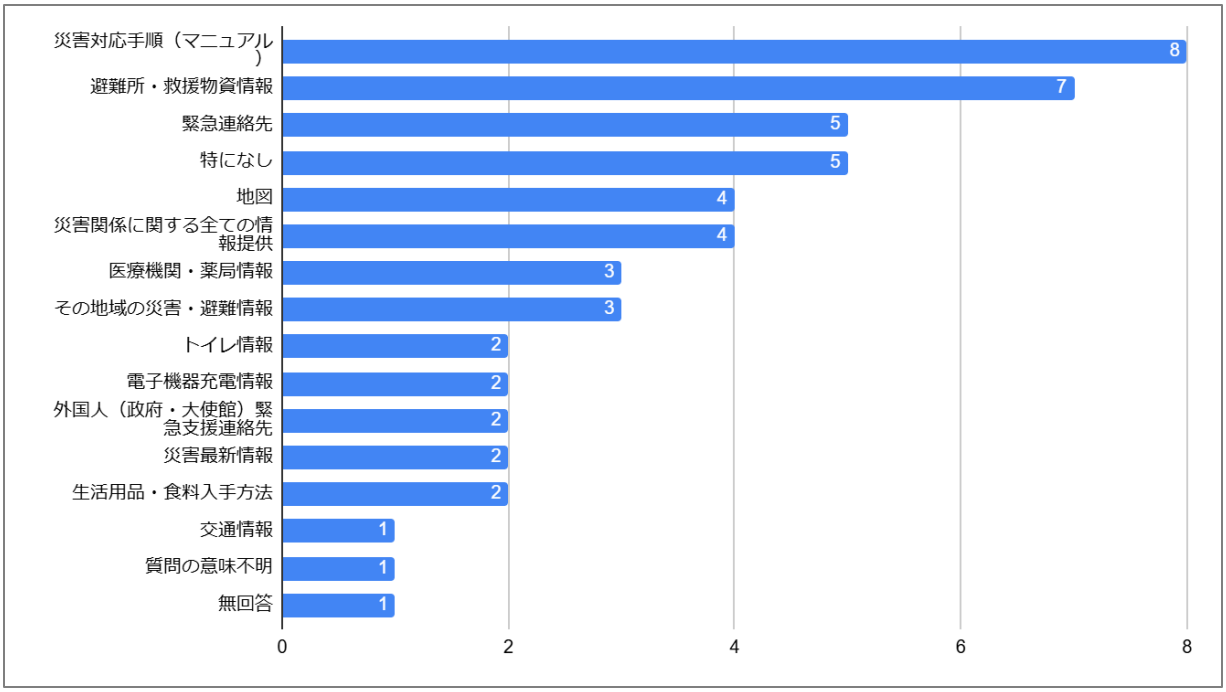
⑧防災手帳の内容について

２６．災害後に日本人とコミュニケーションをとる際に、ハンドブックに記載してほしい情報は何か

中国語圏



英語圏



(5)アンケートまとめ

アンケートの結果から、以下のことが明らかになった。

四国および高知への訪問経験について

・およそ70～75%の人が四国に訪れたことがある。

・そのうち、21%ほどの人が、高知へ訪れたことがある。

・高知へ訪れたことがある人が行った場所は、高知市、四万十市、宿毛市であった。

・四国を訪れた人の理由は、中国語圏では50%が観光、仕事が25%であるのに対し、英語圏は53.3%が仕事、観光を目的としての訪問は3.3%であった。

・四国へ来る移動手段でもっとも多いのは電車で27.9%（英語圏）、36.4%（中国語圏）であり、次に多いのは車で27.3%（英語圏）、20.9%（中国語圏）であった。電車と車を合わせると全体の約半数からそれ以上の人がこの2つの交通手段で四国を訪れていることが分かる。

黒潮町について

・黒潮町を知っている人は、中国語圏は17.9%、英語圏は40%であり、認知度に差が見られた。

・黒潮町で体験してみたいアクティビティ（文化体験）については、どちらの属性においても「カツオの藁焼きタタキ作り」「天日塩づくり」「若山楮和紙づくり」への関心が高かった。

・黒潮町で体験してみたいアクティビティ（アクティビティ）については、どちらの属性においても「ホエールウォッチング」への関心が一番高かった。2番目に関心が高いものは中国語圏が「夜光虫を見に行くツアー」であるのに対し、英語圏は「シーカヤック」と、属性によって違いが見られた。

旅行時の情報収集について

・旅行をする前には、「instagram」「YouTube（ショート含む）」「知人に聞く」という方法で事前情報を入手する人が多い。

・防災に関する情報を調べる人は、中国語圏で10.7%、英語圏で6.7%であり、非常に少数であることが分かる。

・防災に関する情報を調べる人は、googleなどの検索エンジンや、宿泊施設のホームページ、気象庁の情報などから情報を得ていることが分かった。

災害について

・今までに災害（地震・津波・洪水・土砂災害）を経験したことがある人は、中国語圏で60.7%、英語圏で80%であった。

・災害の種類としては、いずれの属性においても地震が一番多かった。中国語圏の方のうち、17.6%は、1999年に台湾で発生した921大地震を経験していた。

・旅行中に災害が発生したときに、欲しい情報については、一番多かったのが「避難・救護支援」、次いで「災害情報」であった。

防災手帳デザインについて

・防災手帳のサイズについては、いずれもA7（パスポートサイズ）がいいと回答している人が多かった。

・綴じ方については、中国語圏の75%が「右綴じ」と回答しているのに対し、英語圏は100%が「左綴じ」と回答し、意見が分かれる結果となった。

・配色については、中国語圏で一番多かったのが「【C型】Common-type」で39.3%であるのに対し、英語圏で一番多かったのは「【P型】Protanope-type」の53.3%となり、色の見え方に違いがあることが分かった。

防災手帳の内容について

・防災ハンドブックに掲載してほしい自然災害に関する一般的な情報としては、「避難経路・場所」や「緊急時対応」「安全手順・対策マニュアル」に加え、「外国人・政府大使館　緊急支援連絡先」「緊急時の日本語翻訳対応」なども挙げられた。

・別紙（カード形式等）で受け取りたい情報については、「災害対策」や「緊急連絡先」「二次災害対策」などが多く挙げられた。

・（災害前）ハンドブックに記載してほしい情報については、「災害関連の基礎情報」や「黒潮町の防災情報」「避難時の持ち物リスト」などが多く挙げられた。

・（災害発生から12時間以内）ハンドブックに記載してほしい情報については、「発災直後の行動・避難フロー」が一番多く、次いで「災害発生時のTODOリスト」という結果であった。

・（災害発生から12時間後）ハンドブックに記載してほしい情報について一番多かったのは「避難場所でのルール」、次いで「災害医療（避難場所での感染症対策等）」であった。

・（災害発生から12時間以降）ハンドブックに記載してほしい情報については一番多かったのは「症状の単語リスト」次いで「身体マップ」であった。

・災害後に日本人とコミュニケーションをとる際に、ハンドブックに記載してほしい情報については、中国語圏は「トイレ情報」「生活用品・食料の入手方法」「電子機器充電情報」が挙げられ、英語圏は「災害対応手順（マニュアル）」や「避難所・救援物資情報」が挙げられた。

(6)防災手帳の製作

外国人アンケートや現地ヒアリング、ワークショップで話し合われた内容を参考に防災手帳を製作した。

表紙

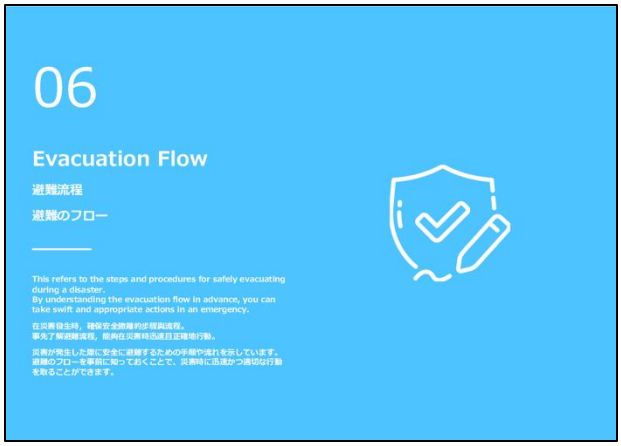
関係者との話し合いを重ねる中で、表紙と裏表紙で異なるデザインを取り入れることになった。
この組み合わせについては
表紙（右側）：平穏な海のイメージ
裏表紙（左側）：災害時の荒々しい波のイメージ

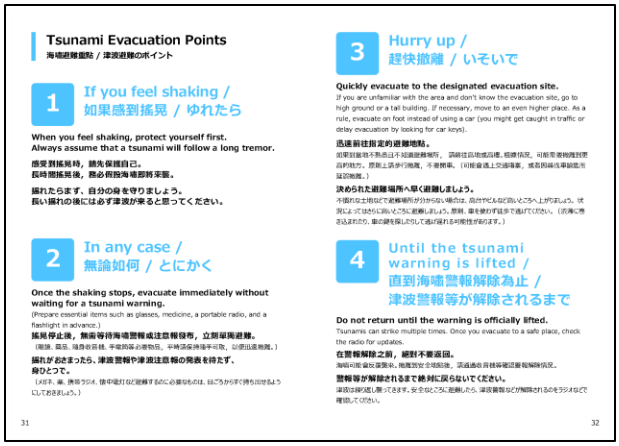
という対比を作ることで、黒潮町が黒潮宣言の中で述べている「自然の恵みを享受し、時に災害をもたらす自然の二面性を理解しながら、その脅威に臆することなく、自然を愛し、自然と共に生きていきます。」というメッセージを表現している。

内容（一部抜粋）

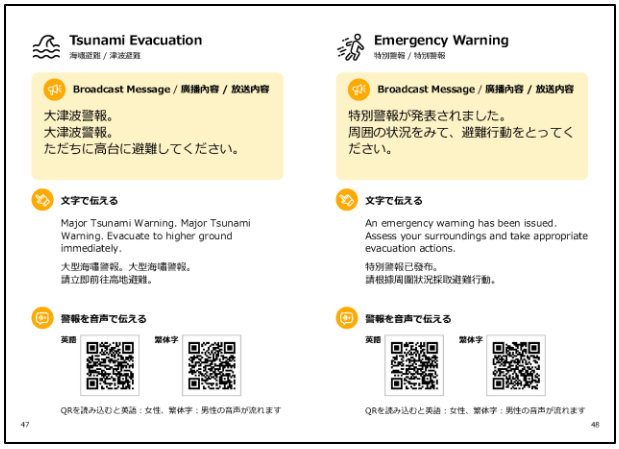
発災前・発災中・発災後のフェーズによって章分けをしそれぞれのフェーズで必要な情報をまとめた。

発災前　避難のフロー

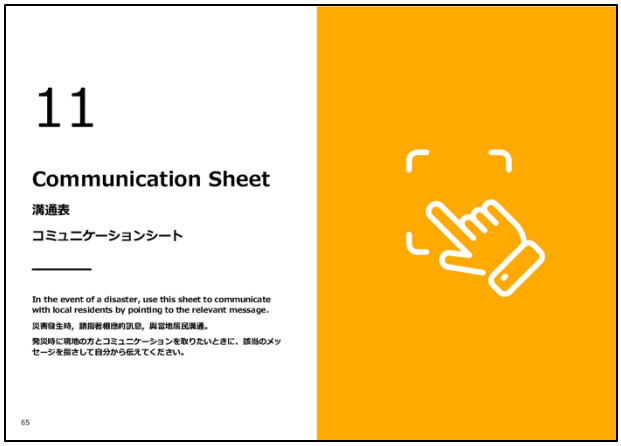


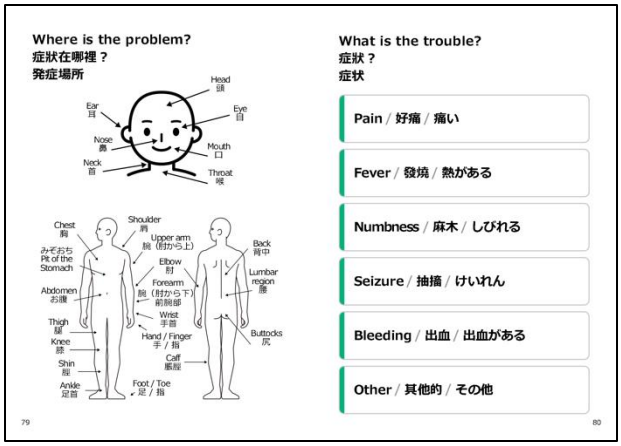


発災中　防災無線情報



発災後　コミュニケーションシート





4.会議・報告会の実施

本事業においては、開始時、中間及び最終において報告会を開催し、事業の進捗状況について報告した。

4-1.全体フロー

8月6日
開始時会議（会場）
事業内容の説明

12月20日
中間報告会（会場及びオンライン）
デスティネーションプロフィール
アセスメントレポート

2月26日
最終報告会
アクションプラン
防災手帳

会場の様子（開始時会議）

4-2.開始時会議

（1）実施概要

敬称略

- 日時　　：令和6年9月19日(火) 15：30～16:30
- 実施方法：対面＋オンライン(Zoom)
- 会場　　：ふるさと総合センター 会議室
- 参加者　：23名（次頁参照）
- 内容　：

1. はじめに　四国運輸局 観光部 次長　上戸 康弘
2. 参加者自己紹介
3. 事業内容の説明 リベルタ株式会社 林 美希子
4. 挨拶

   山﨑 裕也(黒潮町役場産業推進室 観光係 係長)

   三浦 治(一般社団法人 幡多広域観光協議会 事務局長)

   森田俊彦(一般社団法人 黒潮町観光ネットワーク 代表理事)
5. おわりに　四国運輸局 観光地域振興課 課長　福島 史晃

会議の様子

（２）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	開始時会議	WS①
1	黒潮町	森田俊彦	もりた　としひこ	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
2	黒潮町	高石麻子	たかいし　あさこ	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
3	黒潮町	瀧本淳平	たきもと　じゅんぺい	一般社団法人　黒潮町観光ネットワーク	○	○
4	黒潮町	山﨑裕也	やまさき　ひろなり	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
5	黒潮町	小野日菜子	おの　ひなこ	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
6	黒潮町	伊藤翼	いとう　つばさ	黒潮町役場産業推進室　観光係	○	○
7	連携組織	三浦　治	みうら おさむ	一般社団法人　幡多広域観光協議会	○	○
8	連携組織	東　泰照	ひがし やすてる	一般社団法人　幡多広域観光協議会	○	○
9	オブザーバー	松本　栄志	まつもと　えいじ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
10	オブザーバー	竹内　里見	たけうち　さとみ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
11	オブザーバー	井上　郷平	いのうえ　きょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
12	オブザーバー	藤井　椋平	ふじい　りょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
13	オブザーバー	大上　莉賀子	おおうえ　りかこ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
14	オブザーバー	佐伯　友里恵	さいき　ゆりえ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	×
15	オブザーバー	小栗　充裕	おぐり　みつひろ	株式会社四国銀行　地域イノベーション部	オンライン	オンライン
16	事業実施主体	上戸　康弘	うえと　やすひろ	国土交通省　四国運輸局　観光部	○	○
17	事業実施主体	福島　史晃	ふくしま　ふみてる	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
18	事業実施主体	福池　愛	ふくいけ　あい	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
19	事業実施主体	山本　佳波	やまもと　かなみ	国土交通省　四国運輸局　観光地域振興課	○	○
20	事業実施主体	宮野　広至	みやの　ひろし	国土交通省　四国運輸局　高知運輸支局　総務・企画観光部門	オンライン	オンライン
21	受託事業者	林 美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○
22	受託事業者	横内 直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	オンライン	オンライン
23	受託事業者	渡辺 祐子	わたなべ　ゆうこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○

（３）実施内容

1. 開会の辞

【国土交通省 四国運輸局 観光部 次長 上戸康弘】
コロナ禍を経て、現在は各地でインバウンドを含めた観光が急速に回復を見せている。政府として「地方誘客の促進」「持続可能な観光の推進」のキーワードに、「インバウンド回復戦略」「高付加価値で持続可能な観光地域づくり戦略」の戦略を総合的かつ強力に推進している。
四国運輸局は地域周遊観光促進に係る四国地域方針において、四国の豊かな自然を活用したアドベンチャーアクティビティなど、自然環境の保護・保全を意識した観光資源を活用した観光指標(以下、JSTS-D)を活用した持続可能な観光地経営の意識醸成に取り組んでいる。2025年までにJSTS-Dのロゴマーク取得を16地域・団体、グリーン・デスティネーションズ「世界の持続可能な観光地TOP100選」（以下、TOP100選）に累計8地域選出されることを目指している。直近3年間ではTOP100選に四国から6箇所選出された。
「四国は日本経済の３％経済」といわれているが、持続可能な観光については世界の３％といえる。黒潮町においては、南海トラフ地震に備え町で様々な防災対策を実施しており、防災教育とツーリズムを融合させた「防災ツーリズム」にも積極的に取り組まれている。自然に囲まれた町として、自然の「恵み」と「脅威」と相反する二つの力を理解し、付き合っていくという考え方はまさに「持続可能な観光地」に向けたものであり、その取り組みをより体系化・高度化し世界の持続可能な観光地への選出も視野に入れられるような土台を構築するために、今年度の本事業実施となった。本事業を通して、黒潮町に住む人も、来る人も誰一人残さないことを大目標に、黒潮町ならではの持続可能な観光のあり方を共に確立していきたい。

2.参加者自己紹介

3.事業内容の説明

林 美希子（リベルタ株式会社）

①事業の背景と目的 ： 黒潮町の防災ツーリズムの取り組みに着目し、持続可能な観光地を目指す。防災と観光を組み合わせたコミュニティ・ベースド・ツーリズム（以下、CBT）を推進する計画で進めていく
②事業内容 ： JSTS-Dを用いて黒潮町の現状把握と課題抽出を行う。国際認証機関であるグリーン・デスティネーションズの「Top100 Stories」へのエントリーも視野に入れたアセスメントレポートを作成。ステークホルダーとの意見交換を経て、次年度以降の取り組みをアクションプランとしてまとめる。また、受け入れ環境整備の一環として、外国人観光客向けの防災手帳(英語・繁体字)を250部ずつ作成する
③定量目標と定性目標 ： 定量目標としては、アセスメントレポート、防災手帳の部数、ワークショップ回数などが設定されている。定性目標としては、わかりやすさ、見やすさなどを重視していく
④実施体制 ： 四国運輸局、黒潮町役場、黒潮町観光ネットワーク、幡多広域観光協議会が連携して事業を推進する
⑤スケジュール ： 8月の開始時会議から3月の事業完了までの行程で進めていく

（３）実施内容

【事業の概要説明】

・事業の方向性： JSTS-Dを用いて黒潮町の観光の取り組みについての現状把握を行う

・コンセプト：黒潮町がすでに取り組んでいる、「避難放棄者ゼロ・犠牲者ゼロ」をもとに、観光にかかわる部分についてCBTの観点から防災ツーリズムの方向性を検討し、事業体系を整える

・JSTS-D指標：今回の事業は実際に指標を活用しながら地域を持続可能な観光地として経営していくためのステップを具体的に整えていく
来年度以降外部の事業者が抜けた際に終了することのないよう、基本的には観光庁などが整えた実施ステップに沿って2年目以降も進んでいけるよう、スタンダードなものに沿って進めていく

・JSTS-D申請：まずはデスティネーションプロフィールの作成やアセスメントレポートの作成を行う。最終的には2025年1月中にアクションプランの検討と最終化が終えるように事業を進める想定。スケジュール感としては3月を目途に国際認証の申請に間に合うよう進めていきたい。国際認証にエントリーする際に必須となる地域のプロフィールシートも作成予定。デスティネーションプロフィールに関してはフォーマットに沿って黒潮町に作成いただく

・本事業の実施業務：地域のなりたい姿と課題を明確にするためJSTS-Dの指標でアセスメントを行い具体的にどういった取り組みが有効で何をしたらよいのかを考えたうえで、アクションプランの策定を行う。これは、持続可能な観光地経営の第1ステージ土台形成という位置づけとなり、次のステージの一つのアクションとして防災手帳の策定が含まれる。第1ステージの課題や取り組みを基に、海外の方を含む町外からの来訪者の受け入れ体制の整備が重要なため、事業の設計の流れに沿って進めていく想定

・定量目標と定性目標：持続可能な観光の現状や課題調査の部分に関し、黒潮町のデスティネーションプロフィールの作成を行う。そして、JSTS-Dのアセスメントレポートを取りまとめていく

・アクションプラン：アセスメントレポートの結果をふまえ、次年度以降に取り組んでいくアクションプランを体系化する

・黒潮町防災手帳の作成・仕様案：来訪者を対象としたものを作成する想定。対応言語は英語・繁体字の二つの外国語、これに日本語を併記する形で地元の方が同じものを一緒に見てコミュニケーションがとれるように作成。防災手帳のデザインについてはユニバーサルデザインに配慮し、見やすいデザインを心がける

・外国人目線のアンケート調査の実施：英語圏、繁体字圏含めて50名以上を目標に要素情報やサイズ感のヒアリング、およびアンケート調査を実施予定。アンケート内容はサイズ感や色に加え、左綴じ右綴じや表紙のデザインなど細かい部分までしっかり確認。内容は情報量の多さから「見やすさ」から離れる懸念点があるため、1冊の本として本体と別紙に掲載する情報を分ける。また、防災手帳の作成に関し、主に黒潮町防災課にデータを共有依頼する。また、各地域の避難誘導などにいる地域の方にも可能な限りヒアリングを行っていく予定

・黒潮町防災手帳全体の構成：時系列で章立てをし、今どこのページを見るとよいかがわかりやすいようにする。大きく4つの章に分け、発災前、発災から12時間まで、発災から12時間以降の3つのフェーズと、各フェーズに取りたいコミュニケーションで使われるであろう単語などのツールの章で構成する予定。この手帳を持っていれば、言葉が通じなくても今の自分の状態が伝えられるコミュニケーション機能をもたせる手帳の構成にしたい。ツールとして指差しを提案し、指を指せばどこがどういう状態かがわかる要素を取り入れていく

・配布部数：今年度は主に紙ベースにて英語と繁体字、日本語を併記したバージョンをそれぞれ250部ずつ製本予定。基本的にパワーポイントを使用して製作。今後QRコードで読み込める活用方法についても提案も盛り込む予定

・受け入れ環境整備：防災手帳の作成においては、見やすさも意識する。日本人に比べ特にヨーロッパ系の方は色の見え方赤や緑のコントラストが見えづらい色覚のタイプが日本よりも多いため、配慮した配色を心がけて作成

（３）実施内容

【業務スケジュール】

・黒潮町防災手帳：会議での意見もふまえ、構成案を8月中に整える。必要なページの作成も部分的に入っていく。外国人の方向けにアンケートは早い段階から実施していきたい。情報収集やページ作成、関係者へのヒアリングを継続的に行い、最終的には12月までを目処に最終ページまでが完了するよう、適宜必要に応じて現地ヒアリングを入れていく想定。1月下旬に最終的にデータの校了が目標。その後印刷製本に入れるよう、作成していく予定。受託業者リベルタのクリエイティブ事業部と連携をとり、一貫して制作を進めていく

・アセスメントレポートの作成：9月上旬～113の指標を使った入力フォームを黒潮町へ送付。必要箇所の埋め込み作業を進めていただく。その後オンラインミーティングにて黒潮町観光ネットワーク様へ追加ヒアリングを実施予定。完成は10月中旬を目標とし、結果をふまえて第2回のワークショップにてアセスメントから見えてきた部分の報告をするとともに、今後の取り組みに関する考案をしていく

・ワークショップ②：多方面からの意見やアクションなどをもとに内容の体系化。年末までを目処にアクションプランの最終化。地域のデスティネーションプロフィールを作成・JSTS-Dの113の指標での現状のチェック、その内容をふまえた意見交換、次年度以降の取り組みとなるアクションプランの作成、以上の3点セットで進める

・事業運営：ワークショップや中間報告などを含め、現地では3回の実施を想定。3月28日が事業の契約完了となるため、3月末までに全ての業務が進むように実施する

・防災ツーリズムについて：持続可能な観光地として商談会に出た際、CBTの観点から体験収入の一部が地域に還元されるなど、説得性のあるPRができるようになることが大切であり、これは国際認証の申請の際にも大きく役立つと考える

（３）実施内容

【意見交換】

【四国運輸局観光地域振興課 研修員 山本佳波】
マレーシアの事務所にいたが、マレーシア人も含め外国人旅行客は地震に対しての恐怖がかなり大きい。そのためどうしても地震のイメージが先行してしまうと怖い印象を持たれることが懸念点である。黒潮町はたくさんの魅力があるため、自然の怖さとも向き合っている意味でも、防災手帳において最初の1ページの部分などに前向きな防災に取り組みとともに、自然が豊かで大変魅力的なものであり、教育もあり、そこに向き合っているというストーリーを1ページ説明として入れてはどうかと思う。防災のみの冊子で終わるのではなく、いろんな背景や思いを込めたページがあったらと思う。
また、今回の取り組みとの一貫として外国人向けにページのサイズや色のアンケートを取る際、プラスアルファの質問がほしい。
一例として黒潮町の周知について、黒潮町にこれから来てくれるであろう方向けに知りたい質問を含めたアンケートがあってもいいかと思う。

【リベルタ株式会社 トラベル事業部地域開発部 執行役員兼部長 林美希子】
アンケート内容に黒潮町や四国の周知について、津波や地震の経験の有無などをふまえ、できれば黒潮町のURLを貼り付ける形で何に惹かれたのかなども含めたいと思う。その結果が今回の業務1のアクションプランの立案の参考にもなるため、そういった要素も入れるよう進めていく。ただ個人情報に関わるようなところが特にヨーロッパ圏は非常に厳しいため、傾向を分析するような内容は内容が取りづらいところがあるため、個人にかかわるところは伺えない。地域、国、食事制限、年齢、地域に関しての防災以外の要素も入れていきたいと思う。

4.挨拶

【黒潮町 黒潮町役場 産業推進室観光係 係長 山﨑裕也】
今年度黒潮町における持続可能な観光地への現状課題調査および受け入れ環境整備事業として、昨年度四国運輸局よりお声がけいただき、今年度の実施が実現された。当町防災に関しては、計画書にも記載の通り南海トラフ巨大地震による津波高34.4mの津波想定を受けて防災地域担当制による職員1人1人が担当地域に入り、地域と一体となって防災の取り組みを進めている。さらに近年では防災も重要な観光資源であるとの考え方により、当町でしかできない防災ツーリズムを一つの体験型観光コンテンツとして、観光DMOである黒潮町観光ネットワークを中心としながら、地域を巻き込んだ体験メニューとして提供を始めているところである。今後企画書でも提案の通り、黒潮町の防災ツーリズムと持続可能な観光のあり方の一つになっているCBTを体系化し、住む人も来る人も、誰1人取り残さないという地域に暮らす人々の思いとともに、黒潮町がモデルとなって持続可能な観光をすすめていくことが、非常に重要となってくると思っている。観光関係の皆様と連携をしていくことはもちろんのこと、役場内部においても、部署を超えて取り組みや考え方を広げ次年度以降も取り組みを継続できるようにしていきたいと考えている。今後、四国運輸局をはじめ関係者とともに、町の現状課題調査および受け入れ環境整備を進めていく。

【一般社団法人 幡多広域観光協議会 事務局長 三浦治】
地域での取り組みに着目いただけるということに非常に期待をしている。四国ツーリズム創造機構にてサステナブルアイランド四国を宣言されているため、幡多地域でもサステナブルを前面に打ち出して頑張っていきたい。今まで100を超えるいろんな体験メニューをメインに進めていたが、全国的な世界的な流れの中のサステナブルツーリズムをいち早く取り組みたい思いで参加している。GSTCやサステナビリティコーディネーターの研修も受けているため、幡多地域の中でも戦略として頑張っていきたいと考える。黒潮町の取り組みが来年度以降、また他の市町村にも広がっていくようにしたい。また、協議会も今年度、四国ツーリズム創造機構で開催するトレーニング等に2名の職員を受講させる予定。財政的にも意識しながら、サステナブルツーリズムを引っ張っていけるような組織として、各方面の皆様方のご協力をいただきながら頑張って進めたい。黒潮町と一緒にこの事業が成功するように連携していきたいと思う。

（３）実施内容

【一般社団法人 黒潮町観光ネットワーク 代表理事 森田俊彦】
黒潮町としては事務局が3名体制となっており、観光組織が人手不足により、職員一人あたりの負担が大きく大変なのが現状だが、黒潮町、また、幡多広域観光協議会に支援いただきつつTOP100選に向けて頑張っていく所存である。

5.閉会の辞

【四国運輸局 観光地域振興課 課長 福島史晃】
日頃よりDMOや観光関係者と付き合いをさせていただく中で、我々のやりたいことや我々がお手伝いできることがないか、常にアンテナを張り巡らせている。今回黒潮町にフォーカスした経緯としては、四国ツーリズム創造機構主催の「四国　持続可能な観光推進ネットワーク」において、黒潮町観光ネットワーク様がTOP100選を狙いたいとおっしゃっていたので、黒潮町に意向確認をしたところ了承いただいた。
昨年徳島県牟岐町にてワークショップを開催した際、一部の参加者より横文字が理解できないため平易な言葉で説明してほしいと希望があり、今回は極力地域に暮らす人々がわかるよう、誰もが理解できるような平易な言葉を使用して進めていると理解をしている。今後アセスメントレポートの作成やワークショップをやりながらアクションプランを作っていくため、黒潮町がTOP100選を目指していくうえで、少しでも役に立てればと思っている。

6.閉会

4-3.中間報告会

（1）実施概要

敬称略

- 日時　　：令和6年12月20日(金) 13：00～14:00
- 実施方法：対面＋オンライン(Zoom)
- 会場　　：黒潮町役場 中会議室　及び オンライン（Zoom）
- 参加者　：38名（次頁参照）
- 内容　：

1. 開会の辞　国土交通省 四国運輸局 観光部　観光地域振興課　課長　櫛田　哲也
2. 事業進捗報告　リベルタ株式会社　林　美希子、横内　直子
3. 意見交換・質疑応答
4. 挨拶
   秋森　弘伸（黒潮町役場産業推進室　室長）
5. 閉会の辞　国土交通省 四国運輸局 観光部　観光地域振興課　課長　櫛田　哲也

会議の様子

（２）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	中間報告会	WS②	役職
1	黒潮町	山本　祥平	やまもと　しょうへい	ネスト・ウエストガーデン土佐	○	○	代表
2	黒潮町	秋森　香	あきもり　かおり	黒潮町商工会	○	○	
3	黒潮町	村上　健太郎	むらかみ　けんたろう	(特非）ＮＰＯ砂浜美術館	○	○	理事長
4	黒潮町	植木　栄造	うえき　えいぞう	海辺のガラス工房kiroroan	○	×	代表
5	黒潮町	明神　慶	みょうじん　けい	道の駅なぶら土佐佐賀	○	×	駅長
6	黒潮町	橋田　和人	はしだ　かずと	一般社団法人であいの里　蟠川	○	○	代表理事
7	黒潮町	西　勝巳	にし　かつみ	幡東森林組合	○	×	参事
8	黒潮町	小松 孝年	こまつ　たかとし	大方球場を守る会	○	○	
9	黒潮町	ブルース・ディロン	ぶるーす・でぃろん	幡多サーフ道場	○	○	代表
10	黒潮町	澳本　哲也	おくもと　てつや	西南珈琲(カフェロッシ46）	○	×	代表
11	黒潮町	藤崎　毅	ふじさき　つよし	佐賀北部地域活性化推進協議会（集落活動センター佐賀北部）	○	○	支援員
12	黒潮町	上原　麗	うえはら　れい	一棟貸しの宿黒潮の家	○	○	代表
13	黒潮町	松下　卓也	まつした　たくや	浮津地区	○	○	区長
14	黒潮町	片岡　孝夫	かたおか　たかお	高知西南交通株式会社	○	○	代表取締役
15	黒潮町	田中　龍吾	たなか　りゅうご	土佐くろしお鉄道株式会社	○	○	総務部長
16	黒潮町	田島　知治	たしま　ともはる	高知県産業振興推進部計画推進課	○	○	地域支援企画員(黒潮町）
17	連携組織	森田　俊彦	もりた　としひこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	代表理事
18	連携組織	髙石　麻子	たかいし　あさこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	事務局長
19	連携組織	瀧本　淳平	たきもと　じゅんぺい	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	○	地域おこし協力隊
20	連携組織	三浦　治	みうら　おさむ	（一社）幡多広域観光協議会	○	○	事務局長
21	連携組織	秋森　弘伸	あきもり　ひろのぶ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	室長
22	連携組織	宮川　智明	みやがわ　ともあき	黒潮町役場　環境政策室	○	○	室長
23	連携組織	村越 淳	むらこし　じゅん	黒潮町役場　情報防災課	○	○	課長
24	連携組織	宮川　雅一	みやがわ　まさかず	黒潮町　教育委員会	○	×	教育長
25	連携組織	山﨑　裕也	やまさき　ひろなり	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係長
26	連携組織	伊藤　翼	いとう　つばさ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係
27	連携組織	小野日菜子	おの　ひなこ	黒潮町役場　産業推進室	○	○	観光係
28	オブザーバー	竹内　里見	たけうち　さとみ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	チームマネジャー
29	オブザーバー	井上　郷平	いのうえ　きょうへい	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
30	オブザーバー	大上　莉賀子	おおうえ　りかこ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
31	オブザーバー	佐伯　友里恵	さいき　ゆりえ	一般社団法人　四国ツーリズム創造機構	オンライン	×	マネジャー
32	オブザーバー	小栗　充裕	おぐり　みつひろ	株式会社四国銀行　地域イノベーション部	オンライン	オンライン	主任
33	事業実施主体	櫛田　哲也	くしだ　てつや	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	○	課長
34	事業実施主体	福池　愛	ふくいけ　あい	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	○	外客来訪促進係長
35	受託事業者	林 美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○	執行役員　兼　部長
36	受託事業者	横内 直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	○	トラベルコンサルタント
37	受託事業者	池田　真理子	いけだ　まりこ	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	×	部長/エディター
38	受託事業者	大沼 栞	おおぬま　しおり	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	×	デザイナー

（３）実施内容

1. 開会の辞

【国土交通省 四国運輸局 観光部　観光地域振興課　課長　櫛田 哲也】
今年の10月に着任して、本事業の途中からの参加になるが、本事業の経緯や8月の開始時会議の記録などその他資料を確認し、また本日参加するにあたってこれまでの黒潮町の取り組み、特に2012年3月に南海トラフ時の津波想定高34mの被害想定公表がなされて以降の取り組みについても拝見した。「あきらめない、揺れたら逃げる」といった合言葉や、大きな津波避難タワーの整備、夜間の訓練、缶詰工場と連携した取り組み などを拝見し、まさに町の皆さん、住民の皆さんを挙げての“生の取り組み”がなされてきており、地域の方の強い思いを感じている。
近年、世界中の旅行者の約7～8割が、サステナブルな持続可能な旅行ができるということを重視して旅行先を選ぶという結果が出ている。まさに本事業でテーマとしている防災ツーリズムとCBT（コミュニティベースドツーリズム）はそれに該当すると感じている。住む人も来る人も共に支えるという意味で、地域で様々な立場にいらっしゃる方に積極的に関与していただき、黒潮町を訪れた外国人の方に消費していただき、それを地域に還元することで持続可能な経済循環に繋がっていければと思う。
現在、四国においてはコロナが明けて以前の勢いが戻りつつあるとはいえまだまだ偏りがあると思う。一方で、今年はグリーン・デスティネーションズのアワードにおいて小豆島や大洲市などが四国で初めてシルバー賞を受賞し、TOP100選でも去年までで四国から6つのエリアが選ばれている。サステナブルツーリズムにおいて、四国は先進的な地域だと思う。
本事業による黒潮町の取り組みも合わせ、その機運を高めていくことができればと思う。
本日は中間報告会、第2回目のワークショップを通して、デスティネーションプロフィールやアセスメントレポートをうけた今後の方向性について話し合い、年度末3月までのアクションプランの取りまとめ、防災手帳作成にも活かしていきたい。皆様から率直なご意見・アドバイス等を伺いたいと思う。

2.事業進捗報告

林 美希子（リベルタ株式会社）
横内 直子（リベルタ株式会社）

【現地調査実施報告】

JSTS-D調査の報告：リベルタ 林・横内
　日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の指標を用いて黒潮町の観光に関する調査分析を行った。JSTS-Dは観光地の健康診断として機能するもので、世界基準に基づく4分野（マネジメント、経済循環、文化、環境）113の指標で構成されている。
　既存の取り組み状況を診断すると同時に、地域課題への対応も並行して進める事業設計を採用。特に観光防災の分野において、黒潮町の先進的な取り組みと多言語対応の必要性を確認した。

・デスティネーションプロフィール
　町の観光地としての地域属性や全体像を明確化し観光分野の基礎情報として共有するため、JSTS-Dデスティネーションプロフィールを作成した。
地域の基本情報として、人口、面積、人口密度、自然環境、観光地区分、CO2排出量などを収集。地域経済循環分析では最新データの入手が課題。観光客の平均消費額は1人当たり1.6万円で、全国平均（6万円）を下回る状況であることを確認した。
　観光資源としてスポーツ合宿、砂浜美術館、ホエールウォッチング、歩き遍路、観光防災などの多様な要素を有することを確認。持続可能な観光に関する研修やセミナーの実施状況も記録した。

・アセスメントレポート

JSTS-Dの指標に基づく113項目について5段階評価で実施。結果は、マネジメント(74.1%)、社会経済(74.2%)、文化(85.3%）、環境(65.5%)、合計スコアは417ポイント（達成度73.8%）と、概ね取組みが確認できる状況で、バランスの取れた評価結果が得られた。特に文化面での高評価が特徴的。

今後の課題として、連携強化（観光・防災・教育委員会等の部署間連携）、観光における危機管理体制の整備、環境・文化的な貢献の強化を提示。

防災手帳の作成について：リベルタ 林・横内

外国人観光客の受け入れ環境整備として、黒潮町防災手帳を作成する。

・現地調査（現地ヒアリング・避難ルート踏査）

4回にわたる現地調査を実施。観光関連事業者、宿泊施設、飲食店、外国人移住者など17件のヒアリングを実施。調査結果として、地域住民の防災意識は高く、避難訓練や非常用持ち出し袋の準備が徹底されている一方、避難誘導看板の老朽化や、施設による避難ルート整備のばらつきなどの課題を確認。道の駅での避難ルート踏査では、避難場所までの所要時間や、ルート上の障害物の存在、土地勘のない来訪者への配慮の必要性などを確認。

・外国人への防災アンケート集計結果

英語圏30件、中国語圏28件のアンケートを実施。防災情報の事前収集は少数派だが、気象庁情報やGoogle、宿泊施設ホームページなどで情報収集する傾向を確認。サイズはパスポートサイズの要望が多く、閉じ方は中国語圏で右綴じ75%、英語圏で左綴じ100%と明確な違いを確認。ユニバーサルカラーデザインに関して、中国語圏とアジア圏で色の見え方に関する違いを確認（中国語圏：Cタイプ39.3%、英語圏：Pタイプ53.3%）。

・防災手帳の仕様について

サイズは管理運用面とコミュニケーションツールとしての実用性を考慮し、A5サイズを採用予定。言語は日本語・英語・繁体字の3言語併記で1パターンに統一。デザインは防災関連のステレオタイプの物々しいデザインではなく、黒潮町らしい落ち着いたデザインを採用し、黒潮町で作られる缶詰のパッケージのようにインテリアとしても機能するよう配慮したデザインで進める方針。配布方法は無料配布から宿泊施設等への設置型に変更。

内容は一般的な内容（例：「南海トラフとは」など）では割愛し、避難時の実用的な情報（防災無線の多言語翻訳、QRコードによる音声案内等）を重視。500部作成予定。

3.挨拶

【黒潮町 黒潮町役場 産業推進室 室長 秋森 弘伸】
当町においては少子高齢化の進展も著しく、耕作放棄地や空き家等も多くなっている状況にあり、計画的にも厳しく感じられるところもあり、様々な課題を有している状況にある。持続可能な観光地を目指すにあたっても、町内に住んでいる方々の生活や各事業者に携わっている方々があってのものと考える。そして、今ある観光資源の保全や観光事業の推進を図っていくに当たっては、本日お集まりの皆様の力が必要不可欠となる。
黒潮町に来ていただけるお客様にも支持され、満足されるようなものとなるよう、皆様のご意見を伺い、持続可能な観光地にできるよう、ともに取り組んでまいりたい。皆様のご協力をお願いしたい。

4.閉会の辞

【国土交通省 四国運輸局 観光部　観光地域振興課　課長　櫛田 哲也】
いよいよ年が明ければ、来年2025年には大阪関西万博、香川県では瀬戸内国際芸術祭という大型イベントもあり、また高知県東部ではNHK朝の連続テレビ小説「あんぱん」、高知県全体では「どっぷり高知旅」のキャンペーンなど、来年はますます西日本、四国、そして高知に国内外からの注目が集まると思われる。そういった旅行需要が見込まれる年を契機に今後も持続的に黒潮町を旅行先として選んでいただけるように、私ども四国運輸局も引き続き精一杯ご支援させていただきたい。

5.閉会

4-4.最終報告会

（1）実施概要

敬称略

- 日時　　：令和7年2月26日(水) 14：30～16:00
- 実施方法：対面＋オンライン(Zoom)
- 会場　　：黒潮町役場 大会議室　及び オンライン（Zoom）
- 参加者　：45名（次頁参照）
- 内容　：

1. 開会の辞　国土交通省 四国運輸局 観光部 次長　上戸 康弘
2. 事業実施報告　リベルタ株式会社　林　美希子、横内　直子
3. 意見交換・質疑応答
4. 挨拶

   西村　康浩（黒潮町役場　副町長）

   三浦　治（幡多広域観光協議会　事務局長）
5. 閉会の辞　国土交通省 四国運輸局観光部　観光地域振興課　課長　櫛田　哲也

会議の様子

（２）参加者

順不同・敬称略

	区分	氏名	読み	所属	出欠	役職
1	黒潮町	山本　祥平	やまもと　しょうへい	ネスト・ウエストガーデン土佐	○	代表取締役社長
2	黒潮町	吉田　かずみ	よしだ　かずみ	(有)ソルティーブ	○	
3	黒潮町	境　文子	さかい　ふみこ	黒潮カツオ体験隊(黒潮一番館)	○	
4	黒潮町	村上　健太郎	むらかみ　けんたろう	(特非）ＮＰＯ砂浜美術館	○	理事長
5	黒潮町	塩崎　草太	しおざき　そうた	(特非）ＮＰＯ砂浜美術館	○	観光部・部長
6	黒潮町	明神　慶	みょうじん　けい	道の駅なぶら土佐佐賀	○	駅長
7	黒潮町	橋田　和人	はしだ　かずひと	一般社団法人であいの里　蟠川	○	代表理事
8	黒潮町	吉田　耕一	よしだ　こういち	幡多信用金庫　入野支店	○	
9	黒潮町	小松 孝年	こまつ　たかとし	大方球場を守る会	○	
10	黒潮町	周治　輝峰	しゅうじ　てるみね	いろりや	○	
11	黒潮町	上原　麗	うえはら　れい	一棟貸しの宿黒潮の家	○	
12	黒潮町	松下　卓也	まつした　たくや	浮津地区	○	
13	黒潮町	下村　智秀	しもむら　ともひで	土佐くろしお鉄道株式会社	○	企画課　課長
14	黒潮町	山本　倫	やまもと　みち	ゲストハウスまぁる	○	
15	黒潮町	松田　和司	まつだ　かずし	有限会社 じぃんず工房大方	○	代表取締役
16	黒潮町	越地　勇生	こしじ　ゆうい	民宿たかはま	○	
17	黒潮町	西　勝己	にし　かつみ	幡東森林組合	○	
18	オブザーバー	松本栄志	まつもと　えいじ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	統括副本部長
19	オブザーバー	松本晃一	まつもと　こういち	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	チームマネジャー
20	オブザーバー	竹内里見	たけうち　さとみ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	チームマネジャー
21	オブザーバー	井上郷平	いのうえ　きょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	マネジャー
22	オブザーバー	藤井椋平	ふじい　りょうへい	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	マネジャー
23	オブザーバー	大上莉賀子	おおうえ　りかこ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	マネジャー
24	オブザーバー	佐伯友里恵	さえき　ゆりえ	一般社団法人四国ツーリズム創造機構	オンライン	マネジャー
25	オブザーバー	小栗　充裕	おぐり　みつひろ	株式会社四国銀行　地域イノベーション部	オンライン	主任
26	連携組織	西村　康浩	にしむら　やすひろ	黒潮町役場	○	副町長
27	連携組織	秋森　弘伸	あきもり　ひろのぶ	黒潮町役場　産業推進室	○	室長
28	連携組織	山崎　裕也	やまさき　ひろなり	黒潮町役場　産業推進室	○	観光係
29	連携組織	伊藤　翼	いとう　つばさ	黒潮町役場　産業推進室	○	観光係
30	連携組織	小野　日菜子	おの　ひなこ	黒潮町役場　産業推進室	○	観光係
31	連携組織	西森　福人	にしもり　ふくと	高知県観光振興スポーツ部地域観光課	オンライン	チーフ
32	連携組織	福井　剛志	ふくい　たけし	高知県観光振興スポーツ部地域観光課	オンライン	主幹
33	連携組織	村越　淳	むらこし　じゅん	黒潮町役場　情報防災課	○	課長
34	連携組織	宮川　智明	みやがわ　ともあき	黒潮町役場　環境政策室	○	室長
35	連携組織	三浦　治	みうら　おさむ	幡多広域観光協議会	○	事務局長
36	連携組織	高石　麻子	たかいし　あさこ	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	事務局長
37	連携組織	瀧本　淳平	たきもと　じゅんぺい	（一社）黒潮町観光ネットワーク	○	地域おこし協力隊
38	事業実施主体	上戸　康弘	うえと　やすひろ	四国運輸局　観光部	○	次長
39	事業実施主体	櫛田　哲也	くしだ　てつや	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	課長
40	事業実施主体	福池　愛	ふくいけ　あい	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	外客来訪促進係長
41	事業実施主体	宮崎　裕大	みやざき　ゆうた	四国運輸局　観光部　観光地域振興課	○	研修員
42	受託事業者	林 美希子	はやし　みきこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	執行役員　兼　部長
43	受託事業者	横内 直子	よこうち　なおこ	リベルタ株式会社　トラベル事業部地域開発部	○	トラベルコンサルタント
44	受託事業者	池田　真理子	いけだ　まりこ	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	部長/エディター
45	受託事業者	大沼 栞	おおぬま　しおり	リベルタ株式会社　クリエイティブ制作部	オンライン	デザイナー

（３）実施内容

1. 開会の辞

【国土交通省 四国運輸局 観光部 次長　上戸 康弘】
令和6年度 高知県黒潮町における持続可能な観光地への現状・課題調査及び受入環境整備事業について、皆様のおかげで最終報告会となった。事業開始時より度重なるヒアリング等にご協力いただき感謝申し上げる。
黒潮町では南海トラフ地震の災害に備えさまざまな防災対策を実施されている。防災教育とツーリズムを融合させた防災ツーリズムにも積極的に取り組まれている。自然の恵みと脅威と、相反する二つを理解して付き合っていくという考え方は、まさに持続可能な観光地に沿ったものであると考える。これまでの取り組みを体系化・高度化に寄与するために、アセスメントレポートを作成して、今日の報告会でアクションプランを報告させていただこうと思う。
またインバウンドの誘客を見据えて有事の避難誘導などに活用いただけるように「防災手帳」の作成にも取り組んでいる。本日の報告会の中でも皆様から貴重なご意見をいただきより完成度を上げていきたいと思う。
本事業はいったん終了となるが、引き続き黒潮町の皆様が一体となって持続可能な観光を進めていける体制を維持していただき、持続可能な観光地・四国の一翼を担っていただきたい。

2.事業報告

林 美希子（リベルタ株式会社）
横内 直子（リベルタ株式会社）

事業実施報告：リベルタ 林
・アセスメントレポート（前回の振り返り）
　JSTS-Dの指標に基づく113項目について5段階評価で実施したアセスメントレポートについて、改めて報告を行った。結果は、マネジメント(74.1%)、社会経済(74.2%)、文化(85.3%）、環境(65.5%)、合計スコアは417ポイント（達成度73.8%）とと高い実施状況を確認できた。特に環境分野では60%以上の高評価を得ており、観光資源の活用や役場、DMO、NPOとの連携体制が効果的に構築されていることが確認でき、概ね取組みが確認できる状況だった。
　JSTS-Dのロゴ使用申請については2月上旬に使用許可がすでに下りている状態で非常に良い動きが取れていると報告。今後の課題・方針としては、世界の持続可能な観光地Top100選（Green Destinations Top100 stories)エントリーを目指すとともに、一層の連携強化（観光・防災・教育・環境等の部署間連携）、観光における危機管理体制の整備、環境・文化的な貢献の強化が必要であると提示した。

・アクションプランの提案
　上記アセスメントレポートの結果やこれまでのワークショップ等の取り組み、黒潮町のアイデンティティを踏まえ、次年度以降取り組んでいくアクションプランを提案。黒潮町の目指す持続可能な観光地域像として「Zero to One ゼロからの価値を生み出す観光地域 くろしお」を提示。このビジョンは、避難放棄者・犠牲者ゼロ、ゼロ・カーボン、ゼロ・ウェイスト、ゼロ・リセット（ウェルネス）、ゼロ・プロジェクト（バリアフリー）、ゼロからの観光（レジリエンス／回復）という持続可能な観光実現に向けた６つのゼロアクションに加え、9つのターゲットと4つポリシーからなることを説明した。

・アクションプランの基本方針
基本方針0～5の中で特に優先度の高い重要アクションとして、「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の導入、国際基準「世界の持続可能な観光地TOP100選」エントリー、アセスメントレポートの定期的な見直し・評価、データを活用した「逃げるバリアフリー」の推進等の新しい取り組みを提案。また、次点として優先度の高いものとして、災害フェーズ・エリアごとの観光防災プログラムの充実や先進地視察や連携等、他地域との繋がり強化（四国内外の国際認証地域）なども挙げられた。

防災手帳の作成について：リベルタ 横内
　外国人観光客の受け入れ環境整備として災害発生の前・中・後に役立つ、黒潮町らしい防災手帳を作成する。その制作について進捗状況と使用方法等を報告した。

・外国人への防災アンケート集計結果
　英語圏30件、中国語圏28件のアンケートを実施。サイズはパスポートサイズの要望が多く、有事の使いやすさ（見やすい大きさ）よりも平時の携帯のしやすさが重視されることを確認。配色については少ないサンプル数にもかかわらず、中国語圏・英語圏いずれも配色は多様なニーズに分かれた。

・防災手帳の仕様について
　上記アンケートやワークショップ等の結果を踏まえ実用性と利便性を考慮した結果、手帳のサイズはA5サイズを採用し、当初予定していた言語別の分冊形式から、日本語・英語・繁体字の3言語を1冊に統合する形式に変更した旨を報告。配色はカラーユニバーサルデザインの観点から、ブルー、オレンジ、グリーンの3色を基調とし、色覚の多様性に配慮した設計とした。デザインについては、複数の案を検討し、平時の優しい印象と緊急時の視認性を両立させるため、表紙と裏表紙で異なるデザインを採用。内容は発災前、発災時、避難所生活の3段階で構成され、各フェーズに応じた情報を簡潔に整理して構成する。QRコードによる音声案内等や緊急時に外国人観光客と指さし会話ができるコミュニケーション支援ツールなども搭載する。
500部作成予定。

3.意見交換・質疑応答

【質問者】
防災手帳の日本語・英語・繁体字の掲載順がページによって異なっているが、ページごとに言語の構成が変わるのか。

【回答者：リベルタ株式会社 横内直子】
最終的には統一した形で進めていく。

【質問者】
コミュニケーションツールについて、見本を見る限り、日本人の施設側がアクションするような言葉が採用されおり、施設側の負担が大きくなる懸念がある。例えば「すみません」「どこに逃げたらいいですか」「一緒に行ってもいいですか」などの簡単な会話が観光客側からアクションできたり、日本語で発声できたりするようなツールや読み物にしてはどうか。あるいは動画などのコンテンツも一緒に入れてはどうか。

【回答者：リベルタ株式会社 林美希子】
今回用意したサンプルページが2ページしかなかったため、十分に伝えきれていなかったが、基本的にはツールを使う人間の主語は旅行者を想定している。旅行者主導で「これが困っているから聞きたい」というように活用できるものにする。「すみません」などといったコミュニケーションが始まる最初期にも対応できるような言葉もきちんと入れていきたい。
受託制作という立場から対応できる部分は限られるが、そういったご意見は今後の展開としてまた検討いただければと思う。

【質問者】
防災手帳はいつから実施配布されるのか。巷では2025年7月5日に何かが起こるというような風聞もあり、旅行者は心配しているのではないか。

【回答者：リベルタ株式会社 横内直子、林美希子】
今年度中にデータを完成し、その後印刷を行う予定。完成次第速やかに連携先や観光ネットワーク様などに送付し、各所に設置をお願いする段取りになっている。来年度の早い段階でお手元においていただけることを想定している。
本事業自体が今年度3月までに完成させるという工程で制作しているため、完成・配布を早めるなどの対応は難しく、ご理解頂きたい。

【質問者】
防災手帳はどのように配布するのか？

【回答者：リベルタ株式会社　林美希子】
当初は道の駅などに無料設置する方が良いと想定していたが、例えば日本人の観光客や地元の方などが持って行ってしまい届けたい人に届けられないことが懸念される。よって、旅行者に手に取ってもらうには、滞在中に長い時間を過ごす宿泊施設がまず第一の設置個所と考える。設置目標としては町内の宿泊施設にはすべて配置する、という目標で進めていきたい。それ以外に、道の駅や飲食店など、全体で500部をどこに設置するのが良いかを観光ネットワーク様の方でも調整・検討いただいている。

4.挨拶

【幡多広域観光協議会 事務局長　三浦 治】
いろいろなケースがあるため防災手帳というものはなかなか難しい部分もあると思うが、良いものを作っていただきたい。世界の持続可能な観光地Top100選へのエントリーをしており、ぜひとも持続可能な観光地として頑張っていきたいという思いもあるため、高知県の中の第一号として黒潮町に選定を取っていただき、あわよくばアワードまで獲得していただければとてもありがたいと思う。
他の市町村についてもそれに続いていただけるよう、協議会としてもGSTCトレーニングを独自に開催するなど、いろいろな施策で皆さんと持続可能な観光地づくりに取り組んでいきたいと考えている。今回の黒潮町の事業は私たちにとっても勉強になった。今後も一緒に頑張っていきたく、支援も引き続きさせていただきたいので、よろしくお願いしたい。

【黒潮町役場 副町長　西村 康浩】
事業を担当したリベルタ株式会社をはじめ、本日来場している方々もいらっしゃると思うが、現地調査等々にご協力いただいたことに、この場をお借りして御礼申し上げる。
事業については、JSTS-Dの指標に基づいた調査やアセスメントレポートの作成、さらに防災手帳の作成などについての本日の報告会を聞きながら、今後の黒潮町においてこの観光事業の推進を図っていくうえで本当に大変重要なものになると感じている。
来年度は大阪関西万博、そして瀬戸内国際芸術祭等々の大きなイベントも控えており、またNHKの連続テレビ小説「あんぱん」の放映もある。これに関しては黒潮町が直接関係あるわけではないかもしれないが、高知県には多くの皆様が来て、国内外から四国や高知県が大きく注目される年となる。こういった観光客の動きもある中で、今後は旅行先に選定される、選んでいただける町となれるよう、今回の調査結果も踏まえながら、文化・環境など各所と連携を図りながら観光における体制を整備し、持続可能な観光地づくりを町全体で進めていきたいと考えている。
また、今回の調査で見えてきた課題も含め、今後さらなる持続可能な観光地となるべく、しっかりと整備の方も進めてまいりたいと考えている。今後も引き続き皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

5.閉会の辞

【国土交通省 四国運輸局観光部　観光地域振興課　課長　櫛田 哲也】
昨年末の事業開始時より、ワークショップへの参加やヒアリングの際のご協力など、皆様からお力添えいただいたことに感謝申し上げる。デスティネーションプロフィールやアセスメントレポート、防災手帳の作成などの取り組みで、皆様からの意見を丁寧に吸い上げていただき、また調査で得られた知見を踏まえて、黒潮町の持続可能な観光地づくりの取り組みを精力的に取り組んでいただいたリベルタ株式会社の方々にも御礼申し上げる。
今年1月13日には、皆様にも記憶に新しいと思うが、日向灘で地震が発生し、沿岸部に津波注意報が発令され南海トラフ臨時情報が発表された。常に自然の驚異と隣り合わせだということにあらためて気づかされた。
また、私事にはなるが、先日開催された四国ツーリズム創造機構主催の持続可能な観光推進ネットワーク会議に参加し、大洲の街並みの現地視察をする機会があった。その際、DMOのキタ・マネジメントの方から「大洲のまちというのは、肱川の恵みによって発展した反面、毎年のように川が氾濫するため、その脅威とも向き合ってきた」という話があった。まさに黒潮町が向き合っているものと同じであり、自然と付き合っていく持続可能な地域というのはそういうことなのだと改めて考えた。そのためには行政やDMOだけでなく、地域の皆様、地域の様々な立場にいらっしゃる皆様の理解と協力が不可欠となると思う。
JSTS-Dロゴマークを取得し、また持続可能な観光地Top100選（Green Destinations Top100 stories)に近々エントリーも予定しているとのことで、黒潮町の持続可能な観光地づくりは今後より具体的なものになっていくと思う。四国運輸局において実施させていただいている本事業においてはこれで終了となるが、黒潮町の持続可能な観光地域づくりに向けての一つの通過点として、皆様には引き続きお力添えをお願い申し上げ、本事業終了の挨拶としたい。

閉会

5.本事業の成果

5-1.定量・定性成果

本事業の各業務における定量目標と事業成果は次のとおりである。

項目	定量目標	事業成果
1.持続可能な観光地への現状・課題調査		
デスティネーションプロフィールの作成	1式	1式
アセスメントレポートの作成、分析、とりまとめ	1式	1式
ワークショップの実施	現地にて3回	現地にて3回
アクションプランの改定・細分化	1回	1回
2.受入環境整備		
黒潮町防災手帳の作成　対応言語	3言語（日・英・繁体字）	3言語（日・英・繁体字）
防災手帳作成に向けたアンケート（外国籍もしくは海外出身者）	50名以上	58名
防災手帳作成に向けた地域関係者ヒアリング	30名以上	30名
配布用黒潮町防災手帳の印刷製本	英語・繁体字　各250部	英語・繁体字併記　500部
3.事業全体の運営管理		
報告会の実施	3回	3回

前項に加え、本事業の定量成果は次のとおりである。

1.持続可能な観光地への現状・課題調査

・アセスメントレポートを作成、分析することを目的とした現地ヒアリングにおいては、例えば蜷川地区では津波が来る心配はないが、農業をしている人が多く、停電になると大きな被害が想定されるなど、地区によって支援の必要なフェーズが異なることが明らかになった。

・全3回実施されたワークショップや現地ヒアリングを通して、黒潮町は「スポーツツーリズム」「防災ツーリズム」「エコツーリズム」を柱とする黒潮町らしいストーリーに紐づけられた観光プログラムが企画・開発・催行されており、インバウンドだけでなく国内旅行者を誘致するための資源や実績を有することが明らかになった。今後どのような目的と方向性で観光を推進していくかについて、議論するきっかけとなった。

2.受け入れ環境整備

・防災手帳の作成について、当初の予定では英語・繁体字各250部を作成し、観光客が訪れる可能性が高い施設に無料配布をする予定だったが、地域の方との話し合いを重ねる中で、現時点では英語圏・中国語圏からの来訪者の数に偏りがあることや、手帳を受け取ったのちに町外に出てしまったときにいざというときの防災手帳としての機能が十分に発揮できないという懸念から、日本語・英語・繁体字を併記した1種類の防災手帳を500部作成、設置場所についても宿泊施設を中心にするなど、実態に応じて仕様及び設置場所を変更した。

5-2.総括

本事業では、持続可能な観光地経営についての第一歩として、地域の現状、あり方、課題等に関する調査業務（JSTS-D調査業務）を進めながら、将来に向けた受け入れ環境整備の具体的アクションの一つとして防災手帳の作成業務を並行して実施した。

日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）を活用し、地域の強みや課題を整理したところ、観光客への緊急時避難誘導などの受入体制には、まだまだ課題があることが分かった。この結果を踏まえ、地域の人々と意見を交わしながら、具体的な観光アクションプランを策定した。地域の課題現地調査では、町内の主要観光スポットからの避難シミュレーションや各宿泊施設の環境整備状況を確認した。その結果、観光客の目線では「情報不足」によって避難困難者が出ることが懸念された。
そこで提案したのが、ソフト面での「逃げるバリアフリー」整備である。地域住民に加え、来訪者も含め、すべての人を対象に「誰一人とりのこさない」ために、必要な情報を適切かつ迅速に届ける観光防災アクションを進めることを提案した。

重点施策1：現在地からの避難ルートナビゲーション、QRコード整備
観光で訪れた人にとって、緊急時（一刻の猶予もない状況下）の避難は、ルートや方角、所要時間が分からず、情報不足がバリア（障壁）となる。まずは既存の防災アプリの普及啓発を進めることが大前提だが、防災アプリをインストールしていない場合、発災時に冷静にアプリをインストールするのは難しい。おそらく、避難の遅れにつながる。そこで、現在地から最寄りの避難場所までの地図＆避難ルートナビゲーションにダイレクトアクセスできるQRコードを設置することで、大幅な時間短縮とスムーズな避難を実現できる。

重点施策2：コミュニケーションツールとしての防災手帳の作成
言語や情報不足のハードルがある海外からの旅行客が、安心して黒潮町を訪れ、滞在できるよう、防災手帳を作成した。作成にあたっては、現地調査や地域住民の意見、外国人を対象に事前に実施したアンケート結果をもとに、手帳の構成や内容、カラーデザインなどを検討。最もこだわったのは「黒潮町らしさ＝KUROSHIO STYLE」である。自然の恩恵と脅威、二つの側面と向き合いながらこの町に暮らす黒潮町の人々のアイデンティティを手帳にも表現するため、防災手帳のコンセプトを「日常と非常の二面性」とした。日常では防災意識啓発につながる読み物として機能し、非常時には避難情報や住民との指差しコミュニケーションツールとして活用できるようにした。

黒潮町が地域防災で大切にしてきた「被害者ゼロ」という考えに基づき、この事業ではその対象を住民だけでなく来訪者にも広げ、「住民も来訪者も誰一人とりのこさない」という逃げるバリアフリー化の第一歩を踏み出した。今後、黒潮町の観光防災における受入体制がさらに強化され、四国だけでなく観光防災対策が求められる地域の先進地となり、「被害者ゼロ」の取り組みが全国に広がることを期待する。